

刑訴法講義目錄

第一編 總則

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第一節 告訴及ヒ告發

第二節 現行犯罪

第二章 起訴

第三章 豫審

第一節 令狀

十、六丁

百六十二丁

百六十三丁

二百一丁

二百二十二丁

全

二百三十二丁

二百五十三丁

二百六十九丁

二百八十三丁

二百八十九丁

一



第二節	密室監禁	三百二十七
第三節	證據	三百三十六
第四節	被告人ノ訊問及ヒ對質	三百五十一
第五節	檢證搜索及ヒ物件差押	三百六十二
第六節	證人訊問	三百八十一
第七節	鑑定	四百二十三
第八節	現行犯ノ豫審	四百三十二
第九節	保釋	四百五十三
第十節	豫審終結	四百六十九

刑事訴訟法講義目錄終

刑事訴訟法講義

日本法律學士磯部四郎著



古語ニ曰ク貴ヲ疑ハシキハ重キニ從ヒ罪ノ疑ハシキハ輕キニ從フト
 善哉言乎罪惡ヲ必罰シ邪慝ヲ懲戒シ以テ社會ノ安寧秩序ヲ保持シ良
 民ヲシテ其所
 得セシムルハ法律制定ノ目的ナリ故ニ刑法ノ設ケナ
 カルニシテ
 雖尼荷モ罪惡ノ嫌疑アル者ハ其犯狀ノ如何ヲ問ハス
 其證據ノ有無
 論セス濫リニ刑法ヲ使用シテ毫モ寬假セサルヲ以テ
 刑法ノ
 得タルモノトセハ良民ヲシテ其所ヲ得セシムルノ目的
 ハ一變シテ寧ロ人權ヲ枉屈セシメ自由ヲ抑壓スルノ惡結果ヲ來スナ
 キヲ知ル可カラヌ古語ニ所謂罪ノ疑ハシキハ輕キニ從フトハ罪惡ヲ

懲罰セサルノ謂ヒニアラス完全無缺ナル法律モ亦司法者其人ヲ得ス
 シテ濫リニ處刑ヲ行フアラハ往々無辜ノ良民ヲシテ冤枉ノ中ニ沈淪
 セシムルノ恐レナキニアラス故ニ一獄ヲ處斷シ一罪ヲ懲罰スルモ尙
 ホ戰々競々トシテ司法ノ職務ヲ慎ミ輕忽ニ法律ヲ使行スヘカラスト
 云フニ外ナラス是レ刑法ノ制定ヲ得ルニ從ヒ刑事訴訟法ノ設備ナカ
 ルヘカラス所以ナリ
 抑モ吾人社會ハ罪惡發生ノ不良田ニアラス百善百美ノ種植地ナリト
 雖モ社會ノ既往ヲ追觀スルニ優勝劣敗ハ人事ノ常態ナリ弱肉強食ハ
 慾界ノ通常ナリトシテ其極ヤ百種ノ罪惡ヲ發生スルニ至ルハ亦是レ
 社會ノ疾病トシテ殆レ難キノ弊害ナリトス故ニ若シ社會ヲ無檢束ノ
 中ニ放在セシメハ吾人ハ將タ何ニ倚テ安息センヤ身體ノ安危スラ尙
 ホ且ツ測ラレス矧ンヤ財産ヲヤ是レ社會ト名クル人民集合ノ一團體

ヲ爲シタル以上ハ世ノ古今ヲ問ハス國ノ大小ニ拘ハラズ必ス刑法ノ
 制定ナカルヘカラス所以ナリ然レモ法律ハ人造法ノミ理論ノ組織
 體ノミ假令ハ金匱無缺ノ善美ヲ盡シタリトスルモ決シテ有機物ヲ以
 テ視ル可キモノニアラス其レ然矣法律ハ自活自働シテ能ク社會ノ秩
 序安寧ヲ保護スルノ天然力ヲ有スルモノニアラス然ルニ百種ノ罪惡
 ヲ未萌ニ防遏スルハ獨リ刑法ノ自力ナリ吾人ノ身體財産ハ以テ唯一
 ノ刑法ニ托スヘシト云フカ如キハ理論上ノ想像說ニ過キスシテ未タ
 法律ノ利用如何ヲ知ラサル者ノ言ト云フ可シ予ヲ以テ之ヲ視レハ刑
 法ハ緊要必須ノ治世器械タリト雖モ果シテ能ク其治ヲ致スト否トハ
 刑法ノ自力ニ在ラスシテ之ヲ活用スルト否トニ在リテ存スト云フヘ
 シ故ニ刑法ノ組織ハ完全無缺ニシテ微ニ涉リ細ニ及ヒ百種ノ罪惡ヲ
 懲遏スルニ於テ寸隙ナカラシムルニアリトスルモ畢竟スルニ是レ治

世ノ器械タルニ過キサルヲ以テ若シ之ヲ使行スルニ當リ其方法ノ宜キヲ得サルトキハ又何ノ効益カアル予ハ之ヲ兵器ニ喩フヘシ今夫レ堅牢ナル鐵艦ヲ以テ成立シタル百隻ノ艦艦ヲ港灣ニ泛ヘ硬固ナル石材ヲ以テ築造シタル砲台ノ砲台ヲ沿岸ニ備ヘ之ニ一兵卒ヲモ配置セシテ以テ海防ノ實ヲ得タリトスル乎必スヤ此艦艦ヲ運轉シ此砲台ヲ守衛スル兵士アリテ而シテ後チ海防ノ實ヲ得タルモノト云フヘシ然レモ唯タニ百千萬ノ兵士ヲ配置シタルノミヲ以テ足レリトシ若シ規律ノ設ケアラズンハ其指揮行ハレスシテ宛モ烏合ノ兵ニ異ラス豈ニ百戰百勝ヲ期スヘキモノナランヤ法律其者ト雖モ亦然リ是レ何レノ邦國ト雖モ既ニ刑法ノ制定アル以上ハ獨リ是ノミニ依頼セス必ス治罪上ノ法律ヲ設定シテ以テ二者相待テ之ヲ實施セシムル所以ナリ然ラサレハ犯罪ノ搜索治及セスシテ斷獄ノ基本聳立セス動モスレハ

無辜ヲ刑シ有罪ヲ免シ其弊ノ極ヤ遂ニ司法權ノ信用ヲシテ地ニ墜チシムルニ至ルハ蓋シ免ルヘカテサルノ憂患ナリトス我邦亦夙トニ刑法制定ノ必要ヲ感シ維新ノ際早ク已ニ新律綱領ノ制定アリシト雖モ此法律ヤ舊幕律ト明清律トニ基因シタルニ過キサルヲ以テ當タニ簡ニ失シ酷ニ過クルノ嫌ヒヲ免レサルノミナラス之ヲ維新ノ人民ニ適用スルハ蓋シ其當ヲ得タリト云フヘカラス矧ンヤ人智驥ヤトシテ其歩ヲ進ムル今日ノ照代ニ於テ果セル哉之ヲ實施スルコト未タ數年ナラスシテ其不完全ナルヲ覺知シ頻リニ新法律ノ制定ヲ促シ到底完備セル刑法ノ設置アルニアラサレハ社會ノ弊害ヲ防遏スヘカテサルニ至レリ是ニ於テ乎法源ヲ佛國ノ法律ニ取り尙ホ内外ノ法律ヲ酌量シ更ニ一大法律ヲ制定セラレタリ名ケテ刑法ト云フ此法ヤ稍々刑理ノ大要ヲ得タリト雖モ尙ホ是レ有機的物ニアラサルヲ

以テ此實施ヲシテ錯誤ナカラシメントセハ須ラク使用法ノ設ケナカ
ルヘカラス故ニ刑法ニ次テ治罪法ノ制定アリシハ實ニ今ヲ距ルコト
十年前即チ明治十四年七月ニ在リキ
此治罪法ノ刑法ニ於ケルヤ其關係ハ鳥ノ雙翼ニ於ケル車ノ兩輪ニ於
ケルカ如ク二者相待ツテ始メテ其効用ヲ奏スヘキハ言ヲ俟ヌスト雖
尼尙ホ一步ヲ進メテ此兩法律ノ効用ヲ論スルトキハ予ハ斷言セン寧
ロ刑法ヲ欠クモ治罪法ヲ欠クヘカラス予カ治罪法ノ完全ヲ望ムハ刑
法ヨリモ切ナリト請フ試ミニ之ヲ鐵路ニ喩フヘシ刑法ハ則チ機關ナ
リ治罪法ハ則チ線路ナリ而シテ能ク之ヲ運轉シ一瞬間裡ニ幾數里ノ
遠キニ飛奔セシムルモノハ誰ソヤ機關手其者ナリト云ハサルヘカラ
ス今此機關手ノ任ニ當ル者ハ法官其人ナルヲ以テ若シ其人ヲ得サル
トキハ治罪法ノ設ケアリト雖尼亦刑法ヲシテ十分ノ効用ヲ爲サシム

ヘキニアラス然レニ法官ノ任ヤ機關タル刑法ノ適用ヲシテ線路タル
治罪法ヲ踐ソテ違フコトナカラシムルヲ以テ足レリトシ治罪法外ニ
於テ刑法ヲ使行スルハ敢テ許サ、ル所ナリ是ヲ以テ刑法ノ不完全ナ
ルカ爲メ吾人ニ不利ヲ與フルハ猶ホ小ナリト雖尼治罪法ノ不完全ナ
ルニ因リテ被フラシメラル、不利ハ實ニ大ナリト云ハサルヘカラス
何トナレハ治罪法コシテ尙且ツ不完全ナルトキハ明法官ト雖尼往々
ニシテ刑法ノ適用ヲ誤リ易キハ蓋シ免レ難キノ憂慮ナレハナリ盡善
盡美ノ刑法ト雖尼一タヒ之ヲ誤用スルニ至リテハ護身ノ利刀倒マニ
己レヲ刺スカ如キノ結果ヲ來タスハ嘗テ治罪法ノ設置アラサリシ時
代ニ於テ往々無辜ノ良民ヲ枉屈セシメタル實例ニ乏シカラサルヲ以
テ推スヘキナリ

嗟呼治罪法ノ不完全ナルヨリ吾人ノ權利ヲ枉屈セシムルニ至ルノ弊

害ハ實ニ刑法ノ不完全ヨリ被ラシメラル、不利ニ數倍スト云フヘシ若シ夫レ單ニ刑法アリテ治罪ノ方法未タ定ラストセン乎吾人ハ一日モ安息スルコトヲ得サルヘシ管タニ安息ヲ得サルノミナラス吾人ハ亦焉ンソ明日不幸ニシテ嫌疑ノ及フ所ト爲リ忽チニシテ鐵檻ノ下ニ呻吟セシメラル、ニ至ルナキヲ知ランヤ請フ想ヘ今纔カニ治罪ノ方法ヲ制定スルアリト雖モ其組織疎漏ニシテ完全ナラス豫審判事ニ與フルニ無限ノ職權ヲ以テスルカ如キアラハ百世ノ後若シ暴權ヲ逞フスル法官ノ出ルニ遭遇セハ其職權ノ無限ナルヲ奇貨トシ苟モ嫌疑ノ存スル者ハ其證據ノ有無ヲ問ハス濫リニ之ヲ捕縛シテ囹圄ニ投スルニ至ラハ吾人ハ果シテ冤枉ニ沈淪スルノ憂ヒナシトスル乎吾人ハ憐々トシテ唯タ嫌疑ヲ免レノコトヲ之レ憂ヒ又何ノ暇カ寢食ヲ安ンセシヤ吾人ハ此ノ時ニ際シ唯一ノ刑法ノミヲ恃ミ以テ其冤枉ヲ免レ

ント欲スト雖モ刑法ハ吾人ヲ保護スルニアラスシテ寧ロ暴權ヲ助クルノ利器タルニ歸スルアラソミ
 斯ノ如ク治罪法ノ不完全ヨリ生スル弊害モ嗟呼亦大ナリト云フヘシ故ニ我治罪法ノ制定アルヤ當時泰西ノ法律ニ則リ頗ル善美ヲ盡クシ公訴法ノ公明ナル審判法ノ緻密ナル復タ一點ノ缺遺ナカラシメタルハ予モ亦敢テ之ヲ信シ既ニ其義ヲ講シ其理ヲ解キ數篇ノ著アリト雖モ凡ソ法律ハ實施ノ後ニアラサレハ未タ其果シテ實際ニ適合スルヤ否ヤヲ斷言スヘカラス然レモ予ハ敢テ立法官ノ注意周到ナラストシテ之ヲ責ルニアラス凡ソ法律ノ何タルヲ問ハス新法ニ係ルモノハ皆然リトス古來何等ノ法律ト雖モ數回ノ改正ヲ經スシテ能ク其完璧ヲ爲スモノハ未タ曾テ之レ有ラサルヘシ我治罪法ノ如キモ亦然リ指ヲ屈スレハ之ヲ實施シテヨリ以降未タ十裘焉ヲ經過セスト雖モ數箇ノ

缺點ヲ發見シ之カ修正ヲ促カスコト既ニ久シト云フヘシ殊ニ冤枉ヲ救濟スルニ於テ最モ必要ナル上訴權ノ利用ニ關シ未ダ十分ノ伸暢ヲ得セシメサリシカ如キハ缺點ノ最モ大ナルモノト云フヘシ故ニ治罪法ノ改正ハ今日遽カニ之ヲ促カシタルニアラス實ニ十年來ノ實驗上ヨリ促カサレタルモノト云フヘシ

今ヤ新法典ノ編纂全ク成リ既ニ民法商法ノ發布ト共ニ民事訴訟法ノ制定アリ此時ニ及ンテ猶ホ未ダ刑事訴訟法即チ治罪法ノ修正アラスノハ實ニ一大缺點ト云ハサルヘカラス何トナレハ諸他ノ法典既ニ完備ヲ告ケテ刑事上ノ法典之ト趣旨相ヒ合ハサルカ如キアラハ實際ノ不都合亦云フヘカラサレハナリ矧ンヤ治罪法ノ修正ハ司法省ノ渴望措カサル所ノモノニ屬スルニ於テヲヤ是ニ於テ乎刑事訴訟法ハ本年十月第六日ヲ以テ公布セラレタリ蓋シ刑事訴訟法ハ民事訴訟法ノ民

法ニ於ケルカ如ク刑法ト相俟テ社會ノ安寧秩序ヲ保持スヘキ最終ノ手段トシテ欠ク可カラサルノ一大要具トス

而シテ此新法ヲ治罪法ト稱セシテ刑事訴訟法ト名ケタルモノハ既ニ民事ニ關スル訴訟ノ方法ヲ規定シタル法律ヲ民事訴訟法ト稱セシヲ以テナリ蓋シ民法ノ實施法ヲ民事訴訟法ト稱スル以上ハ刑法ノ實施法モ亦刑事訴訟法ト名クルハ最モ其當ヲ得タリト云フヘシ名稱ノ如キハ之ヲ治罪法ト爲スモ又ハ刑事訴訟法ト爲スモ法律ノ効用ニ影響ヲ及ホスヘキニアラサルハ論ヲ俟タスト雖モ凡ソ名正シカラサレハ事順ナラス今夫レ法律ノ完全ヲ致サントセハ宜シク先ツ其名ヲ正サ、ルヘカラス蓋シ是レ舊治罪法ヲ廢シテ新法ヲ制定スルト同時ニ刑事訴訟法ノ名稱ヲ下シタル所以ナリ

然リ而シテ此刑事訴訟法ハ之ヲ舊治罪法ニ比スレハ果シテ如何ナル

善美ヲ増加シタリトスルヤ世人ハ先ツ其條數ノ増減ニ依リテ臆斷ヲ下スアラン乎舊治罪法ハ四百八十條ニシテ刑事訴訟法ハ三百三十四條ニ五條ニ附則ヲ設ケタルニ過キスシテ舊法ヨリ減シタルコト實ニ百四十一條ナリ新法ハ一層緻密ヲ加ヘタリト云フニ拘ハラヌ却テ百四十餘條ヲ減シタル點ヨリ之ヲ視ルトキハ新法ハ唯タ名稱ヲ改メタルニ過キスシテ寧ロ舊法ヨリ粗鬆ナリト云フヘシト吁是レ何ノ言ソヤ是レ則チ予ヲシテ又新法ニ對シ講義ノ勞ヲ執ラシムルニ至リタル原因ナリ

刑事訴訟法ハ之ヲ舊治罪法ニ比スレハ實ニ百四十一條ヲ減シタリ而シテ此減削ヲ致セシモノハ即チ是レ舊法ニ改正ヲ加ヘタルノ結果ナリ試ミニ舊法ニ就テ論スルトキハ今日ヨリ之ヲ視レハ多少錯雜ニ涉リタルモノナキニアラス何トナレハ宜ク裁判所構成法中ニ編入スヘ

キモノモ猶ホ之ヲ治罪法中ニ混入セシム蓋シ諸他ノ法律未タ備ラサル時ノ治罪法トシテ之ヲ視ルトキハ尙ホ可ナルヘシト雖モ今ヤ裁判所構成法ノ制定アルニ及ンテハ此法律ト矛盾スルモノハ宜ク之ヲ削除セサルヘカラス此一點ヨリ之ヲ推論スルモ舊治罪法中ヨリ削除ス可キモノ一二ニシテ止マサル可シ且ツ夫レ十年來ノ實施上ニ於テ蛇足ト認ムルモノハ悉ク之ヲ削リ缺點ト感スルモノハ皆ナ之ヲ補ヒ苟シモ刑事訴訟法トシテ必要ナルモノ、ミヲ編纂シ復タ隔靴爬痒ノ憾ナカラシメタルモノハ即チ是レ今回發布セラレタル新法ナリ故ニ一層善美ヲ増加シタルノ點鮮カラサルハ各條ノ通讀ヲ俟テ後チ知ルヘキニアラサルナリ

然レモ世人ノ惑ヒヲ解カン爲メ新法ト舊法トヲ比較シテ其差違ノ顯著ナルモノニ付キ二三ノ要點ヲ舉クレハ新法上ニ於テ重罪犯ノ控訴

ヲ許サレタルカ如キハ其最モ顯著ナルモノト云フヘシ舊法ニ於テ獨
 リ輕罪ノ控訴ヲ許シ重罪ノ控訴ヲ許サ、リシハ實ニ缺點ノ大ナルモ
 ノト云フヘシ當時立法官ノ意思ヲ問ヘハ蓋シ曰ク重罪ハ犯罪ノ證據
 最モ明確ヲ要セシムルノミナラス重罪裁判所ハ三人ノ判事ヲ以テ組
 織シ輕罪裁判所ニ於テ一人ノ判事ヲ以テ審判セシムルモノトハ同視
 スヘキニアラス故ニ重罪ニ付テハ控訴ヲ許スノ必要ナシ且ツ泰西諸
 邦重罪ノ裁判ニ陪審官ヲ列スル法律ニ於テモ亦控訴ヲ許スノ明文ア
 ルヲ見スト是レ誤見ノ甚シキモノト云フヘシ假令我治罪法ニ於テ合
 議裁判法ヲ以テ審判セシメタルモノト雖モ陪審官ヲ設ケスシテ爲シ
 タル裁判ハ亦未ダ十分ノ信用ヲ置クニ足ラス泰西諸邦ノ法律ニ於テ
 重罪ノ控訴ヲ許サル、モノハ陪審官ノ設ケアルヲ以テナリ然ルニ我
 邦未ダ陪審官ノ設ケアラサル以上ハ罪ノ輕重ヲ問ハス均シク皆テ控

訴權ヲ有セシメ以テ萬一ニ被ルヘキ冤枉ヲ救濟セサルヘカラス故ニ
 新法ニ於テハ新タニ上訴ノ編ヲ設ケ重輕罪均シク皆控訴ヲ許セリ此
 他改正ノ重要ナルモノヲ列舉スレバ第十九條ニ於テ時効ノ中斷ハ其
 期間ノ二倍ヲ超過スヘカラスノ規定ヲ廢シテ無限トシ第二十六條
 ニ於テ裁判管轄ニ付キ刑事ハ犯罪ノ地ノミニ限ルノ範圍ヲ擴張シテ
 被告人所在ノ地ノ裁判所モ亦管轄權ヲ有セシムル等之ヲ要スルニ治
 罪法ヲ改メテ刑事訴訟法ト爲シタル精神ハ實ニ他ノ法律ト矛盾スル
 モノヲ修正シテ彼是相抵觸スルコトナカラシムルノミナラス審判手
 續ニ改良ヲ加ヘ無辜ノ良民ヲシテ復タ冤枉ニ沈淪セシムルノ憂ナカ
 ラシメシコトヲ一層期シタルニ在ルヤ照々然トシテ明カナリ
 且夫レ舊治罪法ニ修正ヲ加ヘタル細點ニ至リテハ逐條ノ解説ニ於テ
 之ヲ詳論スヘシト雖モ尙クモ舊法律ノ面目ヲ一變シタル點ニ付テ概

言スレハ其修正ハ逐條ニ影響ヲ及ホシ更ニ一大新法ヲ立テタルモノト看做シテ之ヲ論セサルヘカラス是レ予カ舊治罪法ニ付テ既ニ數篇ノ著アルニ拘ハラヌ敢テ本法解釋ノ勞ヲ執リ讀者ト共ニ法理ノ所在ヲ研究セント欲スル所以ナリ若シ夫レ疑點ノ存スル所ハ大方識者ノ明說ニ讓ルヘシト雖モ亦庶幾クハ以テ法理ノ一斑ヲ端倪セシムルコト足ラン歟

刑事訴訟法

第一編 總則

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ

斷獄處刑ハ社會ノ罪惡ヲ懲罰シテ良民ノ安息ヲ得セシムルニ在リ社

會ニシテ若シ罪惡ノ發生アラズンハ固ヨリ刑律ヲ行使スルノ必要アラサルナリ故ニ斷獄處刑ハ罪惡ノ發生ニ遭遇シテ始メテ之ヲ行フノ必要ヲ生スト雖モ其之ヲ行ハシムルニハ必ス罪惡ノ發生ヲ告ケテ之ヲ訴フル者ナカルヘカラス否ラサレハ斷獄處刑ハ決シテ成立スヘキモノニアラサルナリ何トナレハ法衙ハ告訴ヲ待テ後チ審判ヲ行フヘキモノニシテ法官其人アリト雖モ自ラ出テ、罪惡ヲ搜索スルモノニアラサレハナリ然ラハ則チ罪惡ノ發生ニ當リ何人カ之ヲ法衙ニ訴ヘテ其處刑ヲ要求セサルヘカラスト雖モ之ヲ人民隨意ノ告訴ニ放任セシカ將タ告訴主任ノ官職ヲ置テ之ヲ延サシメンカ此二者ニ於テ孰レヲカ擇取セサルヘカラス而シテ之ヲ選擇スルノ前先ツ孰レカ最モ社會ニ有益ニシテ無害ナルヤヲ問ハサルヘカラス又ハ罪惡ヲ必罰シ良民ヲ保護シ社會ノ秩序安寧ヲ維持スルノ目的ヲ達スルニ於テ孰レカ

最モ得策ナルヤヲ研究セサルヘカラス是レ刑事訴訟ニ付キ公訴ト名クル一種特別ノ求刑法ヲ成立セシメタル所以ナリ而シテ刑事訴訟法ハ此公訴法ニ依ラシムルヲ以テ得策ト是認シタルハ果シテ何等ノ理由ニ基因スルヤ須ラク先ツ之ヲ論究セサルヘカラス是レ本條規定ノ大要點ニシテ説明ノ順序ニ於テモ亦然リトス故ニ予ハ先ツ此大要點ヨリ論端ヲ開カントス

歴史上ニ就テ之ヲ按スルニ佛語ニ「アクション、ビアリツク」ト名クル所謂公訴ナルモノハ古代希臘羅馬等ノ邦國ニ在リテ罪惡ノ發生アル毎ニ人民ヲシテ之ヲ訴ヘセシメタルモノ即チ公訴ノ濫觴ニ屬シ此公訴權ハ社會ノ共有物タルモノト看做シ全ク之ヲ人民ノ隨意ニ放任セラレタリ當時人民ハ共同シテ公訴ヲ提起シ又ハ一箇人トシテ之ヲ提起シ之ヲ稱シテ「アクショニ、ボビウレール」ト云フ即チ人民ノ告訴ト謂フ

ノ意ナリ此公訴法ハ何人ト雖モ罪惡ノ發生ヲ見聞スル毎ニ之ヲ告訴セシムルニ在ルヲ以テ其範圍頗ル廣大ニシテ此方法ニ放任スルトキハ惡漢兇豎等其身ヲ容ル、ノ地ナク必ス法網ノ捕獲スル所トナリ復タ不良ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルカ如シト雖モ其實然ラス當時人民ノ告訴ニ二箇ノ大弊害ヲ生シ惡漢兇豎等ヲシテ犯罪ノ跡ヲ絶タシメントシタル目的ハ一變シテ寧ロ社會ハ罪惡ノ蹂躪スル所ト爲ラントスルニ至レリ即チ犯罪ノ證據明確ナルモ國事ニ關スルモノハ絶ヘテ之ヲ告訴スル者ナク其甚シキハ多少人民ニ利益ヲ與フルカ如キ瞞着手段ヲ藉リテ其兇暴ヲ逞フセントスル者ヲ隱蔽シ或ハ瞑々ノ中ニ之ヲ煽動スルニ至リ苟クモ自己ニ直接ノ害ヲ加ヘサル者ハ痛痒相感セストシテ之ヲ袖手傍觀ニ付シ偶直接ニ害ヲ加ヘラル、コトアルモ若シ之ヲ告訴スルトキハ必ス復仇ヲ免レ難シトテ強ヒテ之ヲ忍ビ尙

ホ且知ラサルモノ、如ク之ヲ默過セリ故ニ俠客ヲ以テ自ラ任スル者ノ如キハ互ニ其罪惡ヲ隱蔽シ其甚シキハ俠徒相助ケテ不長ノ目的ヲ達セシムルモノモ尠ナカラズ是レ其一ナリ他ハ之ニ反シテ少シク怨ヲ含ム者ノ如キハ之ヲ重刑ニ處セシメントシ公訴ハ宛カモ復仇手段ノ一ナルカ如キ情況ヲ呈スルニ至レリ是レ其二ナリ是レヲ虛偽ノ告訴ト稱シ社會ニ害アル實ニ大ナリト謂フヘシ何トナレハ此弊害ハ唯タ誣告ヲ以テ無辜ヲ冤枉ニ陥ラシムルノ憂ヒアルノミナラス斯ノ如キハ裁判力ヲ借リテ復仇ノ目的ヲ達スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ而シテ此二弊ノ分カ、ル所ヲ視ルニ前者ハ寬慢ニ流レ易クシテ寧ロ罪惡ヲ增長セシメ後者ハ苛酷ニ失シテ動モスレハ冤枉ニ陥非ラシメ兩ツナカラ社會ヲ害スルコト大ナリト謂フ可シ是ニ於テ乎公訴權ハ人民ノ隨意ニ放任スルノ不可ナルコトヲ覺知シ社會ノ秩序安寧

ヲ維持スルニハミニステール、ビアリツク即チ公訴ノ主任官ヲ設置スルノ必要ヲ感スルニ至レリ實ニ是レ一千四百年代ニ於テ始設セラレタル公訴官ニシテ今ノ檢事即チ是レナリ是ヨリ何レノ邦國モ漸次ニ公訴官ヲ設置セラレ公訴權ハ復タ人民ニ放任セサルニ至テ前陳ノ弊害ハ全ク其跡ヲ絶ツニ至リシノミナラス公訴權モ亦獨立シテ適當ニ使用セラル、ニ至レリ

公訴官ノ由テ起ル所ハ斯ノ如ク二箇ノ弊害之ヲ促シタルコト史乘ニ徴シテ明カナリ然レモ同シク是レ犯罪ノ發生ニ因リテ起ル所ノ訴權ニシテ公私ノ區別ヲ立テタルモノハ亦其理由アリテ存スルヲ知ルヘシ凡ソ社會ノ罪惡ヲ懲罰スル所刑權ハ司法權ノ範圍内ニ屬スルコト論ヲ俟タスシテ明カナリト雖モ抑モ此司法權ヲシテ成立セシメタル者ハ誰ソヤ社會ナリト謂ハサルヘカラス司法權ノ成立ハ既ニ社會自

カテ其秩序安寧ヲ維持セシムルカ爲メ之ヲ成立セシメタリトセハ所
 刑權モ亦社會カ之ヲ有シテ司法權ニ屬セシメタルモノト云ハサルヘ
 カラス何トナレハ所刑權ハ濫リニ之ヲ行使セシムルニアラス犯罪者
 ノ出ツルニ際シ之ヲ罰セシムル場合ニ於テノミ之ヲ行使スヘキモノ
 トセハ亦是レ社會カ其秩序安寧ヲ維持スル爲メニ設ケタル一手段ニ
 外ナラサレハナリ之ニ由テ之ヲ觀レハ所刑權ハ社會カ之ヲ有スルモ
 ノナルコト明カナリト雖モ社會モ亦濫リニ之ヲ行使スルコトヲ得ス
 唯其秩序安寧ヲ維持スルカ爲メ已ムヲ得サルニ至テ之ヲ行使スヘキ
 ノミ而シテ其之ヲ行使セサルヲ得サルニ至ラシムモノハ何ソヤ曰ク
 犯罪是レナリ
 其レ然リ所刑權ノ行使ヲ要セシムルモノハ犯罪ナリ而シテ犯罪ノ發
 生ニ際シ所刑權ノ行使ヲ求ムルモノハ誰ソヤ亦是レ被害者タル社會

公衆ナリトセハ其訴ハ公衆ノ提起スルモノト看做サ、ルヘカラス是
 レ求刑ノ訴權ヲ稱シテ公訴ト云フ所以ナリ故ニ何レノ場合ト雖モ犯
 罪ノ發生アルニアラサレハ公訴ハ決シテ成立スヘキモノニアラス否
 ナ未必ノ犯罪ニ付テハ之ヲ成立セシムル必要アラサルナリ何トナレ
 ハ公訴ハ既ニ社會ニ害ヲ加ヘタル者ヲ懲罰スルカ爲メ其罪狀ヲ訴フ
 ルニ外ナラサレハナリ而シテ犯罪ノ發生ニ因リ公訴既ニ起ルトキハ
 概シテ私訴モ起ルモノト論定セサルヘカラス是レ他ナシ凡ソ罪惡ハ
 其種類ノ何タルヲ問ハス既ニ一方ニ於テ社會ノ公益ヲ害スルトキハ
 又他ノ一方ニ於テ概シテ一箇ノ私利ヲ害セサルモノ希レナレハナリ
 然レモ一箇人ノ私利ヲ害サレタルカ爲メ其賠償ヲ請求スルハ單ニ被
 害者ノ意思如何ニ於テ之ヲ爲スヘキノミ社會ヲシテ之ヲ爲サシムヘ
 キモノニアラス社會モ亦之ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハサルナリ何トナレ

ハ社會ハ公訴ヲ提起セハ既ニ其義務ヲ盡シタルモノト看做スコト當
 然ナレハナリ是レ同一ノ犯罪ニ因リテ起ルヘキ訴訟ナリト雖モ公益
 ヲ害スル點ト私利ヲ害スル點トハ判然タル區別タルヲ以テ其訴訟ニ
 モ亦公私ノ區別アラシムル所以ナリ
 斯ノ如ク一箇ノ犯罪發生スルトキハ必ス一方ニハ公訴ヲ喚起シ他ノ
 一方ニハ私訴ヲ喚起スヘキモノトセハ公訴ト云ヒ私訴ト云フハ唯々
 社會自ラカ之ヲ起スト一箇人カ之ヲ起ストノ區別ヲ云フニ過キスシ
 テ其原因ハ唯一ナリト謂ハサルヘカラス人或ハ曰ハン然ラハ則チ犯
 罪ノ情况ト加害ノ廣狹トニ因リ必スシモ公訴權ハ成立スヘキモノト
 ハ信スヘカラス何トナレハ西陲ノ或ル地ニ於テ犯シタル竊盜罪ハ東
 隅ノ住民ニマテ害ヲ加フヘキモノニアラス是等ノ場合ニ於テハ一部
 ノ被害者ノ求刑スルヲ以テ至當ト爲スヘキモ全社會カ有スル公訴權

ヲ生セシムヘキモノニアラサレハナリト其レ然リ豈ニ其レ然ランヤ
 此說ノ如キハ皮相ノ言タルヲ免カレス抑モ社會ノ負擔スル責任ハ多
 數人ノ安寧ヲ保護スルニ止マリ一箇人ノ疾苦ハ措テ問フ所ニアラス
 トスル乎果シテ然ラハ一箇人トシテハ兵役ニ就キ租稅ヲ納ムルノ義
 務ナシト云フモ可ナリ何トナレハ社會ノ爲メニ兵役ニ就キ租稅ヲ納
 ムルモノハ保護ヲ買ハシカ爲メノミ若シ社會カ一箇人ノ疾苦ヲ問ハ
 サルモノトセハ兵役納稅ノ義務ヲ負ハシメラル、ノ道理アラサレハ
 ナリ各箇人既ニ兵役納稅ノ義務ヲ負擔スヘキモノトセハ社會モ亦其
 義務トシテ各箇人ノ安寧ヲ保護セサルヘカラス豈ニ被害者ノ多少ニ
 因リテ其保護ニ厚薄ノ生スヘキモノナランヤ全社會ノ公益ヲ害スル
 者ハ固ヨリ之ヲ懲罰セサルヘカラス一箇人ノ私利ヲ害スルモノモ亦
 之ヲ懲罰セサルヘカラス是レ社會カ各箇人ニ兵役納稅ノ義務ヲ負擔

セシムルニ依テ自己ニ負擔スル所ノ義務ナリトス豈ニ被害者ノ多少ヲ問ハンヤ况ンヤ地ノ東西ヲヤ苟モ社會組織ノ一分子トシテ兵役納税ノ義務ヲ負擔スル者ハ均シク皆ナ保護ヲ受クルノ權利アリ否ラサレハ社會ハ坐シテ一勞ヲ執ラス徒ラニ粒々辛苦ノ膏血ヲ徵收スルモノト云ハサルヘカラス其不當モ亦極マルト云フヘシ是レ一箇人ノ被害ノ爲メニモ猶ホ公訴權ヲ成立セシムル所以ナリ

社會ニ公訴權ノ成立スル理由及ヒ私訴ノ公訴ニ附帶シテ起ルヘキ原因ト公訴官ノ必要ヲ生シタル原因トハ以上ノ説明ヲ以テ其一斑ヲ解了セシムルニ足ルヘシト信ス故ニ一步ヲ進メテ本條規定ノ法理ニ論入スヘキナリ

本條ハ公訴ノ目的ヲ指示シタル法文ニシテ即チ本法三百三十四條ノ規定ハ唯タ此目的ヲ達セシカ爲メ其要件ヲ規定シタルニ外ナラス而

シテ公訴ノ目的ハ何等ノ點ニ在リトスル乎曰ク他ナシ刑ヲ適當ニ使用スルモノ即チ是ナリ故ニ公訴ノ目的ハ犯罪ノ事實ニ依リ適當ニ刑罰ヲ行ヒ其誤リナカラシメハ以テ足レリトスヘシ又豈ニ其他ヲ望マソヤ刑ノ適用ヲ得タルモノハ即チ公訴ノ目的ヲ達シタルモノト云フヘシ然ルニ皮相論者ハ動モスレハ臆説ヲ逞フシテ曰ク公訴ノ目的ハ唯タニ刑ノ適用ヲ以テ足レリトスルニアラス犯罪ヲ證明スルモ亦公訴ノ目的ナリ否ラサレハ胡爲ンソ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノ云々ノ法文ヲ掲ケラレタルヤ矧ンヤ犯罪ヲ證明スルニアラサレハ刑ノ適用ヲ得サルコト多辯ヲ要セシテ明カナルニ於テヤ唯其レ犯罪ノ證明アルニ因リテ始メテ刑ノ適用ヲ生スルニ非スヤト是レ誤解ノ最モ甚シキモノト謂フヘシ請フ退イテ理論上ヨリ之ヲ考究セヨ犯罪ノ證明アルニアラサレハ刑ノ適用ヲ生セサルハ固

ヨリ論ヲ俟タサルヘシ然レモ公訴ハ犯罪ノ證明ヲ爲サシメシメカ爲メ
 之ヲ提起スルニアラス犯罪者アルニ因リ之ニ對シテ刑ヲ適用セシメ
 以テ社會ノ安寧ヲ維持セシメンカ爲メ之ヲ提起スルモノナリ其レ然
 リ公訴ノ目的ハ全ク刑ヲ適用セシムルノ一點ニ在リテ存シ犯罪ノ證
 明ハ刑ヲ適用スルニ付テ必要ナル方法手段アルニ過キサレモノトス
 今夫レ刑ヲ適用セントセハ先ツ公訴ノ原因ヲ問ハサルヘカラス而シ
 テ公訴ハ犯罪ヲ原因トシテ提起シタルモノトセハ果シテ犯罪ノ事實
 アリタルコトヲ證明セサルヘカラス否ラサレハ刑ヲ適用スルニアラ
 スシテ之ヲ濫用スルモノト云ハサルヘカラス刑ノ犯罪ニ於ケルヤ宛
 モ影ノ形ニ於ケルガ如シ天下ノ何等ノ物ト雖モ實體ナラシテ影ヲ生
 スルモノハ決シテ是レアラサルナリ刑モ亦然リ犯罪アリテ而シテ後
 刑ノ必要ヲ生スルノミ之ヲ約言スレハ刑ハ犯罪ノ反射タリト謂フモ

不可ナカルヘシ其レ然リ犯罪ノ事實アリテ而シテ後テ刑ノ必要ヲ生
 スルモノトセハ先ツ犯罪事實ノ有無ヲ問ハサルヘカラス果シテ犯罪
 ノ事實アリトセンカ其証據ヲ擧ケテ之ヲ明示セサルヘカラス否ラサ
 レハ何ニ由テ其刑ノ適否ヲ知ルヲ得ン予ハ故ニ曰ク犯罪ノ證明ハ刑
 ノ適用ヲ爲スニ付テ必要トスル方法手段タルニ過キスト
 凡ソ吾人社會ハ善良ノ分子ヲ以テ組織スルモノト看做サ、ルヘカラ
 ス否ラサレハ社會ハ一日モ秩序安寧ヲ保持スルコトヲ得サルヘシ偶
 罪惡ノ發生アルモ是レ社會ノ疾病ノミ亦猶ホ人ニ不時ノ病患アルニ
 異ナラス人ハ健康ヲ以テ常態トナシ病患ハ其常有スル所ノモノニア
 ラス社會ノ罪惡モ亦然リ故ニ法律ハ罪惡ヲ推定セストハ先哲ノ確言
 トス吾人社會ハ果シテ善良ノ分子ヲ以テ組織セラル、モノトセハ偶
 罪惡アリト云フ者ハ己レ先ツ其証據ヲ擧ケテ罪惡ノ事實ヲ明示セサ

ルヘカラス否ヲサレハ人ヲ誣ニルモノト云ハサルヘカラス故ニ法律
 其者ヨリ云ハシムルトキハ社會ニ罪惡アリトハ推定セスト云フヲ以
 テ當然ナリトス且ツ社會ノ現狀ヨリ觀察スルモ善人ハ其多數ヲ占メ
 惡人ハ僅々タルニ過キサルコト争フヘカラサル事實トスヘシ若シ夫
 レ之ニ反シ惡人ヲ以テ社會ノ過半ヲ填ムルアラハ少數ノ善人ハ惡逆
 ノ爲メニ蹂躪セラレ弱肉強食モ當ナラサル慘狀ヲ呈スヘシト雖モ實
 際ハ決シテ然ラス是レ法律ハ罪惡ヲ推定セスト云フ所以ナリ故ニ偶
 惡事ヲ爲ス者アリトセハ之ヲ證明セサルヘカラス否ヲサレハ果シテ
 惡事ヲ爲シタルモノトハ認定スヘカラス例ヘハ某ハ大罪ヲ犯シタリ
 トセンカ唯其言ノミヲ以テ之ヲ信スヘキニアラス假令大罪ヲ犯シタ
 リト告發セラル、モ其證據トスヘキモノ一モ存セサルトキハ何等ノ
 責任ヲモ負ハサルヘシ宛カモ是レ甲者カ乙者ニ對シ汝ハ余ニ對シテ

若干ノ債務ヲ負フト云フモ唯口頭ノ陳述ノミニシテ一ノ證據ヲモ舉
 ケサルカ如シ乙者豈ニ之ニ對シテ義務アラシヤ若シ何等ノ證明ヲモ
 爲サズ唯彼レハ義務アリト云フノミヲ以テ果シテ責任アリトセハ世
 路ハ實ニ危險ナリト云フヘシ何トナレハ何レノ時他人ノ爲メニ誣ヒ
 ラル、ナキヲ知ラサレハナリ故ニ一方ニ義務アリトセハ宜ク他ノ一
 方ニ於テ其權利ヲ證明セサルヘカラス矧ンヤ或ル者ハ惡事ヲ爲シタ
 リト云フニ於テヲヤ

故ニ社會ノ代理者トシテ公訴權ヲ有スル檢事ト雖モ公訴ヲシテ成立
 セシメントセハ先ツ犯罪ヲ證明セサルヘカラス即チ某ハ斯々ノ罪ヲ
 犯セリ其事實ハ斯々ナリ其證據ハ斯々ナリト之ヲ證明セサルヘカラ
 ス其ハ惡相アリ必ス何レノ處ニ於テ乎多少ノ惡事ヲ爲シタルモノト
 想像スト云フカ如キ推定ヲ以テ爲シタル公訴ハ決シテ成立スヘキモ

ノニアラズ否ナ成立セシムヘキモノニアラズ此要點ヨリ論スルトキハ犯罪ヲ證明スルハ實ニ刑ヲ適用スルカ爲メニ要スル方法手段タルニ過キサルコト明カニシテ之ヲ以テ公訴ノ目的ノ一ナリト妄想スルハ誤見モ亦甚シト云フヘシ

然ルニ皮相論者ハ尙ホ執拗剛愎ヲ逞フシ飽クマテモ妄想説ヲ主張シテ曰ンカ公訴ノ目的ハ唯一ナル刑ノ適用ニ在リト云フモ猶ホ未タ信スヘカラス果シテ犯罪ノ證明ハ刑ヲ適用スルカ爲メニ要スル方法手段タルニ過キサルモノトセハ刑ノ適用ヲ爲サル場合ニ於テハ犯罪ノ證明ヲ要セサルコト勿論タルヘシ然ルニ尙ホ且ツ犯罪ヲ證明スルハ何ソヤ蓋シ假令ハ刑ノ適用ヲ要セサル場合ト雖モ其ハ斯々ノ罪ヲ犯シヨリト證明シテ之ヲ社會ニ示ストキハ亦他ノ惡念ヲ懷ク者ヲ警戒セシムルニ足ルヘシシテ社會ニ益アリト云ハサルヘカラス此點ヨ

リ論スルトキハ犯罪ヲ證明スルモ亦是レ公訴ノ目的ノ一タルモノト看做サルヘカラス否ラサレハ刑ノ適用ヲ要セサル場合ニ於テ又何ノ必要アリテ犯罪ノ證明ヲ爲スヤ吾子ノ説ノ如キハ却テ誤見ヲ免レサルモノト云フヘシ爰ニ其一例ヲ示セハ數罪俱發ノ場合ニ於テ各箇ノ犯罪ニ付キ各箇ノ證明ヲ爲スモノ即チ是レナリ若シ夫レ吾子ノ説ノ如ク果シテ犯罪ノ證明ハ刑ヲ適用スル爲メニ要スル方法手段タルニ過キサルモノトセハ數罪俱發ノ場合ニ於テ悉ク之ヲ證明スルノ必要ナク數罪ノ中ニ就キ單ニ最モ重キモノ、證明ヲ爲セハ以テ足レリトスヘシ他ノ輕キモノニ至リテハ又何ソ一々之ヲ證明スルヲ要センヤ然ルニ法律上尙且ツ之ヲ證明セサルヲ得サルモノトスルハ其要果シテ那邊ニ在リトスルヤ實ニ他ヲ警戒スルノ目的ニ出ツルモノト云ハサルヘカラス然ラハ則チ犯罪ノ證明モ亦是レ公訴ノ目的ノ一タル

コト瞭然トシテ明カナリト吁感ヘル哉言ヤ請フ減者ノ爲メ數罪俱發ノ場合ニ於ケル犯罪證明ノ必要ナル理由ヲ擧ケテ其感ヲ解カシ
 減者ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キモノニ付テ刑ヲ適用シ他ノ輕
 キモノニ付テ刑ヲ適用セサルハ之ヲ審判モルノ精神ニ出ツルモノト
 誤解スルヤ數罪俱發ノ場合ニ於テハ一ノ重キモノ、ミヲ刑スルモ他
 ノ輕キモノヲ不問ニ付スルニアラス唯輕キモノハ重キモノニ吸收セ
 シムト云フニ過キスシテ決シテ之ヲ宥恕スルニアラサルナリ例ハハ
 強盜犯ト竊盜犯ト二罪俱發シタル場合ニ於テハ其一ノ重キ強盜罪ノ
 ミヲ罰スト雖モ若シ第一審ノ裁判ハ全ク事實ヲ誤リタルモノト認定
 セラレ第二審ニ於テ前裁判ヲ取消シ強盜犯ハ全ク他人ノ所爲ニ係ル
 モノトシテ之ヲ削除セラル、モ竊盜犯ノ事實明確ナルトキハ強盜犯
 ノ消滅ト共ニ竊盜犯罪ヲモ免除スヘキモノニアラス其竊盜犯罪ハ獨

立シテ處刑ヲ受クヘキハ勿論ナリトス若シ其レ數罪俱發ノ場合ニ於
 テ一ノ重キモノニ從フハ他ノ輕キモノヲ免除スルノ意ナリトセハ前
 例ノ場合ニ於テ竊盜罪ハ之ヲ不問ニ歸セサルヘカラス皮相論者ハ此
 場合ニ於テ果シテ竊盜罪ヲ問フノ必要ナシトスルカ如何ニ論者ハ執
 拗剛愎ヲ逞フセントスルモ此論理ヲ打破スルノ言ナカルヘシ論者カ
 金城鐵壁ト恃ミタル數罪俱發ノ論陣モ全ク破レテ五里霧中ニ彷徨シ
 タル感モ豁然解了シタルヘシト信ス
 又公訴權ノ社會共有ニ屬スルハ前既ニ解説シルカ如キアリト雖モ之
 ヲ各人ノ提起ニ一任セハ即チ二大弊害ヲ生スルノ憂ヒヲ免カレス故
 コ公訴ノ主任官タル檢事ヲ置キ社會公衆ニ代リ公訴權ヲ行ハシムル
 アリト雖モ此權利ハ檢事ノ所有物ニアラス唯社會カ檢事ヲシテ之ヲ
 行ハシムルト云フニ過キサルナリ故ニ檢事ハ犯罪ノ發生ニ因リ公訴

ヲ起サハルヘカラスナルノ責任ヲ負フト雖モ其之ヲ行フハ職務上ノ行
 爲ニ屬シ各箇人ノ私訴ニ於ケルカ如ク恣ニ之ヲ拋棄スルノ權利ナキ
 モノトス若シ夫レ犯罪ノ事實明確ナルニ拘ハラズ檢事ハ隨意ニ公訴
 ヲ拋棄スルモ妨ケナシトセハ社會ハ公訴權ヲ檢事ニ委任スルノ必要
 アラサルヘシ否ナ檢事ヲ置クカ爲メ往々犯罪人ヲシテ法網ヲ免カレ
 シムルノ危険ヲ招カンヨリ寧ロ檢事ヲ置カス社會自ラカ公訴權ヲ行
 使スルニ如カサルヘシ是レ法文上ニ「檢事之ヲ行フトアリテ公訴權ハ
 決シテ檢事ノ所有物ニアラス社會ノ囑托ニ應シテ之ヲ行ヒ濫リニ之
 ヲ取捨スルノ權利ナキコトヲ指示シタル所以ナリ
 其レ然リ檢事ハ公訴權ヲ行フト雖モ之ヲ取捨スルノ權利ナシ苟クモ
 犯罪ノ事實明確ナルモノハ必ス之ヲ懲罰セシメ以テ社會ノ弊害ヲ驅
 除セサルヘカラス然レモ貴重ノ公訴權ハ獨リ檢事ノミニ放任スヘキ

モノニアラス若シ之ヲ檢事ノミニ放任シ社會ハ復タ之ヲ問ハサルモ
 ノトセハ公訴ヲ起スト否トハ獨リ檢事ノ意見ニ歸シ社會ハ亦危険ノ
 憂ヒ多シト云フヘシ何トナレハ檢事其人ニシテ若シ其職任ヲ怠リ犯
 罪ノ發生アルモ之ヲ聞知セズシテ應サニ公訴ヲ起スヘキニ之ヲ起サ
 ハルカ如キアラハ惡漢兇豎ハ社會ニ横行シ吾人ハ將タ何ニ由テ安息
 セン故ニ公訴權ハ獨リ檢事ノミニ放任スヘキモノニアラサルナリ苟
 クモ犯罪人ノ爲メニ害ヲ加ヘラレタル者ハ何人ト雖モ告訴權ヲ利用
 シテ其回復ヲ謀ラシメサルヘカラス是レ第四十九條ノ規定ヲ設ケ何
 人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所
 在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得セシメ又第六十條
 ノ規定ニ依リ何人ニ限ラス重罪又ハ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ
 直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得セシムル所以ナリ既ニ此等ノ規定

アル以上ハ公訴權ハ檢事ノ所有物ニアラス各箇人即チ社會ノ所有タルコト喋々ヲ俟タスシテ明瞭ナリトス且ツ立法ノ趣旨ニ於テモ亦貴重ノ公訴權ハ一ノ檢事ニ委任シテ問ハサルニアラサルハ裁判所構成法第八十三條ニ於テ各上級裁判所ハ檢事長及ヒ檢事正ハ其管轄内ノ裁判所ノ檢事ヲシテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ規定シタルヲ以テ知ルヘキナリ

舊治罪法ニ依レハ告訴告發ヲ受理スルノ權ハ獨リ檢事ニ屬スルノミナラヌ豫審判事モ亦之ヲ有シ公訴權ハ殆ント檢事及ヒ豫審判事ノ共有權タルカ如キ傾向ヲ呈シタリキ然ルニ新法ニ於テハ全ク之ヲ削除シ告訴告發ヲ受理スルノ權ハ檢事及ヒ司法警察官ニ專屬セシメテ是レ舊治罪法ニ修正ヲ加ヘタル點ニ於テ最モ顯著ナルモノ、一コシテ其當ヲ得タルモノト云フヘシ何トナレハ豫審判事ノ職務ハ則チ裁

判ノ職務ニシテ公訴ヲ起スノ職務ニアラサルヤ明カナルヲ以テ未タ犯罪事實ノ公訴ナキニ之ヲ審問スルカ如キハ實ニ越權ノ嫌ヒヲ免カレサレハナリ故ニ犯罪ノ告發アルトキハ檢事又ハ司法警察官ニ於テ先ツ其事實ノ有無ヲ問ハシメ果シテ事實ヲ證明スルニ及ンテ尙ホ之ヲ豫審シ而シテ罪ノ有無ヲ定メシムルコト誠ニ豫審判事ノ職務ヲ得タルモノト云フヘシ是レ訴訟ニ於テ豫審判事ハ告訴告發及ヒ私訴ヲ受理スルノ權ナキモノト定メタル所以ナリ

本條ノ解ヲ終ルニ臨ンテ讀者ノ爲メ尙ホ爰ニ一言スヘキハ法文上法律ニ定メタル區別ニ從ヒ云々トアルモノ是ナリ此法律ニ定メタル區別トハ第六十二條ノ規定ニ從ヒ重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ區別ニ依リ公訴提起ノ方法ヲ異ニシ又第六十四條ノ規定ニ從ヒ裁判管轄ノ區別ニ依リ之ヲ管轄裁判ノ檢事ニ送致スル等ノ區別ヲ謂ヒタルニ過キササル

モノト知ルヘシ

四十

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物
ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者
ニ屬ス

凡シ何人ト雖モ權利ナクシテ他人ニ損害ヲ加フル者ハ之ヲ賠償スル
ノ責任ヲ負擔シ被害者ハ之ヲ請求スルノ權利ヲ有スルハ民法上ノ大
原則ナリ(民法財産篇第三百七十條參觀)矧ンヤ犯罪ニ因リテ他人ニ損
害ヲ加ヘタル者ニ於テヤ故ニ強盜若クハ竊盜又ハ詐僞罪等ヲ犯シ
タル者ハ唯タニ社會ノ安寧ヲ維持スルカ爲メ第一條ノ規定ニ從ヒ公
訴ヲ受クルノミナラス一箇人ニ對シ直接ニ損害ヲ加ヘタルニ因リ公
訴ニ附帶シテ私訴ヲモ受ケサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナ
リ

抑モ一箇人トシテ被告人ニ對シテ私訴ヲ提起スルハ何等ノ目的ニ出
ツルトスルヤ曰ク法文上ニ示スカ如ク私訴ハ犯罪ニ基因シテ生セシ
メタル損害ヲ賠償セシメ又ハ盜取若ハシ擄奪セラレタル贓物ヲ返還
セシムルヲ目的トシテ之ヲ起スヘキモノニシテ之ヲ起スノ權利ハ被
害者ニ屬スルモノトス此法定ニ依レハ私訴ヲ起スト否トハ被害者ノ
隨意ニシテ假令ハ犯罪カ實ニ或ル人ニ損害ヲ加ヘタルコト明確ナル
モ檢事ハ唯タ公訴ヲ起スニ止マリ被害者ノ爲メ私訴ヲ起スノ權ナキ
ハ明カナリトス是レ他ナシ若シ檢事ニシテ時ニ被害者ニ代リ其損害
ノ賠償ヲ請求セサルヘカラサルモノトセハ當タニ公私ノ區別確立セ
サルノミナラス檢事ハ怠慢ナル被害者ノ爲メ責任ヲ負ハサルヲ得サ
ルニ至レハナリ何等ノ場合ト雖モ怠慢者ノ爲メ責任ヲ負ハシムルハ
不當モ亦甚シト云フ可シ矧ンヤ檢事ハ社會公衆ノ代理人タル責任ヲ

四十一

負フヘキノミ一箇人ノ爲メ責任ヲ負フヘキモノニアラサルハ社會カ
 檢事ヲ置キ之ニ公訴權ヲ委託スル趣旨ニ於テ明カナルニ於テヲヤ是
 レ私訴ハ被害者ニ屬スルモノト法定シタル所以ナリ
 且ツ夫レ私訴ノ目的ハ刑ノ適用ヲ求ムルニ在ルニアラス全ク犯罪ノ
 爲メ自己ニ加ヘラレタル損害ヲ賠償セシメ又ハ盜取若クハ擄奪セラ
 レタル所有物ノ返還ヲ請求スルニ在ルヲ以テ假令其請求ハ犯罪ニ基
 因スルモ純然タル私權ニ屬ス故ニ民法ノ原則ニ從ヒテ之ヲ爲サシム
 ヘキモノトス否ラサレハ被害者ハ遂ニ損害ヲ回復スルコトヲ得スシ
 テ止ムノ不利ヲ來タスノ場合アルヘキモノトス即チ被害^カ人カ免訴又
 ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合即チ是レナリ若シ私訴モ亦刑法ノ範圍
 内ニ於テ爲スヘキモノトセハ被害^カ人ハ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケル
 ト同時ニ私訴上ノ請求權モ亦消滅ニ歸セサルヘカラス然レモ公訴ト

私訴トハ全ク其目的ヲ異ニスルノミナラス起訴ノ性質ヲ異ニスルモ
 ノト云ハサルヘカラス何トナレハ公訴ハ社會ノ安寧ヲ維持スルカ爲
 メニ之ヲ起シ私訴ハ一箇人ノ損害ヲ回復スルカ爲メニ之ヲ起スモノ
 ナレハナリ故ニ私訴ハ必ス民法ノ原則ニ從ハシメ假令犯罪ノ嫌疑ハ
 消滅シテ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ私訴ハ獨立シテ
 其目的ヲ達セシメサルヘカラス是レ私訴ハ民法ニ從フヘキ原則ヲ設
 ケタル所以ナリ

又私訴ハ損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トストアルヲ以テ贓物ノ返還
 ト損害ノ賠償トハ全ク其關係ヲ異ニスルモノ、如キ解釋ヲ下タス者
 ナキニアラサルヘシト雖モ法律上ヨリ之ヲ論スルトキハ贓物ノ返還
 モ亦損害回復ノ一手段ナリト云ハサルヘカラス論者或ハ云ハン乎然
 ラハ則チ單ニ私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ目的トスト云

へハ則チ可ナリ贓物ノ返還云々ハ蛇足ナリ然レモ法文上損害ノ賠償
 贓物ノ返還トアル以上ハ時トシテハ損害ノ賠償ヲ目的トシ又時トシ
 テハ贓物ノ返還ヲ目的トスルコトアルノ謂ヒヲ云フニ外ナラスシテ
 二者同一ノ目的ニ出ツルモノトハ看做スヘカラスト此言ノ如キハ皮
 相ノ見タルヲ免レス論者ハ所有物ヲ盜取若クハ擄奪セラレタルヲ以
 テ損害ヲ加ヘラレタルニアラスト爲ス乎自己ノ所有物ヲ謂レナクモ
 テ取去ラレタルモノハ即チ損害ヲ加ヘラレタルモノト云ハサルヘカ
 ラス而シテ其贓物ノ返還ヲ請求スルモノハ其回復ヲ謀ルニ外ナラス
 其レ然リ贓物ノ返還ヲ請求スルノ目的ハ損害ノ回復ヲ求ムルニ在リ
 トセハ損害ノ賠償ヲ請求スルノ目的ト又何ソ擇ハシヤ何トナレハ二
 者同シク是レ損害ノ回復ヲ謀ルノ手段ニ外ナラザレハナリ
 然レモ法文上ニ損害ノ賠償贓物ノ返還トアルヲ以テ視レハ此二箇ノ

手段ヲ指示セサルヘカラスト理由アリテ存スルハ敢テ疑ヲ容レサ
 ルヘシ蓋シ犯罪ノ結果ニ因リ單ニ損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還ノミヲ
 目的トシテ私訴ヲ提起シ又ハ損害ノ賠償ト贓物ノ返還トヲ併セテ之
 ヲ請求スルヲ必要トスル場合往々ニシテ之レ有ルヘキモノト想像セ
 サルヘカラスト例ヘハ詐僞手段ニ罹リ或ル金額ヲ騙取セラレ若クハ或
 義務ヲ負擔セシメラレタルカ爲メ損害ヲ被ラシメラレタル場合等
 ニ於テハ單ニ損害ノ賠償ヲ目的トシテ私訴ヲ起スノ必要ヲ生スヘク
 又ハ強盜若クハ竊盜ノ爲メ或ハ動産物ヲ取去ラレ現ニ其物カ存在ス
 ルコトノ知レタル場合ニ於テハ單ニ其贓物ノ返還ヲ受クルヲ以テ足
 レリトスヘク又強盜ノ爲メニ或ル動産物ヲ盜取セラレタルノミナラ
 ス之ヲ保有セントシテ或物ヲ毀損セラレ若クハ身體ニ傷疵ヲ受ケタ
 ル場合等ニ於テハ贓物ノ返還ニ併セテ損害ノ賠償ヲ請求スル必要ヲ

生スル場合等即チ是レナリ故ニ私訴ハ損害ノ賠償ヲ目的トシ又ハ賊物ノ返還ヲ目的トスル訴訟ナリト雖モ之ヲ要スルニ損害ノ賠償ヲ求ムルニ外ナラス是レ損害ノ賠償賊物ノ返還云々ノ法文アル所以ナリ此損害賊物ニ付キ或者ハ説ヲ作シテ曰ク損害ノ賠償ハ人権ニ屬シ賊物ノ返還ハ物権ニ屬スルモノト看做サ、ルヘカラス即チ損害ノ賠償ハ對手人タル犯罪人ニ對シテ之ヲ請求スルヲ以テ人権ヲ成立セシメ賊物ノ返還ハ然ラス唯タニ犯罪人ニ對シテノミ之ヲ請求スルニアラス其者カ第三者ノ手ニ占有セラル、トキハ其占有者ノ誰ナルヲ問ハス其物ノ返還ヲ請求スル場合アルヲ以テ物権ニ屬スト云ハサルヘカラスト余曰ク第三者ニ對シテ賊物ヲ取戻スコトヲ得ルハ其物カ賊物ナル故ニアラス唯タ謂レナク取去ラレタル物ニ付キ被害者ノ有スル所有權ノ執行ニ外ナラザルモノトス之ヲ要スルニ損害ノ賠償ト云ヒ

賊物ノ返還ト云フモ共ニ是レ損害ノ回復ヲ求ムル一手段タルニ過キスシテ人権ノ範圍内ニ屬スルコト敢テ疑フ容ルヘカラス

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス

又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス

公訴ハ犯罪ノ發生ニ因リ他ノ憑憑ニ依ラス直チニ起ルヘキモノニシテ決シテ他ノ事情ニ掣肘セラレ若クハ誘導セラレヘキモノニアラス故ニ被害者ノ告訴アルヲ待ツテ始メテ起ルモノニアラス假令被害者ハ之ヲ不問ニ置クモ公訴ハ之カ爲メ毫モ躊躇セス獨立シテ起ルヘキモノトス故ニ又公訴ハ告訴若クハ私訴ノ拋棄アルニ拘ハラズ依然トシテ進行スヘキモノトス是レ他ナシ公訴ハ犯罪ニ依リ社會公衆カ之ヲ起スニ異ナラサルヲ以テ獨立獨行スヘキ資格ヲ有シ一箇人ノ棄權

ノ爲メニ影響ヲ被フルヘキモノニアラサレハナリ若夫レ公訴モ亦一箇人ノ意思如何ニ因リテ消長スルモノトセハ是レ眞ノ公訴ニアラス即チ一箇ノ私訴ノミ何トナレハ一箇人ノ意思如何ニ因リテ消長スルモノハ社會全體ノ安寧ヲ保護スルノ精神ニ悖反スルアレハナリ苟クモ社會全體ノ安寧ヲ保護スルノ精神ニ出ツルモノトセハ一箇人ノ爲メニ左右セラルヘキモノニアラサルハ勿論ニシテ他クマテモ其目的ヲ貫カサルヘカラス否ラサレハ公訴モ亦恃ムニ足ラサルヘシ是レ公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ後チ起ルモノニアラス又告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニアラスト法定シタル所以ナリ然レモ公訴モ亦例外ノ場合ヲ生スルコトナキニアラス若シ例外ノ場合ニ於テモ亦獨立獨行スヘキモノトセハ之カ爲メ却テ社會ノ安寧ヲ妨害スルコトナシトスヘカラス是レ本條ニ但書ヲ附加シ法律ニ於テ

特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラストシテ例外ノ場合アルコトヲ指示シタル所以ナリ

凡ソ犯罪ニシテ社會ニ多少ノ害ヲ加ヘサルモノハ絶無ナリト雖モ其害ニハ直接ト間接トノ差アリテ存セサルハナシ例ヘハ強盜竊盜又ハ詐僞ノ如キハ直接ニ社會ヲ害スルト云フヘキモ之ニ反シテ犯姦罪又ハ讒謗罪ノ如キハ一箇人ニ對シテハ直接ニ害ヲ加フルモ社會ニ對シテハ間接ニ害ヲ及ホスモノト云ハサルヘカラス何トナレハ人ノ婦女ヲ姦シ人ノ名譽ヲ害スルカ如キハ被害者ニアラサレハ其犯罪ヲ知り得ヘカラサル場合居多ニシテ直接ニ其影響ヲ社會ニ及ホスヘキモノニアラサレハナリ故ニ法律ハ此等ノ場合ニモ立入テ之ヲ摘發スルノ必要ナキモノトス矧ンヤ其摘發ハ却テ被害者ニ不利益ヲ與フルコト少ナカラサルニ於テヲヤ例ヘハ有夫ノ婦ニ姦スル者アリト假定セン

乎其夫ハ之ヲ知り得サリシカ若クハ知リテ猶ホ之ヲ秘シタル場合ニ於テ法律カ之ヲ摘發シ直チニ公訴ヲ起スカ如キアラハ一家ノ親睦平和ハ之カ爲メ忽チ破壊セラレテ其夫ハ勢イ其婦ヲ放逐セサルヲ得サルノ結果ヲ來セシ法律ハ寧ロ一家ノ安寧ヲ妨害スルモノト云ハサルヘカラス故ニ其夫カ告訴權ヲ拋棄シテ之ヲ不問ニ付スルトキハ法律モ亦之ニ寛假シテ可ナリト云フ可シ然ルニ法律カ強ヒテ其間ニ立入り之ヲ摘發スルアラハ唯タニ夫婦ノ間ニ破鏡折筭ノ悲哀ヲ生セシムルノミナラス其名譽ヲモ毀損スルニ至ルヘシ故ニ犯姦罪ハ如キハ亦是レ公訴ヲ成立セシムルノ原因タラシムルニ足ルヘシト雖凡之ヲ例外ニ置カサルヘカラス是レ刑法第三百五十三條ノ規定アル所以ナリ」

讒謗若クハ罵詈昇罪ノ如キモ亦然リ甲者ハ乙者ノ爲メニ讒謗若クハ罵詈昇セシレタリトスルモ甲者ハ之ヲ以テ侮辱ヲ受ケタルモノト看做サ

ス又名譽ヲ毀損セラレタルモノトモ感セス又ハ侮辱セラレタリ若クハ名譽ヲ毀損セラレタリト感スルモノヲ告訴スルトキハ暗處ノ恥辱ヲ明處ニ出シテ之ヲ他人ニ知ラシムルカ如シ寧ロ忍ンテ之ヲ秘スルニ如カストシテ故ラニ告訴ヲ爲サ、ル場合モ亦有ルヘキモノトス然ルニ法律ハ之ヲ許カサルヘカラス檢事ハ之ヲ問ハサルヘカラストシテ公訴ヲ提起スルアラハ被害者ノ意思ニ反對シタル結果ヲ生スヘキハ必然ナリ故ニ右等ノ場合モ亦之ヲ例外ニ置カサル可ラサルナリ

以上列擧スルモノ、如キハ所謂直接ニ社會ヲ害スルモノト看做スヘキ限リニ在ラサルヲ以テ法律自ラカ進ンテ其罪ヲ問フヘキモノニアラス宜ク被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論スヘキモノトス是レ本條ニ但書ヲ要シタル原因ニシテ刑法上ニ就テ本條但書ノ場合ニ該當スヘキ規定ハ第三百四十一條乃至第三百五十條又第三百五十三條第三百五十二條

五條乃至第三百六十一條等是レナリ

第四條 私訴ハ其金錢ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ

第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シ
テ之ヲ爲スコトヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴
ニ参加スルコトヲ得

本條ノ規定ハ被害者ニ特殊ノ便宜ヲ與ヘ以テ其權利ヲ伸暢セシムル
ノ精神ニ出ツルニ外ナラズ元來私訴ハ第三條ノ規定ニ於テ指示スル
カ如ク犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償若シクハ贓物ノ返還ヲ請求
スル目的ニ出ツルモノニシテ民法ノ範圍内ニ屬スルヲ以テ至當トナ
シ宜シク民事訴訟所ニ提起スヘキモ刑事裁判所ニ提起スヘキモノニ
アラサルナリ然ルニ公訴ノ起ルニ付キ第二審ノ判決アルマテハ被害

者ノ便宜ニ依リ何時ニテモ隨意ニ其公訴ニ附帶シ之ヲ刑事裁判所ニ
提起スルモ妨ケナキモノトス是レ其當ヲ失スルカ如キアリト雖モ被
害者ノ權利伸暢ニ満足ヲ與フルカ爲メ此便宜法ヲ設ケタルモノト知
ルヘキナリ

若シ夫レ私訴ハ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的
トスルニ拘ハラズ之ヲ刑事裁判所ニ爲スコトヲ得サラシメハ雷クニ
被害者ニ不便ヲ感セシムルノミナラス裁判所ノ事務モ亦之カ爲メ一
層増加スルノ不利ヲ來タスニ至ルヘシ何トナレハ被害者ハ一方ニハ
司法警察官又ハ檢事ニ告訴シ他ノ一方ニハ民事裁判所ニ出訴セサル
ヲ得サルヘシテ其不便ハ言ヲ俟タサルヘシ而シテ裁判所モ亦一事
件ノ爲メ兩所ニ審判手續ヲ開カサルヲ得サレハナリ之ニ反シテ私訴
モ亦公訴ニ附帶シ第一審ヨリ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其事

件ノ繫カル刑事裁判所ニ提起スルコトヲ得ヘキモノトセハ被害者ニ利益ヲ與フルコト實ニ僅少ナラスト云フ可シ即チ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起ストキハ訴訟ノ進行ヲシテ迅速ナラシメ費用ト時日トヲ減省スルコトヲ得ヘシ是レ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起スニ因テ得ル所ノ利益一ナリ民事訴訟ニ付テハ舉證ノ責任ハ原告ニ在ルヲ以テ被害者先ツ其證據ヲ舉ケサルヘカラス之ニ反シテ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起ストキハ舉證ノ責任ハ檢事ニ在ルヲ以テ檢事ニ於テ充分犯罪ノ證據ヲ舉グルトキハ民事原告人ハ自ラ舉證ノ勞ヲ執ラズシテ其請求權ヲ伸暢スルコトヲ得ヘシ是レ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起スニ因テ得ル所ノ利益ノ二ナリ蓋シ是レ公訴ニ附帶シテ私訴ノ提起ヲ得セシムル所以ナリ然レニ或ル論者ハ曰ク公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起スハ必スシモ利益アリト云フヘカラス刑事ノ上訴期間ハ第二百五十二條ニ定ムルカ如ク之

ヲ民事ノ上訴期間ニ比スレハ甚ダ短縮ニシテ自己カ上訴ヲ爲サントスル場合ニ於テ熟慮スルノ暇ナク亦是レ不利益ナルニ於テヲヤト然レモ斯ノ如キハ單ニ上訴ニ付テ不利益ヲ生スル場合ヲ舉クルニ過キサルナリ尙ホ他ニ一大便利アリテ存ス何ソヤ曰ク他ナシ私訴ハ金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ヲ受理スル裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト定メタルモノ即チ是レナリ

民事訴訟法ノ規定ニ依レハ民法上ノ訴訟ハ金額ノ多寡ニ依リテ裁判管轄ヲ異ニシ金額百圓未滿ノモノハ之ヲ區裁判所ニ出訴シ金額百圓以上ノモノハ之ヲ地方裁判所ニ出訴スヘキモノトス上訴手續ニ至テモ亦金額ノ多寡ニ因リ右ノ順序ヲ履マサルヲ得ス即チ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ハ其上級ナル地方裁判所ニ提起セサルヘカラス故ニ私訴ヲ民事裁判所ニ起ストキハ重罪ノ爲メニ加ヘラレタル損害モ亦

僅少ナルトキハ之ヲ區裁判所ニ起シ違警罪ノ爲メニ加ヘラレタル損害モ亦巨額ナルトキハ之ヲ地方裁判所ニ起サ、ルヘカラス果シテ然ルトキハ公訴ハ地方裁判所ニ於テ審判スルニモ拘ラス私訴ハ區裁判所ニ於テ之ヲ審判セサルヘカラサル場合往々ニシテ生スルモノト想像セサルヘカラス是レ實際上甚タ不都合ナルノミナラズ民事原告人ニ於テモ亦其不便言フヘカラサルニ至ルヘキナリ

本條第二項ノ規定ハ第一項ノ精神ニ基キ第三者モ亦犯罪ニ因リテ損害ヲ加ヘラレタルトキハ民事訴訟法ノ規定(民事訴訟法第五十一條乃至第六十二條ノ規定)ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得ヘシト云フニ外ナラス然レモ此規定ハ第三者ノ權利伸暢ニ利益ヲ與フルコト僅少ナラサルヲ知ルヘシ何トナレハ第三者モ亦參加ノ爲メ民事原告人ト同一ノ利益ヲ得ルノ場合アルヘキヲ以テナリ例ヘハ甲者カ

被告人ニ對シ金幾許圓ノ賠償ヲ刑事ニ附帶シテ私訴スルニ當リ甲者ノ債權者ナル丙者即チ第三者カ其訴訟ニ參加シテ甲者ノ權利伸暢ヲ補助スルカ如キハ丙者其人ノ利益僅少ナラサレハナリ

第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ返還ヲ要スル妨礙ト爲ルコトナカルヘシ

人爲ハ概シテ二箇ノ責任ヲ生ス其第一ハ刑事上ノ責任第二ハ民事上ノ責任是レナリ同シク是レ責任ナリト雖モ刑事上ノ責任ハ犯罪構成ノ元素具備シテ生ス獨リ民事上ノ責任ハ然ラス苟クモ權利ナシシテ他人ニ損害ヲ加ヘタル事實カ明確ナルトキハ必ス生スルモノトス蓋シ權利ナキノ所爲ニシテ他人ニ損害ヲ加ヘタルノ事實アリト雖モ其事實タルヤ必スシモ常ニ犯罪構成ノ元素ヲ具備スルモノニ非ス又

之ヲ構造スルカ爲メニハ刑法第七十五條以下ニ明示スル自由意思及
 ヒ識別ノ三要素ヲ具備セサルヘカラス其一ヲ欠ケハ以テ罪ト成ラサル
 ヲ通則トス然レモ其所爲ニ因リ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責
 任ヲ免カル、モノニ非ス是レ犯罪構造ノ元素欠クルカ爲メ被告人免
 訴又ハ無罪言渡ヲ受クルト雖モ其言渡ハ被害者ノ爲ス私訴ノ妨ケト
 ナラサル所以ナリ

右ノ論理ヲ實例ニ照シテ之ヲ示サンニ例ヘハ瘋癲人カ他人ノ所有物
 ヲ掠メ去リ又ハ幼年者カ隣家ノ或ル動産ヲ持去リタル場合ノ如キハ
 假令公訴ノ提起アルモ犯罪構成ノ元素ヲ具備セサルヲ以テ罪トナラ
 サルモ其掠メタル物又ハ持來リタル物ハ之ヲ返還セシメサルヘカラ
 ス否ラサレハ被害者ハ謂レナク損害ヲ負擔セサルヲ得ヌ又詐僞ノ嫌
 疑ニ因リ公訴セラレタル被告人カ證據不充分ノ故ヲ以テ無罪ノ言渡

ヲ受ケタルモ全ク被告者ノ動産若クハ不動産ヲ占有シテ既ニ他人ニ
 之ヲ移轉セシメ第三者カ善意ナリシヲ以テ之ヲ取戻スコトヲ得サル
 場合ニ於テ其被告人ヲシテ損害賠償ノ責ニ任セシメサルヘカラス是
 レ本條ノ設ケナカルヘカラサル所以ナリ

爰ニ又讀者ノ爲メ一言スヘキハ免訴ト無罪トノ區別是レナリ免訴及
 ヒ無罪ハ同シク是レ刑事ノ責任ヲ免レタルノ謂ナリト雖モ公訴未成
 立ノ前ニ於テ責任ヲ免カル、場合ト公訴成立ノ後ニ於テ責任ヲ免カ
 ル、場合トニ因リ免訴ト無罪トノ區別ヲ生スルモノニシテ同シク是
 レ責任ヲ免レタリトスルモ自ラ輕重ノ差アルモノトス即チ免訴ハ豫
 審ニ於テ犯罪ノ證據充分ナラスト認メラレ又ハ時効ニ罹リシカ若ク
 ハ法律ニ禁セラレタルモノニアラサリシ場合等ニ於テ全ク罪ト爲ラ
 サルモノト斷定セラレタルモノ是ヲ免訴ト云フ然レモ免訴ノ場合ニ

於ケル證據不充分ハ其時多少ノ證據アルモ充分ナラスト云フニ過キ
サルヲ以テ後日ニ至リ充分ナル證據ノ擧ガルトキハ更ニ犯罪ヲ構成
スヘキハ勿論ナリトス之ニ反シテ無罪ノ言渡ハ公判廷ニ於テ之ヲ言
渡スヘキモノニシテ亦是レ證據ノ不充分ナルニ因ルト雖モ一タヒ公
判廷ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモノハ假令後日ニ至リ新證據ヲ發
見スルコトアルモ復タ之ヲ問ハサルモノトス是レ一事ニ付テハ再理
セストスル原則ニ基クモノニシテ免訴ト無罪トノ言渡ニ於ケル効力
ハ是ニ於テ平區別アリト爲ス

第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 被告人ノ死去

第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴
ノ拋棄

第三 確定判決

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢
止

第五 大赦

第六 時効

本條ハ公訴ノ消滅ニ歸スヘキ場合ヲ指示シタル法文ニシテ即チ例外
ノ場合ナリトス第一條ノ規定ニ依レハ公訴ノ目的ハ刑ノ適用ヲ求ム
ルニ在ルヤ明カナルヲ以テ一タヒ公訴ヲ提起シタル以上ハ證據充分
ナラサル場合ノ外其目的ヲ達セサルヘカラスト雖モ何等ノ事項ノ發
生ニ遭フモ尙且ツ之ヲ貫カサルヲ得ストモハ公訴ハ到底終局スルノ
期ナキノミナラス或ハ好和ノ美德ヲ害シ或ハ他ノ裁判ヲシテ無効ニ
歸セシメ或ハ法律外ニ人ヲ懲罰シ或ハ聖旨ニ悖反シ或ハ時効ヲ畫餅

ニ歸セシメザルヲ得サルノ不都合ヲ來タスニ至ルヘシ故ニ公訴モ亦消滅ニ歸セシムル場合アルモノト法定セサルヘカラス是レ本條ヲ規定シ公訴ヲ消滅セシムヘキ効力ヲ有スル事項ノ何タルコトヲ指示シタル所以ナリ而シテ其事項ハ左ノ六箇ナリトス

第一 被告人ノ死去○凡ソ犯罪ハ其種類ノ何タルヲ問ハズ犯人一箇ノ所爲タリト云ハセルヘカラス假令ヘ他人ノ教唆ニ因リテ罪ヲ犯ス者アリトスルモ教唆ニ乘シテ之ヲ爲サシメタルモノハ他ニアラス即チ犯人自己ノ意思ナリト認定セサルヘカラス然ラハ則チ其犯罪ニ因リ刑事上ノ制裁ヲ受クヘキモノモ亦他人ニアラス犯人ノ一身ニ止マラシメサルヘカラス犯人一箇ノ罪ニ係ルモノハ骨肉ト雖モ其刑ノ餘響ヲ被フルヘキモノニアラス矧ヤ犯人ノ處刑ヲ他ノ者ニ加フルノ道理アラシヤ其レ然リ犯人ノ受クヘキ處刑ハ其一身ニ止マルヘキノ

ミ決シテ之ヲ他人ニ及ホスヘキモノニアラス故ニ犯人死亡スルトキハ公訴モ亦消滅ニ歸セサルヘカラス何トナレハ其公訴ハ犯人ニ對シテ刑ヲ適用セシムルノ目的ニ出テタルニ過キサレハナリ既ニ犯人以外ニ刑罰ヲ科スヘキモノナシトセハ假令ヘ其公訴ヲシテ存在セシムルモ果シテ何ノ効用カアル實ニ公訴ヲ進行セシムルノ途ナキニ非スヤ是レ被告人ノ死亡ヲ以テ公訴消滅ノ一原由ト爲シタル所以ナリ

往昔法理ノ未ダ十分ニ研究セラレサル時代ニ在テハ唯一個人ノ犯罪ニ因リテ無辜ノ親族ヲ刑シタルノミナラス死亡者ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルコトアリ當時其言ニ曰ク犯人死亡スト雖モ刑ノ言渡ヲ爲サ、ルヘカラス若シ犯罪ノ證據アルニモ拘ハラズ唯其死亡シタリト云フノ故ヲ以テ其罪名ヲ鳴ラサ、ルトキハ將タ何ヲ以テ他ヲ懲戒セシヤ假令死亡スルモ罪アル者ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲サ、ルトキハ宛

カモ其罪ヲ免除シタルニ異ナラス其肉體ハ死スルモ其罪ハ消滅スヘキモノニアラス然ルニ之ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲サ、ルトキハ死ヲ賭シテ惡事ヲ行フ者ノ如キハ遂ニ何等ノ大惡ヲ行フニ至ルヤ知ルヘカラスト蓋シ是レ他戒ノ趣旨ニ出ツルヤ明カナリト雖モ其法理ニ悖ルコト論ヲ俟タサルヘシ我亞細亞ノ諸邦ニ於テ近代マテモ犯人ノ死體ニ管杖ヲ加ヘ又ハ其首ヲ刎テタルカ如キモ亦是レ他戒ノ趣旨ニ出ツルト聞ク然レモ法理ノ研究漸ク至ルニ及ンテ兇惡ニ均シキ死後ノ處刑ハ全ク廢棄セラル、ニ至レリ

苟クモ法理ノ何タルヲ解シ刑事上ノ裁判法既ニ備ハルニ至テ尙且ツ死者ニ對シテ刑ノ言渡ヲ爲スカ如キハ法ヲ作ル者亦自ラ法ヲ破ルト云フモ不可ナカルヘシ凡ソ裁判ハ民刑ノ別ヲ問ハス原被兩造ノ舉證ニ付キ充分辨論ヲ爲シテ毫モ餘蘊ナカラシムルニ至テ始メテ之ヲ爲

スヘキノミ矧ンヤ最モ證據ノ明確ヲ要スヘキ刑事訴訟ニ於テヤ然ルニ唯公訴官ノ舉證ノミニ憑テ刑罰ヲ行フアラハ是レ杜撰ノ裁判ノミ偏頗ノ審判ノミ豈ニ信ヲ置クニ足ランヤ何トナレハ死者ハ一言ヲモ發セヌ又應サニ舉ケ得ヘキ證據ヲモ舉ケ得サルコモ拘ラス犯罪ト推認セラレテ處刑ヲ受クルモノト云ハサルヲ得サレハナリ是レ死者ニ對シテハ假令犯罪ノ證據アリトスルモ刑ノ言渡ヲ爲スハ法理ニ反スト云フ所以ナリ

然レモ被告人ノ死亡ニ因リテ公訴ノ必ス消滅スヘシト云フニ至テハ亦一二ノ疑點ナキニアラサルナリ何ソヤ曰ク二人ニアラサレハ犯スコト能ハサル姦通罪ニ於テ其一人カ死亡スレハ他ノ一人ニ對スル公訴モ亦消滅スルヤ否ヤノ疑問其一ナリ此犯姦罪ノ發生シタル場合ニ於テ姦婦ノ死亡シタルトキハ之ニ對スル公訴ト共ニ姦夫ニ對スル公

訴モ亦消滅スヘキモノトスル乎蓋シ其レ然ラン犯姦罪ハ姦婦ノ有罪
 定リテ姦夫ノ責罰存ス然ルニ姦婦既ニ死去シタル後ハ之ニ對スル公
 訴消滅セシヲ以テ其婦ヲ有罪視スルヲ得ス故ニ隨テ姦夫ノミニ犯姦
 罪ノ責罰ヲ及ホスコトヲ得ス他ナシ有罪視スルヲ得ヘキ姦婦ナクシ
 テ特リ姦夫ナル者アルヘキ謂レアラサレハナリ
 右ニ反シテ姦夫ノ死亡シタル場合ニ於テ姦婦ニ對スル公訴モ亦自ラ
 消滅ニ歸スヘキヤ否ヤハ一大疑問タルヘシト雖モ法理上ヨリ論スル
 トキハ姦婦ノ犯罪ハ姦夫ノ死亡ニ拘ラス獨立シテ構成セラル、モノ
 ト判定セサルヘカラス前陳ノ場合ニ於ケル姦夫ノ犯罪ヲ成立セシメ
 ントセハ必ズ有罪ノ姦婦ナカルヘカラスト雖モ姦婦ニ至テハ然ラス
 何トナレハ其婦カ全ク有夫ノ婦ナルトキハ既ニ夫以外ノ男子ト交通
 シタルコトノ事實アル以上ハ其姦夫ノ何人タルヲ問フノ必要ナク又

其姦夫ノ死生ヲ問フノ必要ナキモノナレハナリ故ニ姦婦ノ犯罪ハ姦
 夫ノ遁逃シタル場合ト雖モ當然成立スヘキモノトス例ヘハ有夫ノ婦
 ニシテ何者トカ姦通シタリトセン乎其夫カ姦夫姦婦ノ同衾シテアリ
 シ事實ヲ發見シ其犯罪ノ場所ニ闖入シテ姦夫ヲ併セテ之ヲ捕ヘント
 シタルモ能ハス姦夫ハ早ク已ニ遁逃シタリト假定セヨ此場合ニ於テ
 姦夫ノ何人タルヲ知ル能ハスト雖モ姦通ノ實事カ明白ナル以上ハ其
 罪ヲ免カル、コトヲ得サルハ勿論ナリトス然ルトキハ姦夫死亡シテ
 其何人タルヲ知ル能ハサルモ特リ姦婦ニ對シテ公訴ヲ爲スニ於テ何
 ノ妨ケカアラソ其姦夫ノ誰タルヲ知ル能ハサルノ點ハ二個ノ場合共
 ニ同一ナレハナリ、

第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄○被害者ノ告
 訴ヲ待テ受理スヘキ事件即チ刑法ニ掲ケタル姦通、猥褻、罵詈、讒謗ノ諸

罪及ヒ特別法ニ定メタル出版條例又ハ商標條例ノ違犯等ハ皆被害者ノ告訴ヲ待テ而シテ後其罪ヲ論スヘキモノナルヲ以テ其告訴ヲ拋棄シタルトキハ公訴モ亦隨テ消滅ニ歸スヘキモノトス之ヲ換言スレハ告訴ノ拋棄ハ公訴消滅ノ理由ト爲ルヘキモノトス

斯ノ如ク告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ限り告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴消滅ノ理由ト爲スモノハ何ソヤ蓋シ當然ノ理アリテ然ラシムルノミ然レモ姦通、猥褻、罵詈譏謗等ノ罪モ亦以テ社會ノ秩序ヲ害スルニ足ルヘキモノト認メサルヘカラス蓋シ是等ノ事タルヤ素ヨリ正當視スルヲ得ス苟クモ不正ノ事ハ大小トナク社會秩序ノ平寧ヲ傷クルモノナレハナリ果シテ然ラハ亦是レ社會ノ罪人ナリ假令ヘ被害者ノ告訴ナキモ其罪ヲ問フテ可ナルモノ、如シ然ルニ被害者告訴ヲ拋棄スルトキハ公訴モ亦隨テ消滅ニ歸スヘキモノトスルハ宛カモ行害者ヲ社會ニ

放ツニ異ナラス是レ甚タ其當ヲ失スルニ似タリ然レモ犯罪ニ付テハ先ツ其害ノ社會ニ及ホス程度ト一箇人ニ及ホス程度トヲ比較シ孰レカ最モ大ナルヤヲ問ハサルヘカラス若シ全社會ニ及ホスノ害果シテ一箇人ニ加フル所ノ害ヨリモ大ナルトキハ社會ノ利益ノ爲メ之ヲ懲罰セサルヘカラス是レ他ナシ全社會ノ利益ノ爲メニハ一箇人ノ利益ヲ犠牲ニスヘシトハ保護上ノ原則ナレハナリ右ニ反シテ一箇人ニ加フル所ノ害ハ社會ニ加フル所ノ害ヨリモ大ナルトキハ社會ハ之ニ一歩ヲ讓リ先ツ一箇人ノ利益ヲ保護シテ可ナリ而シテ告訴ヲ待テ受理スヘキ姦通、猥褻、罵詈譏謗等ノ犯罪ハ社會モ多少ノ害ヲ被ラサルニアラスト雖モ之ヲ公ケニシテ一箇人ノ被ル所ノ害ニ比スレハ小ナリト云ハサルヘカラス故ニ此場合ニ於テハ社會ハ一箇人ノ利益ニ一歩ヲ讓リ被害者ノ告訴ヲ待テ云々ト定メタルモノトス實ニ被害者

カ未タ告訴ヲ爲サ、ルニモ拘ラス社會カ之ヲ摘發シテ公訴ヲ起スト
 キハ果シテ如何ナル不利益ヲ被害者ニ與フヘキヤトセハ或ル場合ニ
 於テ公訴カ却テ被害者ノ名譽ヲ毀損スルコトアルヘキヲ以テナリ例
 へハ我婦カ或者ト姦通シタル事實ヲ知り得タリトセン乎若シ之ヲ告
 訴シテ其犯罪ヲ世人ニ知ラシムルトキハ却テ自己ノ名譽ヲ傷クルニ
 至ルヘシ寧ロ之ヲ忍ンテ告訴セス他ノ事ニ託シテ其婦ヲ去ルニ加カ
 ストシ故ラニ之ヲ秘密ニ付シタルニモ拘ラス社會カ之ヲ摘發シテ公
 訴ヲ提起スルトキハ果シテ其夫ノ名譽ヲ害スルコトナシトスルカ社
 會ノ爲メ害ヲ除カントシテ却テ被害者ニ一層ノ害ヲ加フルニ至ルヘ
 クシテ是レ法律ノ最モ避クヘキ所ナリ故ニ姦通、猥褻、罵詈譁等ノ犯
 罪ハ被害者ニ於テ告訴ヲ拋棄シタルトキハ公訴ノ消滅スルモノト定
 メタル所以ナリ

舊治罪法ニ就テ之ヲ視レハ其法文ニ「告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付
 テ被害者ノ棄權又ハ私和」トアリ此法文ニ依レハ公訴ハ管タニ被害者
 カ告訴權ヲ拋棄シタルトキニ於テ消滅スルノミナラス加害者ト私和
 シタルトキモ亦消滅スヘキモノトセリ新法ニ於テハ被害者ノ棄權又
 ハ私和ヲ修正シテ「告訴ノ拋棄」ト爲シ被害者及ヒ私和ノ文字ヲ削除セ
 ラレタリ姑ク舊法ニ依テ考フレハ棄權ハ告訴前ニ屬シ私和ハ告訴
 後ニ屬スルモノ、如ク然リ即チ被害者カ告訴權ヲ拋棄シテ之ヲ爲サ
 ハルトキハ公訴ハ固ヨリ成立セス既ニ告訴シタル後ト雖モ私和スレ
 ハ公訴モ亦消滅スヘシト云フノ意味タルコト敢テ疑ヲ容レサルヘシ
 然レモ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ關シ被害者未タ告訴ヲ爲サ、ル
 トキハ公訴モ亦未タ發生セス發生セサル公訴ハ消滅スヘキ謂レナシ
 故ニ告訴ノ拋棄トハ一旦告訴シテ後チ之ヲ拋棄スル場合ヲ指シタル

モノト想像セサルヘカラス去リナカラ告訴ハ一旦之ヲ爲ス以上ハ夫レニテ告訴ヲ遂ケタルモノナルヲ以テ又更ニ之ヲ拋棄スルトハ何ノ謂ソヤ拋棄スヘキモノ、最早存セサルニアラスヤ蓋シ告訴ノ拋棄トハ被害者カ告訴シタル事件ニ付キ將來一切ノ關係ヲ絶ツト云フノ意味ナルヘシ左スレハ拋棄ノ二字ハ舊法ノ棄權及私和ト其意味ヲ同フスルモノニシテ唯異ル所ハ舊法ハ明白ニシテ感ヒヲ生セス新法ハ解釋ノ困難ヲ致セシニ在ルノミ故ニ予ハ此事項ニ於テハ舊法ヲ慕フモノトス

第三 確定判決○凡ソ訴訟ハ其事件ノ何タルヲ問ハス必ス一定ノ目的ナルヘカラス苟クモ目的ナキノ訴訟ハ之ヲ提起スルノ必要アラサルノミナラス裁判所モ亦之ヲ受理スルノ義務ナシト云フヘシ何トナレハ裁判所ハ遊戲ニ均シキ無用ノ事項ヲ受理スル所ニアラザレハ

ナリ故ニ檢事ノ提起スル公訴ハ刑ヲ適用シ以テ社會ノ安寧ヲ維持スルヲ目的トシ被害者ノ提起スル私訴ハ損害ノ回復ヲ謀ルヲ目的トス而シテ既ニ其目的ヲ達スルヲ得ハ訴訟ハ全ク其局ヲ結了シタルモノトシ再ヒ之ヲ提起スルノ必要アラサルヘシ然レモ訴訟ハ必スシモ皆其目的ヲ達スヘキモノトハ豫定スヘカラス何トナレハ神明ニアラサルヨリハ檢事其人ト雖モ萬一ニ事理ヲ誤リ不審ノ公訴ヲ起スコトナシトセサレハナリ檢事既ニ然リ矧ンヤ被害者ノ意思ヨリ出ツル私訴ニ於テヤ故ニ訴訟ハ之ヲ審理スルニアラザレハ未タ以テ其理非ヲ斷定スヘカラス是レ訴訟ニ於テ或ハ其一部分ヲ達スルニ止マリ又或ハ全敗ヲ取ルコトアル所以ナリ然レモ理非ノ裁判ヲ法官ニ委任シタル以上ハ假令其結果カ全ク自己ノ不利益ニ歸スルコトアルモ裁判ノ確定ニ從ヒ請求ノ思念ヲ絶タシメサルヘカラス若シ夫レ同一事件ニ

付キ際限モナク訴訟ヲ起スモ不可ナキモノトセハ竟ニ其局ヲ結フノ期ナカルヘシ當テ其局ヲ結フノ期ナキノミナラス被告人ニ與フルノ不利益ハ底止スル所ヲ知ラサルニ至ルヘシ何トナレハ原告ハ敗訴スル毎ニ新訴ヲ提起シ到底被告人ノ拘束ヲ絶ツノ期ナカルヘキヲ以テナリ故ニ確定裁判ハ一事件ヲ終局スルノ効力ヲ生セシメサルヘカラス是レ確定裁判モ亦公訴ヲ消滅セシムル理由ノ一ト爲シタル所以ナリ

抑モ確定裁判ニシテ公訴ヲ消滅セシムルハ果シテ如何ナル場合ニ在リヤトセハ蓋シ三箇ノ條件ヲ具備スル場合ニ在リトス第一訴訟ノ原因同一ナルトキ第二訴訟ノ目的同一ナルトキ第三訴訟人ノ同一ナルトキ是レナリ此三箇ノ條件ヲ具備セサルトキハ同一事件ニ係ルト雖モ新訴ヲ提起スルノ理由ヲ生スル場合アルヘキヲ以テ公訴消滅ノ効

力ヲ生セサルコト蓋シ論ヲ俟タサルヘシ左ニ民事ニ於ケル一二ノ適例ヲ擧ケテ讀者ノ參考ニ供スヘシ

爰ニ甲者アリ乙者ニ對シテ若干ノ債權アリトセン乎此債權ハ即チ是レ乙者ニ對シテ訴訟ヲ提起スル原因ニシテ其辨濟ヲ請求スルモノハ即チ訴訟ノ目的ナリ而シテ甲乙ハ共ニ訴訟人ノ地位ニ立ツモノナリ此訴訟ニ於テ甲者ハ第一審ノ裁判ニ全敗ヲ取ルトキハ之ヲ控訴シテ第二審ノ裁判ヲ受クルノ權利アリト雖モ再ヒ全敗ヲ取ッテ其裁判カ確定スルトキハ甲者ノ權利ハ是ニ於テ全ク消滅ニ歸シ他日其同一事件ニ付キ同一ノ乙者ニ對シ同一ノ原因同一ノ目的ヲ以テ再ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得サルヘシ何トナレハ甲者ノ權利ハ前確定裁判ノ結果ニ因リ既ニ全ク消滅ニ歸シタルハナリ唯ク同一事件ニ付キ前裁判カ確定シタルニ拘ラス再ヒ新訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキ場合ハ前陳三個

ノ條件ニ於テ其一以上ヲ異ニスルトキニ限ラサルヘカラス例ヘハ確定裁判ニ於テハ貸金ノ資格ヲ以テ起訴シ新訴ニ於テハ預ケ金ノ資格ヲ以テ之ヲ請求スルノ類即チ是レナリ斯ノ如キハ前者ト後者ト全ク訴訟ノ原因ヲ異ニスルヲ以テ假令前ト同一ノ目的ヲ以テ同一ノ人ニ對シテ起訴スルモ被告ハ此事件ハ既ニ確定裁判ヲ經タリトノ抗辯ヲ以テ之ニ當ルコトヲ得サルヘシ何トナレハ消費貸借ト寄託契約トハ全ク契約ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ之ヲ審理スルニアラサレハ果シテ確定裁判ニ係ル事件ト同一ナルヤ否ヤヲ判定スルコトヲ得サレハナリ又訴訟ノ目的ヲ異ニスル場合ニ於テモ亦新訴訟ハ當然成立スヘキモノトス例ヘ前訴ニハ消費貸借ニ付キ擔保ヲ求ムルヲ以テ其目的ト爲シ後訴ニハ其辨濟ノ請求ヲ目的トスル場合等是レナリ此場合ニ於テモ其訴訟ハ當然成立スヘキモノハ他ナシ擔保ノ請求ト辨濟ノ請求

トハ全ク其目的ヲ異ニスルアレハナリ又同一事件ニシテ且ツ同一ノ原因及ヒ同一ノ目的ヲ以テ新訴ヲ起スモ其訴訟人ハ前訴訟人ト全ク異別ナルトキハ亦是レ成立スヘキモノトス何トナレハ前後ノ訴訟人全ク異ナルトキハ如何ナル新證據ヲ有スルヤ又如何ナル新理由ヲ述フルヤ審理ノ後ニアラサレハ之ヲ判定スルコトヲ得サレハナリ矧ソヤ前訴訟人ハ假ニシテ後訴訟人ハ眞ナルヤモ亦未ダ知ルヘカラサルニ於テヲヤ

刑事訴訟モ亦民事訴訟ト同一理ニシテ三個ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ公訴消滅ノ効力ヲ生セシムルコトヲ得ス而シテ刑事訴訟ニ付テハ犯罪ヲ以テ訴訟ノ原因トシ刑ノ適用ヲ以テ訴訟ノ目的トス唯異ナル所ハ原告人ト看做スヘキ者ハ常ニ同一ナル點ニ在リトス即チ原告タル者ハ何レノ場合ニ於テモ社會ナルコト是レナリ以上三個ノ條

件ニ於テ其一以上ヲ異ニスルトキハ第一ノ被告事件ニ關スル裁判既ニ確定スルモ第二ノ被告事件ニ關スル公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス例ハ同一ノ人ニ對シ第一ノ公訴ハ寄託物消費ニシテ其裁判既ニ確定シ後日ニ至リ竊盜ノ犯罪發覺シテ第二ノ公訴起リタルトキハ假令前裁判ハ確定スルモ之ヲ以テ公訴消滅ノ理由ト爲スコトヲ得サルヘシ何トナレハ寄託物消費ト竊盜犯トハ全ク公訴ノ原因及ヒ公訴ノ目的タル刑ノ適用ヲ異ニスルアレハナリ又同シク竊盜犯ニ係ルモ前コハ甲ノ家ニ忍ビ入りテ之ヲ犯シ後コハ乙ノ不在ヲ窺フテ之ヲ犯シタルトキハ甲ニ對スル犯罪ノ裁判既ニ確定スルモ之ヲ以テ乙ニ對スル犯罪ノ公訴ヲ消滅セシムルノ理由ト爲スコ足ラサルヘシ何トナレハ前者ト後者トハ全ク被害人ヲ異ニスルアルアレハナリ唯タ其レ公訴ノ原因タル犯罪カ同一ニシテ公訴ノ目的タル刑ノ適用

モ亦前後同一ナルノミナラス其公訴ニ關係スル者モ亦同一ナルトキニ於テノミ公訴消滅ノ効カヲ生スヘキモノトス故ニ數人共同シテ詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル場合等ニ於テ甲ハ證據不充分ニシテ無罪ノ言渡ヲ受ケタル後チ乙丙逮捕セラレテ公訴ヲ受ケタリトセン乎乙丙ハ甲ニ對シテ爲シタル裁判カ既ニ確定シタルヲ理由トシテ其公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得サルヘシ何トナレハ甲ト乙丙トハ全ク其人ヲ異ニスルアレハナリ唯甲カ無罪ノ言渡ヲ受ケ後日ニ至リ前ト同一ナル詐欺事件ニ係リ公訴ヲ受ケタル場合ニ於テノミ前裁判ノ確定ヲ以テ後ノ公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘキモノトス而シテ斯ノ如キ場合ハ如何ナルトキニ在リヤトセハ例ハ被害者カ後日ニ至リ詐欺ノ新證據ヲ發見シタル場合等ニ於テ再ヒ告訴ヲ爲シ遂ニ公訴ノ提起アラシメタルトキノ類即チ是レナリ

然レモ公訴消滅ノ場合ハ共犯罪ニ於テモ亦往々生スルコトアルヘキ
 モノトス例ヘハ犯姦罪ニ於テ有夫ノ婦ト姦通シタル者アリトセンカ
 其夫ハ姦夫姦婦ノ同衾ヲ窺ヒ其場ニ闖入シテ之ヲ捕ヘント要シタル
 モ姦夫ハ早ク已ニ逃走シタリ是ニ於テ其夫ハ姦婦ヲ捕ヘテ告訴シタ
 ル場合ニ於テ姦婦ハ姦夫ノ在ラザリシヲ奇貨トシ百方辨論ヲ飾リ遂
 ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタル後テ姦夫ハ被害者ノ爲メニ捕ヘラレ告訴ヲ
 受ケタリト假定セヨ此場合ニ於テ其公訴ハ成立スヘシト爲ス乎曰ク
 否ナ決シテ成立スヘカラス何トナレハ犯姦罪ハ有罪ノ姦婦アルニア
 ラザレハ成立スヘキモノニアラザルヲ以テ姦婦カ既ニ無罪ノ言渡ヲ
 受ケタルトキハ姦夫ノ罪ノミ獨リ成立スヘキノ道理アラザレハナリ
 故ニ此場合ニ於テ姦夫カ既ニ確定シタル姦婦ニ對スル無罪言渡ノ裁
 判ヲ理由トシテ自己ニ對スル公訴ノ無効ナルコトヲ主張セハ之ヲ消

滅ニ歸セシムルヲ以テ當然ノモノト思考ス
 確定裁判ノ効力ヲ以テ公訴ヲ消滅セシムルハ前陳ノ如キ場合ニ屬ス
 ヘシト雖モ又一二疑問ノ存スルモノアリ何ソヤ曰ク殺傷罪ニ關スル
 モノ是ナリ今爰ニ銃獵ニ出テ、誤ツテ人ヲ銃殺シタル者アリトセン
 乎此罪ニ對スル裁判ハ全ク過失罪ナリト認定セラレ罰金ノ處分ヲ受
 ケテ其裁判既ニ確定シ後日ニ至リ加害者ト被害者トハ互ニ宿怨アリ
 シヲ以テ加害者ハ銃獵ノ際ニ於テ被害者ニ出會シタルヲ復仇ノ時機
 トナシ之ヲ故殺シタルニ相違ナキモ當時之ヲ誤殺ナリト爲ハリタル
 事實カ發覺シタルニ因リ檢事ハ之ヲ逮捕シテ更ニ故殺犯ノ公訴ヲ提
 起シタルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤ被告人ハ同一人ニシテ公
 訴ノ原因モ亦同一ナルニ依リ前裁判ノ確定ヲ以テ此公訴ヲ消滅セシ
 ムルコトヲ得ヘキカ否ナ是レ予カ一大疑問ナリト予ハ信ス此場合ニ

於テハ前裁判ノ確定ヲ以テ公訴ヲ消滅セシムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ何トナレハ前者ト後者トハ全く公訴ノ目的ヲ異ニスルアリト雖モ歸スル所ハ同一ナリト云ハサルヲ得サレハナリ即チ前ニハ誤殺犯ニ對スル處分ヲ求メ後ニハ故殺犯ニ對スル處刑ヲ求メ前後刑ノ適用ヲ異ニスルアリト雖モ同シク是レ殺傷罪上ノ求刑タルニ外ナラズシテ其事件トシテ視ルヘキモノハ全く同一ナレハナリ故ニ前裁判ノ確定シタルニ拘ラヌ後ノ公訴ヲ有効ニ行ハレシムルハ法理ニ適スルモノトセハ認メ難カルヘシ故ニ予ハ亦是レ公訴消滅ノ範圍内ニ屬スルモノト信セリ

然レモ右ニ反シテ前裁判カ全ク被害者ニ於テ故意ヲ以テ害ヲ受ケタル事實明確ナルモノト認定シ(加害者カ充分注意シタルニモ拘ラヌ被害者ハ醉ヲ帶ヒテ故ラニ銃丸ノ來ル所ニ向ヒタル事實カ明確ナリシ

場合ノ類之ニ對シテ單ニ無罪ノ言渡ヲ爲シ其裁判確定シタル後チ加害者ハ銃獲免許ヲ受ケヌシテ恣マニ銃獲シタルコトカ發覺シ檢事ハ相當ノ手續ヲ爲サヌシテ恣マニ銃獲シタルハ犯則ナリトシ同一ノ人ニ對シ同一ノ事件ニ付キ再ヒ公訴ヲ提起シタルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤ蓋シ此場合ニ於テハ其公訴ハ當然成立シ前裁判ノ確定ヲ以テ之ヲ消滅セシムルコトヲ得サルヘシ何トナレハ誤殺罪ト條例違犯トハ各箇獨立ノ罪ヲ成立スルモノナレハナリ

策四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止○法律ハ被告人ノ不利益ト爲ルヘキトキハ既往ニ溯ルヘキモノニアラサルモ被告人ノ利益ト爲ルヘキトキハ既往ニ溯ルヲ以テ原則トス刑法第三條ノ規定ニ照シテ明瞭ナリ故ニ或ル犯罪ノ事實アリテ既ニ公訴ヲ受理シタルモ未ダ其裁判アラサル前ニ新法律ノ頒布アリテ其種ノ行為ハ罪トセ

ス即チ舊法ノ之ヲ罰シタル條文ヲ削除シタルトキハ公訴ハ之ニ因リテ消滅シ最早其事件ヲ刑ニ處スルコトヲ得サルモノトス若シ之ニ反シテ犯罪ノ當時ニ存在シタル法律ニ照シテ之ヲ罰スルトキハ是レ刑法第三條ニ明記シタル新舊ヲ比照シ輕キニ從テ論スヘキ刑法ノ原則ニ悖戻スルモノトス是レ新法律ノ頒布ニ因リ刑ノ廢止アリタルトキハ直チニ其刑ニ問フヘキ所爲ニ對スル公訴ノ消滅スルモノト定メタル所以ナリ

第五 大赦○大赦ハ犯罪人其人ヲ目的トセス一種ノ犯罪ヲ目的トシテ其犯罪ニ參與シタル者ハ何人タルヲ問ハス悉ク之ヲ解放シ其結果ハ嘗テ犯罪ノアラサリシ地位ニ復セシムルニアルモノトス蓋シ大赦ハ國家擾亂ノ餘若シハ施政ノ方針更新ノ時ニ於テ將來國力ノ一致國民ノ親睦平和ヲ期センカ爲メ專ラ舊怨ヲ解クノ趣意ニ出ツルモノナ

ルヲ以テ國事犯ニ對シテ之ヲ行フヲ常トス是ニ於テ乎大赦ハ其性質罪アルヲ認メテ特ニ之ヲ赦免スルニアラス罪跡其モノヲ遺忘シ曾テ其罪ナカリシモノト看做スヲ以テ其性質トス既ニ大赦ハ以テ其罪ヲ遺忘シ曾テ之ナカリシモノト看做ス以上ハ其罪ニ對スル公訴ノ尙ホ存立スヘキ謂レアラサルナリ

第六 時効○時効トハ所謂舊治罪法ノ期滿免除ニシテ第八條ニ規定スルモノ是レナリ犯罪ハ時効ニ因リ消滅ニ歸スルヲ以テ之ニ對スル公訴モ亦隨テ消滅ニ歸スヘキハ當然トス而シテ時効ノ法理如何ハ第八條ノ下ニ於テ之ヲ詳論スヘキヲ以テ茲ニ贅セズ

第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 放棄又ハ和解
- 第二 確定判決

第三 時効

八十六

本條ハ私訴提起ノ權利自ラ消滅ニ歸スヘキ事項ノ何タルコトヲ指示シタルニ外ナラス而シテ其事項ハ第一被害者ノ被訴權ヲ拋棄シ又ハ加害者ト被害者トノ間ニ和解ヲ爲シテ事ヲ落着シタルトキ第二確定判決ノ効力即チ既判力アルトキ第三時効ニ罹リタルトキ是レナリ此第二ノ確定判決第三ノ時効カ私訴權ヲ消滅ニ歸セシムルノ理由ハ亦是レ前條ニ於テ公訴權ヲ消滅セシムルト同一理ニ出ツルヲ以テ爰ニ贅セズ宜ク前條ノ解ヲ參觀セハ自ラ法理ノ存スル所ヲ了解スルヲ得ヘシ故ニ前條ト少シク關係ヲ異ニセル第一ノ事項ニ付テ説明ヲ下セハ以テ足レリトス

抑モ私訴ヲ起スト否トハ被害者ノ隨意ニシテ法律ノ干涉スヘキモノニアラス何トナレハ被害者ニ於テ損害ヲ加ヘラレタルニ拘ハラヌ尙

ホ之ヲ忍ンテ止マント欲スレハ則チ止ミ法律ハ之ヲシテ強ヒテ私訴ヲ起サシムルノ必要アラサレハナリ故ニ私訴ハ被害者之ヲ起サントスレハ即チ起リ被害者之ヲ拋棄スレハ忽チ消滅シ又已ニ之ヲ起スモ和解ヲ行ヘハ亦忽チ消滅スヘキモノト法定セラレタルモノトス之ヲ要スルニ私訴ノ消長ハ被害者ノ自由權内ニ在リ是レ法文上拋棄又ハ和解トアル所以ナリ是レヨリ拋棄ト和解トノ區別ニ付キ一言スヘシ拋棄トハ被害者ノ自由ナル獨意ヲ以テ私訴ヲ起サスシテ止ミ又ハ已ニ之ヲ起シテ後チ之ヲ取下クルヲ云フ之ニ反シテ和解トハ被害者ト加害者トノ間ニ相互ノ意思ヲ通シ被害者ニ於テ之ヲ宥恕スルカ若クハ加害者ノ謝意ヲ容レテ之ニ寛假シタル場合ヲ云フナリ

然リ而シテ公訴ノ消滅ニ歸スヘキ事項ハ六個ニシテ私訴ノ消滅ニ歸スヘキ事項ハ僅カニ三個アルニ過キス是レ故ニ消滅ノ範圍ヲ縮少セ

八十七

シメタルカ如シト雖モ私訴消滅ノ原因ハ法文ニ掲ケタル三箇ノ事項ニ限ラサルヘカラサル理由アリテ存スルカ故ナリ之ヲ左ニ畧説スヘシ

私訴ハ何カ故ニ被告人ノ死亡ニ因リテ消滅セサルヤ曰ク他ナシ私訴ハ前既ニ説明シタルカ如ク唯タニ名譽ノ毀損等ニ付テノミ起ルモノニアラス損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還ヲ請求スルカ爲メ之ヲ提起スルコト最モ居多ナルヲ以テ假令被告人死亡スルモ私訴ノ目的ニ満足ヲ與フヘキ財産存ス然ルトキハ其財産ヲ承繼スル相續人ハ亦隨テ死亡者ノ義務ヲ承繼セサルヘカラス是レ私訴ハ被告人ノ死亡ニ因リテ消滅セサル所以ナリ

私訴ハ何カ故ニ犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止ニ因リテ消滅セサルヤ曰ク他ナシ元來公訴ト私訴トハ全ク其性質ヲ異ニシ各箇獨立スヘキモノナルヲ以テナリ抑モ私訴ノ目的ハ損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ請求スルニ在ルヲ以テ苟クモ損害ヲ受ケタル事項アリトセハ假令ヘム公訴ハ新法律ノ効力ニ依リ消滅スルモ私訴ノ權利ハ消滅スヘキモノニアラス何トナレハ新法律ノ効力ハ單ニ刑事上ノ責任ヲ免レシムルニ止マリテ民事上ノ責任ヲモ免レシムヘキモノニアラサレハナリ實ニ余ノ屢論スルカ如ク損害賠償贓物返還ノ責任ハ刑法ノ問罪ヲ待チテ後チ存スルモノニアラス何人ニ限ラス權利ナク他者ヲ害スヘカラス他者ノ所有ハ之ヲ侵スヘカラスト云フ民法普通ノ原理ニ基キテ存スルモノトス是レ新法ヲ以テ一犯罪ニ對スル刑ヲ廢止スルモ其犯罪ニ起因スル私訴ハ依然トシテ存スル所以ナリ

私訴ハ何カ故ニ大赦ノ場合ニ於テ消滅セサルヤ曰ク他ナシ大赦ノ精神ハ國事上ノ犯罪ヲ赦免シテ國家ノ安寧ヲ致サントスルニ在リテ存

シ元來民事上ノ負擔ヲ免除スルノ趣旨ニ出ツルニアラサレハナリ若シ夫レ大赦ノ効力ハ私訴ヲ併セテ消滅ニ歸セシムルモノトセハ一箇人民ノ權利ハ甚ダ脆弱ナルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ國事犯者ノ爲メ如何ナル損害ヲ被ムラシメラルモ唯一ノ大赦典ヲ行ハルハトキハ默シテ止ムノ外ナカルヘキナリ例ヘハ國事犯者カ其目的ヲ達セシカ爲メ或ル良民ヲ脅迫シテ若干ノ資金ヲ借リ入レタリトセシ乎此良民ハ當然加害者ニ對シテ賠償ヲ請求シ得ヘキニモ拘ラス其公訴カ大赦ニ遇フテ消滅シタルカ爲メ此請求權モ亦忽チ消滅ニ歸スヘキモノトセハ實ニ吾人ノ權利ハ脆弱ナリト云ハサルヘカラス然レニ民事上ノ責任ハ大赦ノ措テ問フ所ニアラス否ナ大赦ハ吾人ノ權利ヲ妨碍スルモノニアラス唯被告人ノ犯罪ヲ赦免スルニ過キサルノミ是レ本條ニ於テ大赦ヲ掲ケサル所以ナリ

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

- 第一 違警罪ハ六月
- 第二 輕罪ハ三年
- 第三 重罪ハ十年

時効トハ時ヲ經ルノ効力ト云フニ外ナラスシテ一定ノ期間ノ經過ニ因リ權利若シクハ責任ノ自ラ消滅スルノ謂ヒナリ故ニ舊法ニ於テハ期滿免除ト稱シ期間ノ滿了ニ因リテ免除セラルハノ意味ヲ表示セリ惟フニ犯罪ノ責任ヲ免カルハノ點ヨリ觀察スレハ免除ノ文字妥當ナルヘシト雖モ或ハ公權若クハ私權ノ消滅スル點ヨリ觀察スルトキハ免除ノ文字其當ヲ失スト云フヘシ寧ロ時ヲ經ルノ効力ニ因リ或ル權利ノ消滅スル語字ヲ選フニ如カス且ツ民法其他ノ法律ニ於テモ亦皆

ナ時ノ効ニ因リ或ハ義務ノ免除或ハ權利ノ取得ヲ推定スル方法ヲ時効ト爲セリ故ニ本法ニ於テモ亦舊法ノ期滿免除ヲ時効ト改メタル所以ナリ

時効ニハ刑ノ時効ト公訴ノ時効トノ區別アリテ存シ刑ノ時効ハ之ヲ刑法中ニ規定スレヲ以テ本法ニ之ヲ掲クルノ必要ナシ故ニ本法ニ於テハ單ニ公訴ノ時効ノミヲ規定シタリ蓋シ公訴ノ時効ニ付テハ法學社會ニ數種ノ説アルヲ以テ予ハ其中ニ就テ最モ力アリトスルニ説ヲ掲ケ之ニ予ノ持論ヲ附シテ以テ讀者ノ參考ニ供スヘシ

甲論者ハ曰ク刑罰ノ時効ト公訴ノ時効ト二者共ニ其理由ヲ一ニシテ之ヲ論セサルヘカラス今爰ニ一人ノ犯罪者アリトセン乎假令ハ或ル期間内幸ニシテ人ノ耳目ニ觸レヌ深ク之ヲ秘シテ犯罪ノ事跡ヲ隱蔽シタリトスルモ其心ニ於テ安シトスル乎否ナ決シテ然ラヌ苟クモ或

ル罪ヲ犯シタル事實カ自己ノ腦裏ニ印シテ去ラサル限リハ他ノ良民ノ如ク青天白日ノ下ニ生息スルノ心地ナカルヘシ居常惴々トシテ唯罪惡ノ發覺センコトヲ之レ怖レ人ヲ見ル毎ニ探偵ナランカト願ミ若クハ捕吏ナランカト想ヒ疑心暗鬼ヲ生シテ唯ニ路頭ノ石佛道傍ノ枯木ヲモ怖レテ之ヲ避ケントスルノミナラス風聲鶴唳ニモ驚カサレ天地廣シト雖モ死シト五體ヲ容ルハノ地ナカラントスルハ人情ノ常ナリ既ニ此畏懼アリトスル乎其心裏ノ苦惱凡ソ如何ソヤ實ニ其苦惱ハ現ニ受刑ヲ受ケテ囹圄ノ中ニ投セラレ日々ニ苦役ニ就ク者ト軒輊スル所ナカルヘシ果シテ然ラハ假令ハ法網ヲ免カルハモ數年若クハ數十年間處刑ノ中ニ在リシト云フニ異ナラス然ルニ尙且ツ之ヲ偵捕シテ公訴ヲ起スヘシ刑罰ヲ加フヘシト云フハ宛モ是レ二重ノ刑ニ處スルニ異ナラス故ニ或ル期間ヲ經過シタル犯罪ハ公訴及ヒ刑ヲ免カ

レシメサルヘカラス是レ時効ノ規定ヲ要スル所以ナリト
 甲論者ノ論據トスル要點ハ蓋シ他ニ在ラス法律上ノ推測ニ於テ社會
 ハ善良ノ分子ヲ以テ組織スルモノト認定スルニ因リ前例ノ如キ犯罪
 者ハ假令實刑ヲ受ケサルモ自ラ我カ良心ニ咎メラレ其苦惱ハ實刑ヲ
 受ケタルニ異ナラス故ニ再ヒ罪ヲ犯スコトナキモノト推認シ最早之
 ニ刑罰ヲ加フルノ必要ナシ宜ク之ヲ宥恕シテ可ナルヘキノミナラス
 犯罪後既ニ數年若クハ數年ヲ經過シタル以上ハ社會モ亦果シテ其犯
 罪アリシヤ否ヤヲ遺忘シタルモノト看做ス可キハ當然ナリ是ヲ以テ
 假令ヘ其犯罪カ發覺スルモ之ヲ懲戒スルノ必要ナシ社會カ既ニ之ヲ
 遺忘シタル以上ハ一人ヲ懲シテ以テ世人ヲ懲ストノ効益ヲ生スヘキ
 モノニアラス然ルニ犯罪後既ニ數年若クハ數十年ヲ經過シタルニモ
 拘ラス尙且ツ之ニ刑罰ヲ加ヘントスルハ宛カモ是レ二重ノ刑ニ處ス

ルノ結果ヲ免レス犯罪者數年若クハ數十年間實刑ヲ受ケタルト同一
 ノ苦惱ヲ爲シタルモノト看做サ、ルヘカラスト爲スニ在ルモノトス
 然レモ予ヲ以テ之ヲ論スルトキハ未タ以テ法律上時効ヲ設ケタルノ
 根據ト爲スニ足ラス予ハ尙ホ一步ヲ進メテ之ヲ左ニ論究スヘシ
 論者ノ言ノ如ク犯罪者カ法網ヲ免レタル間ニ於テ其心裏ニ苦惱ヲ感
 シタルハ果シテ實刑ヲ受ケタルト同一ナルコトアリトスルモ斯ノ如
 キハ希有絶無ナルヘクシテ例外ヲ以テ之ヲ論セサルヘカラス今夫レ
 希有ノ例外ヲ以テ一般ヲ推スヘキモノトセハ殆ント法律設置ノ必要
 ナキカ如シト雖モ實際ハ決シテ然ラス或ル犯罪者ハ法網ヲ脱シ得タ
 ルヲ以テ僥倖ト爲スノミナラス其甚シキハ巧ミニ跡ヲ晦マシテ不良
 社會ニ徘徊シ唯タニ犯罪ヲ重スルヲ憚カラサルノミナラス犯罪ヲ以
 テ殆ント常業ノ如クスルニ至ル者少々ナラス故ニ犯罪者ニシテ幸ニ

法網ヲ脱シタル者ハ皆必ス處刑ヲ受ケタルト同一ノ苦惱ヲ感シテ其後ヲ愼ムモノトハ断定スヘカラス却テ犯罪者ノ多數ハ自ラ悔悟心ヲ發セサルモノト推認セサルヘカラス果シテ然ラハ甲論者ノ說ハ以テ取ルニ足ラサルナリ

乙論者ハ曰ク凡ソ社會ノ事物ハ年月ノ經過ヲ以テ必スシモ消滅スヘキモノニアラス殊ニ犯罪事跡ニ至テハ歷史上ニマテ記載セラレテ萬世消滅セザルモノアリ例ヘハ國事犯者カ政治上ノ意見相合ハストシテ或人ヲ暗殺シテ其跡ヲ晦シタリト云フカ如キハ決シテ消滅スルノ期ナカルヘシ然レモ人ノ記憶ナルモノハ年月ヲ經ルニ隨ヒ漸クニ消滅スルモノト想像セサルヘカラス試ニ十數年前ニアリシ或ル事項ヲ今日ノ人ニ問フテ看ヨ恐ラク其顛末ヲ詳說スルモノナカルヘシ唯タニ詳說シ得サルノミナラス既ニ全ク忘了ル者多シト爲ス是レ人

ノ記憶ハ年月ヲ經ルニ隨ヒ漸ク消滅スヘシトスル確證ナリトス而シテ犯罪ヲ刑セントスルニハ唯タニ其事實アリシコトヲ證スルカ爲メ世人ノ記憶ヲ要スルノミナラス犯罪ヲ構成スル三箇ノ元素即チ犯罪ノ意思犯罪ノ自由及ヒ知能ヲ具備セサルヘカラス此三元素ノ果シテ具備スルヤ否ヤヲ判定スルニハ其犯罪ノ當時又ハ犯罪ニ接近シタル時日ニ於テ之ヲ問フコトアラサレハ其實ヲ擧クルコト至難ナルモノト論定セサルヘカラス好シヤ至難ナラストスルモ年月ヲ經過スルニ隨ヒ犯罪ノ實跡猶ホ存スルニ拘ハラス果シテ何人ノ所爲ニ係ルヤ之ヲ詳カニスルコトヲ得サルヘシ好シヤ犯罪ノ事實ヲ知悉スル者アリト云フト雖モ既ニ數年若クハ數十年ヲ經過シタルモノハ當時ノ事實ヲ記憶シテ誤謬ナキモノトハ信認スヘカラス故ニ數年若クハ數十年ヲ經過シタル犯罪ハ唯タニ犯罪構成ノ元素錯乱シテ復タ拾收スヘカラ

サルノミナラス其證據ハ既ニ湮滅ニ歸シ到底之ヲ舉クルコトヲ得サルモノト臆斷セサルヘカラス然ルニ尙且ツ之ヲ不問ニ付セス犯罪ノ發覺アリタルトキハ年月ノ經過シタルニ拘ラス必ス公訴ヲ起スヘキモノトセハ其裁判果シテ錯誤ヲ來タヌノ憂ヒナシトスル乎既ニ證據ノ湮滅シテ充分ナラサルニ拘ラス之ニ處刑ヲ加ヘントセハ唯タニ刑ノ適用ヲ誤ルノ恐レアルノミナラス又豈ニ冤枉ニ陥ラシムルノ憂ヒナシトセンヤ是レ法律上公訴時効ノ規定ヲ必要トシタル所以ナリ丙論者ハ又説ヲ爲シテ曰ク既ニ犯罪アリシトセシ乎假令年月ヲ經過スルモ其證據充分ナルモノハ須ラク之ヲ罰スヘシ之ニ反シテ證據充分ナラサルモノハ現行犯ト雖モ之ヲ免スヘシ又何ソ年月ノ經過ト否トニ因リ公訴權ヲ消長セシムルノ必要アランヤ唯犯罪ハ其證據充分ナルモノハ之ヲ必罰スヘシトセハ以テ足レリトス又何ソ時効ノ設置ヲ

要センヤ唯タニ之ヲ要セサルノミナラス却テ之カ爲メ罪惡ヲ增長セシムルノ恐レナシトセス何トナレハ巧ミニ跡ヲ晦マス惡漢兇豎ニ至テハ數箇ノ罪ヲ犯シ時効ニ罹ルトキヲ待ツテ再ヒ社會ニ横行スルカ如キ弊害ヲ生スルコトナシトセサレハナリ斯ノ如キハ實ニ社會ノ秩序ヲ紊乱スルモノト云ハサルヘカラス此等ノ不良民ニ對シテハ豈ニ年月ノ經過シタルノ故ヲ以テ寛假スヘキモノナランヤ故ニ法律ハ時効ヲ設クルノ必要アラサルナリト
丙論者ノ説ハ酷ニ似タリト雖モ亦一理ナキニアラス蓋シ其論理ニ曰ク假令幾多ノ星霜ヲ閱スルモ犯罪ノ證據ハ必ス湮滅スヘキモノトハ斷言スヘカラス殊ニ現行犯ノ如キハ證據トナルヘキ調書類ノ存在スルモノアリ好シヤ其存在アラサルモ他ニ犯罪ノ證據トナルヘキモノ充分具備スルトキハ證據湮滅シタリトノ臆測ノミヲ以テ公訴權ヲ消

滅ニ歸セシムルコトヲ得サルヘシ既ニ證據ノ存スルモノ充分ナリト
 スル乎之ヲ以テ裁判ノ材料ト爲サハ其裁判ハ必スシモ錯誤ヲ來タス
 ヘシトハ斷言スヘカラス果シテ然ラハ單ニ證據ノ湮滅ヲ以テ公訴時
 効ノ理由ト爲スハ未タ以テ不可動的ノ確論ト爲スニ足ラスト然レモ
 前論ノ如キハ行刑ノ趣旨ニ反スルモノト云ハサルヘカラス請フ論者
 ノ爲メニ之ヲ一言スヘシ
 抑モ社會カ犯罪者ニ對シテ刑罰ヲ行フヤ自懲他戒ノ精神ニ出ツルニ
 外ナラス故ニ犯罪ノ當時若クハ犯罪ニ近接シタル時日ニ於テ之ヲ行
 フニアラサレハ其趣旨ヲ貫徹セシムルコトヲ得サルモノトス是レ他
 ナシ世人ハ犯罪ノ當時若クハ犯罪ニ近接シタル時日ニ於テヨソ某ハ
 斯々ノ罪ヲ犯シタリト記憶シ犯罪者モ亦斯々ノ所爲ヲ爲シタルニ因
 リ斯々ノ刑ニ處セラレタリト感スヘキモ幾多ノ星霜ヲ閱シタル後ニ

於テ公訴ヲ起シ之ニ刑罰ヲ科セントスル乎假令ヘ充分ナル確證アリ
 トスルモ其行刑ハ果シテ自懲他戒ノ趣旨ヲ貫徹シ得ヘシト爲ス乎實
 際ニ於テハ其効益ナカルヘシ何トナレハ世人ノ記憶既ニ全ク其腦裏
 ヲ去リ犯人自ラモ亦既ニ不良行爲ノ感シヲ消滅シタル時ニ於テ刑罰
 ヲ行フモ犯人ヲ懲ラシ併セテ世人ヲ戒ムル効益アルモノトハ信認ス
 ヘカラサレハナリ社會カ人ニ刑罰ヲ加フルハ唯タ此効益アルカ爲メ
 ノミ苟クモ此効益アラズンハ又何ヲ目的トシテ刑罰ヲ行ハンヤ社會
 ハ最早之ニ對シテ刑罰ヲ行フノ必要ナシト云フヘシ既ニ刑罰ヲ行フ
 ノ必要ナシトスル乎社會ハ之ニ對シテ行刑權ヲ有セサルモノト云ハ
 サルヘカラス何トナレハ處刑權ノ基本ハ徹頭徹尾自懲他戒ノ精神ニ
 基カシメサルヘカラサレハナリ故ニ幾多ノ年月ヲ經過シタル犯罪ハ
 之ヲ罰スルモ自懲他戒ノ効益ヲ衰セサルヲ以テ公訴時効ノ一大理由

ト爲サ、ル可カラス然レモ予ハ敢テ時効上ノ定論タル證據湮滅ヲ以テ其理由ト爲スニ足ラスト云フニアラス自懲他戒ノ効益ナシトスルモノモ亦其理由ノ一トシ以テ丙論者ノ説ヲ駁撃スルニ足ルヘシト云フニ過キス讀者宜ク誤解スルコト勿レ

以上論スル所ハ公訴時効ノ法定ナカルヘカラサル理由ヲ説明シタルニ在ルヲ以テ讀者ハ公訴時効ノ何タルコトヲ解了セラレタルモノト信ス故ニ是ヨリ進ンテ本條ノ法理ニ論入スヘシ

抑モ公訴ハ犯罪ノ何タルヲ問ハス刑ノ適用ヲ目的トシテ之ヲ提起スルニモ拘ハラヌ公訴時効ノ長短ヲシテ罪ノ輕重ニ基因セシムルモノハ何ソヤ蓋シ立法官ノ意見ニ曰ク罪ノ重キモノハ其證據モ亦容易ニ湮滅ニ歸スヘカラス世人ノ記憶モ亦一層長久ニ存スルモノト認定セサルヘカラス之ニ反シテ罪ノ輕キモノハ其證據モ亦容易ニ湮滅シ且

ツ世人ノ記憶モ亦暫時ニシテ其腦裏ヲ去ルヘキモノト認定セサルヘカラス果シテ然ラハ罪ノ輕重ニ拘ハラヌ公訴時ノ期間ヲ同一ト爲スカ如キコトアルトキハ其當ヲ得サルヘカラス例ヘハ或ル法律ノ手續ヲ怠リタルカ爲メ罰金ノ刑ニ該ルモノ、如キハ世人モ左マテコ之ヲ臆底ニ記セサルヲ以テ一年ヲ待タスシテ全ク之ヲ遺忘スルニ至ルヘシ之ニ反シテ謀殺罪ノ如キハ數年ヲ經過スルモ猶ホ世人ノ記憶ニ存スルコト其常ナリトス是レ違警罪ノ時効ハ六月輕罪ハ三年重罪ハ十年ト規定シタル所以ナリ其レ然ラン而シテ此時効ヲ得タル犯罪ハ假令ヘ充分ナル證據ヲ發見シタリトスルモ社會ハ既ニ公訴權ヲ失フタルヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得ス犯罪者ハ恰モ無犯罪ト同一ニ看做サルヘキモノトス

然リ而シテ刑ノ時効ハ刑法第五十九條ニ掲クルカ如ク死刑ハ三十年

無期徒刑ハ二十五年有期徒刑ハ二十年、重懲役重禁獄ハ十五年、輕懲役
 輕禁獄ハ十年、禁錮罰金ハ七年、拘留科料ハ一年トシ之ヲ公訴時効ノ期
 間ニ比スレハ皆一層長カラシメタルモノハ何ソヤ是レ他ナシ刑ノ時
 効ハ確定判決ノ後ニ在ルヲ以テ其犯罪既ニ明確ニシテ證據湮滅ノ恐
 レナク且ツ其罪ヲ罰スヘキ刑名既ニ定マリ各重輕ノ差アルヲ以テ時
 効ニモ亦長短ノ差ヲ設ケタルニ外ナラス之ニ反シテ公訴ノ時効ハ未
 タ其提起アラサル前ニ在ルヲ以テ其犯罪果シテ何等ノ刑ニ該當スル
 ヤ豫メ之ヲ判定スルコトヲ得サレハナリ故ニ公訴ニ關スル時効ハ其
 犯罪ヲ確定ニ罰スヘキ刑名ニ因リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス僅カニ犯
 罪大別即チ違警罪、輕罪、重罪ノ三種ニ區別シテ時効ノ長短ヲ三箇ニ區
 別シタルモノトス

第九條 私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公

訴ニ附帶セヌシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公
 訴ノ時効ト其期間ヲ同クス
 公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ
 定メタル時効ノ例ニ從フ

本條ハ私訴ニ關スル時効ヲ規定シタルニ在ルヲ以テ本條ノ法理ヲ明
 瞭ナラシメントセハ先ツ民法上ヨリ論端ヲ開カサルヘカラス何トナ
 レハ私訴ハ犯罪ニ起因シテ起ルモノナリト雖モ其目的ハ損害ノ賠償
 贓物ノ返還ニ在リテ民法上ノ關係ニ屬スレハナリ
 抑モ我民法證據篇第八十九條乃至第一百六十四條ニ於テ時効ヲ規定シ
 タルモノハ何ソヤ他ナシ人トシテ其所有權ハ之ヲ保有スルヲ勉メ其
 債權ハ之ヲ執行スルニ汲々タルハ一般ノ情態トス然ルニ所有權モ之
 ヲ保有スルヲ勉メス長ク他者ノ占有スルニ任カセ債權モ其執行ヲ等

開付シテ債務者ニ辨償ヲ促カス爲サ、ル者アルトキハ其行跡ハ普通ノ人情ニ反ス蓋シ故ラニ之ヲ利用セサルニアラス元來其權利ヲ有セザリシナラン元來債務者既ニ其債務ヲ辨償シタルナラント推定スルニ因ルモノトス實ニ否ラサレハ之ヲ放棄シテ顧ミサルノ道理アラサルナリ或ハ之ヲ拋棄シタルニ拘ハラズ猶ホ證書等存スルモノアリトスルモ之ヲ匿藏ニ埋没セシメテ利用セザリシモノハ其實偽造ニ係ルモノタルヤモ亦未タ知ルヘカラス之ヲ要スルニ權利者ニシテ其權利ヲ利用セサルモノハ實際之ヲ有セザリシカ故ニアラサレハ之ヲ拋棄シタルモノト看做シテ可ナリ是レ民法上ニ取得及ヒ免責ノ時効ヲ設置シテ之ヲ推定證據ノ一ニ列シタル所以ナリ

然レモ時効ニ依リ權利ノ取得及ヒ義務ノ免責ヲ推定スル由爲メニハ保有スルヲ得ヘキ所有權ヲ拋棄シテ他者ノ占有ニ任セ執行スルヲ得

へキニ之ヲ等閑ニ付シタルノ情况ナカルヘカラス苟モ其情況ノ存セサルニ尙且ツ其推定ヲ下スハ不當ナリト謂ハサルヘカラサルナリ是ニ於テ乎無能力者ニ對シ時効ノ進行ヲ停止スル所以ナリ他ナシ無能力者ハ幾許ノ時間其所有ヲ保ツコトヲ爲サス其債權ノ執行ヲ爲サスト雖モ元來其能力ヲ有セサルモノナルヲ以テ一切ノ欠爲ハ力ノ不能ニ基キテ決シテ前陳ノ推定ヲ下スヘキ餘地アラサレハナリ

以上略説スル所ハ即チ民法上ノ時効ニ關スル要點ナリトス犯罪ニ起因スル私訴ノ時効モ亦民法上ノ時効ト同視スルヲ得ルヤ蓋シ私訴ノ時効モ亦民法上ノ時効ト其原則ヲ同フスルヲ以テ當然ナルモノ、如シ何トナレハ私訴ノ目的ハ全ク私權ニ屬シテ同ク民事ナレハナリ然レモ私訴ハ公訴ト同一ノ時効ニ依リ消滅スルモノハ何ソヤ蓋シ至當ノ理由ナカルヘカラサルナリ抑モ時効ニ因リ公訴ノ消滅スルヤ社會

タルト各人タルトヲ問ハス其時効ニ係リタル犯罪ヲ證明シテ其成立ヲ争フコトヲ得ルモノニアラス然ルニ若シ公訴ハ時効ニ因リ消滅スルニ拘ハラヌ私訴ハ依然トシテ存スルモノト爲スモ被害者ハ果シテ私訴ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルヤ苟クモ其目的ヲ達セントスルトキハ犯罪ヲ證明セサルヲ得サルヘシ然レモ其證明ハ法律ノ禁スル所ナリ故ニ公訴ノ時効後ニ於ケル私訴ハ之ヲ存セシムルモ有名無實ニ歸着スヘシ是レ私訴ノ時効ハ被害者ノ何人タルヲ問ハス又之ヲ起ス裁判所ノ何レタルヲ論セス一定不變ニ公訴ノ時効ト其期間ヲ同シクスルモノト爲シタル所以ナリ

然レモ私訴ノ時効期間ヲ公訴ノ時効期間ト同一ナラシメタルモノハ亦不權衡ノ穢リヲ免カレス凡ソ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ皆其責任ヲ負ハシメサルヘカラスト雖モ尋常一様ノ消費貸借上ニ於テ債務ノ

辨濟ヲ怠ルモノト竊盜若クハ詐偽ノ行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノトハ同日ノ論ニアラス假令消費貸借上ニ於ケル責任モ亦寬假スヘキニアラストスルモ他人ノ家ニ忍ヒ入りテ他人ノ所有物ヲ竊取シ又ハ詐欺手段ヲ施シテ他人ノ財ヲ騙取シタルカ如キハ其責任之ヲ民事上ノ責任ニ比スレハ凡ソ如何ツヤ且ツ其情況ニ於テモ亦惡ムニ餘リアリト云フヘシ然ルニ民事上ノ責任ハ三十年ヲ經過スルニアラサレハ時効ニ罹ラサルモノトシ之ニ反シテ私訴上ノ責任ハ却テ最も長キモ十年ヲ經過スレハ時効ニ罹ルモノトスルハ甚々其權衡ヲ失スルモノト云フヘシ蓋シ時効ニ消滅シタル犯罪ノ事實ヲ證明セスシテ私訴ノ目的ヲ達スルノ途ナキノ止ムヲ得サルニ出テタルモノナルコト疑ヲ容レサルナリ故ニ若シ時効ニ因リ公訴ノ消滅シタル後ト雖モ犯罪ノ事實ヲ證明スルコトヲ爲サヌ純然タル民法ノ原則ニ基キ私

訴ヲ爲ストキハ其私訴ハ公訴ノ時効ニ妨ケラル、コトナカルヘシ例
 へハ甲者カ乙者ニ金時計ヲ竊取セラレテヨリ乙者ノ竊盜罪ハ時効ニ
 因リ消滅シタル後ト雖モ甲者ヨリ乙者ニ對シ單ニ其時計ノ所有權ノ
 ミヲ證明シテ其取戻ヲ請求スルカ如キ是レナリ此場合ニ於テ乙者ハ
 甲者ニ竊取ノ事實ヲ答辯シテ其請求ヲ拒ムコトヲ得ルモノニ非ラス
 何トナレハ被告ハ自己ノ不正所爲ヲ以テ權證トシテ之ヲ己レニ利用
 スルコトヲ許サ、ルハ法理普通ノ原則ナレハナリ故ニ時効ヲ得タル
 犯罪事實ヲ唱ヘスシテ私訴ノ目的ヲ達シ得ヘキ場合ニ於テハ其私訴
 ハ民法普通ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セサルモノト論決シテ余ハ
 躊躇セサルナリ

又本條第二項ノ規定ハ公訴ノ提起ニ因リ既ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル犯
 罪者ニ對シテ爲スヘキ私訴ノ時効ハ民法上ニ定メタル時効證據篇ニ

定メタル時効ノ例ニ從フヘキコトヲ指示シタルニ外ナラスト雖モ既
 ニ刑ノ言渡アリタルトキニ限り民法上ノ規定ニ從ハシムルモノハ何
 ソヤ他ナシ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ其犯罪ノ事實明瞭ニ歸シ隨
 テ被害者ノ加ヘラレタル損害モ亦自ラ明瞭トナリ最早私訴ニ關スル
 證據ノ湮滅スルノ恐アラサルヲ以テナリ

**第十條 公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起
 算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス**

本條ハ公訴及ヒ私訴ニ關スル時効ノ起算法ヲ指示シタルニ外ナラス
 而シテ公訴私訴ノ區別アルニ拘ハラヌ時効期間ノ起算ハ共ニ犯罪ノ
 日ヨリ始マルモノト法定シタルハ何ソヤ曰ク他ナシ元來公訴ハ犯罪
 ノ日ヨリ生スルモノナルヲ以テ其時効期間ノ進行モ亦犯罪ノ日ヨリ
 起算スヘキハ當然ナレハナリ公訴時効ノ起算ハ既ニ犯罪ノ日ヨリ始

マル以上ハ私訴ノ時効モ亦犯罪ノ日ヨリ起算セサルヘカラス何トナ
 レハ私訴ノ時効ハ前條第一項ニ於テ見タル如ク公訴ノ時効ト其期間
 ヲ同フスルモノナレハナリ是レ本條前段ノ規定アル所以ナリ
 其レ然リ犯罪ハ必スシモ即日ニ始マリテ即日ニ終ルモノ、ミニアラ
 ス時トシテハ非常ニ長ク繼續スルモノアリ夫ノ繼續犯ノ一タル擅ニ
 人ヲ監禁スル罪ノ如キモノアリテ若シ數年若クハ十數年ニ亘ルコト
 アリトセンニ此場合ニ於テ亦其犯罪ノ始マリタル日ヨリ時効ノ期間
 ヲ起算スヘキモノトセハ其犯罪未タ終了セサルニ時効ハ早ク已ニ經
 過シ之カ爲メ刑事上ノ責任ヲ免カレシムルカ如キ結果ヲ來タスコト
 ナントスヘカラス故ニ此等ノ犯罪ニ付テハ本條前段ノ正則ニ從ハシ
 ムヘキモノニアラス是レ本條ニ但書ヲ附加シ繼續犯罪ニ付テハ其最
 終ノ日ヨリ時効期間ノ起算ヲ爲スヘキモノト法定シタル所以ナリ

爰ニ又注目ヲ要スヘキハ繼續犯ナリ抑モ繼續犯トハ如何ナル意味ヲ
 有スル法語ナリヤトセハ犯罪ノ始メヨリ犯罪ノ終リマテ一秒時間モ
 間斷ナク繼續スル犯罪ノ謂ヒナリ論者或ハ行爲ノ繼續如何ヲ問ハス
 單ニ犯罪ノ意思ノミノ繼續ヲ以テ繼續犯ト爲スモノアリト雖モ犯罪
 ノ意思ヲ要スルモノニ付テハ犯罪ノ意思ト犯罪ノ事實ト兩ツナカラ
 繼續スルコアラサレハ未タ以テ繼續犯ト云フヘカラス論者ハ他人ノ
 倉庫ヲ穿テ昨夜一物ヲ盜ミ今夜又一物ヲ盜ミ又ハ有夫ノ婦ト姦通シ
 居ル者ノ如キヲ指シテ繼續犯ト爲スト雖モ斯ノ如キハ連續犯ト稱ス
 ルハ可ナリ繼續犯ト稱スルハ不可ナリト云ハサル可ラス何トナレハ
 其意思ハ繼續スルモ其所爲ハ斷續セルヲ以テナリ然ラハ則チ如何ナ
 ル種類ノ犯罪ヲ稱シテ繼續犯ト爲スヤ曰ク前陳ノ擅ニ人ヲ私家ニ監
 禁シテ數時若クハ數日ニ涉ルモノ其一ナリ斯ノ如キハ監禁スル意思

ト監禁シタル事實ト兩ツナカラ相繼續スルヲ以テ繼續犯ト認定セサルヘカラス或ハ又偽造若シハ變造ノ度量衡ヲ所持スル罪ノ如キモ亦之ヲ繼續犯ト云ハサルヘカラス而シテ之ヲ使用スル罪ハ連續犯ナリ何トナレハ前者ハ間斷ナク所持スルヲ以テ繼續犯ト爲ルモ後者ハ時アリテ之ヲ使用シ時アリテ之ヲ使用セサルコトアレハナリ此他私カニ醫業ヲ營ムカ如キハ繼續犯ニ似タリト雖モ是レ一種異別ノ犯罪ニシテ慣習犯ト稱スルモノヲ組成ス蓋シ醫師タラサル者他人ノ病ニ苦ムヲ見テ偶然藥ヲ施與スルカ如キハ以テ醫業ヲ營ムト云フヲ得ス自ラ求メテ患者ヲ訪ヒ施藥以テ常トシ即チ生計ノ慣習トナリテ其業ヲ營ムト云フ法律ハ其慣習ヲ罰ス故ニ之ヲ慣習犯ト稱ス皆チ是レ繼續犯ニ似テ非ナルモノトス而シテ繼續犯ト區別スヘキ實益ハ繼續犯ハ概シテ其繼續スル時間ノ長短ニ因リテ刑ニ輕長ノ差ヲ生ス

ト雖モ(刑法第三百二十二條參看)連續犯ハ數罪俱發一ノ重キニ從ヒテ論スヘキモノナル點ニ在リ又繼續犯ト慣習犯トヲ區別スル實益ハ繼續犯ハ唯一回ノ所爲モ罰スヘキモノナリト雖モ慣習犯ハ其所爲ノ度數重ナリテ稍常業ヲ成ストキニアラサレハ其罪成立セサルノ點ニアリトス

第十一條 時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタル

ニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル

正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ

時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴豫審又ハ公

判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

犯罪ニ基ク公訴及ヒ私訴ノ時効ト單純ナル民法上ノ時効トハ素ヨリ其理由ヲ異ニスルヲ以テ其期間ノ經過ヲ中斷スル場合モ亦彼是相異

ナルハキハ敢テ怪ムニ足ラスト雖本條第一項ノ規定ニ依レハ民法上ノ時効中斷ニ對照スレハ著シキ差違アルヲ看ル民法上ニ於ケル時効ノ中斷ニハ自然ノモノト法定ノモノトノ二大區別アルニ過キサルカ如シト雖中斷ノ場合ハ甚タ多ク殊ニ法定ノモノニハ五箇ノ場合アリテ且ツ其手續ハ嚴格ナル規定ヲ履マサルヘカラス(民法證據篇第百五條乃至第百二十四條參看)之ニ反シテ公訴時効ノ中斷ハ然ラス法文上ニ掲クルカ如ク起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ時効ノ經過ヲ中斷スルノ効力ヲ生スルモノトス同シク是レ時効ニシテ刑事ニ原因スルモノト純粹ナル民事ニ原因スルモノトノ間ニ斯ノ如ク其中斷方法ニ差違アルモノハ何ソヤ他ナシ民事時効ハ刑事時効トハ全ク其理由ヲ異ニスルヲ以テナリ

民法上ニ時効ヲ設ケタルハ第八條ノ下ニ於テ略説シタルカ如ク幾多

ノ年月ヲ經過スルマテ權利者ニ於テ權利ノ執行ヲ爲サ、リシモノハ自ラ其權利ヲ拋棄シタルニアラサレハ義務者既ニ其義務ヲ辨濟シタルカ故ナラントノ推定ニ基クテ以テ權利者若クハ義務者ニ於テ民法上ニ定メタル行爲ヲ爲スニアラサレハ時効中斷ノ効力ヲ生セサルコト當然ナリ之ニ反シテ公訴時効ノ中斷ハ然ラス元來公訴ニ時効ノ設ケアルモノハ數年若クハ數十年ヲ經過シタル犯罪ハ其證據既ニ湮滅スルコト往々アルヘキノミナラス社會モ亦既ニ其犯罪ノ事實ヲ遺忘シタルヲ以テ之ヲ罰スルノ必要ナシ好シ之ヲ罰スルモ自慊他戒ノ効果ヲ期スヘキニアラストスル理由ニ基クモノトス故ニ其證據ノ湮滅スル憂ヒナク又社會モ遺忘シタルモノト推定スヘカテサル理由アル以上ハ犯罪後幾許ノ年月ヲ經過シタリト雖之ヲ罰セサルヘカラス而シテ社會カ其公權施行ノ機關タル司法官ノ手ヲ借リテ起訴又ハ豫

審若クハ公判ノ手續ヲ爲シタルトキハ犯罪ノ證據ハ採リテ以テ之ヲ保ツヘシ而シテ其手續ヲ爲スハ則チ社會其犯罪ヲ遺忘セサル證據ト看做スコトヲ得ヘケレハナリ實ニ社會既ニ遺忘シタルトキハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ爲スノ道理ナカルヘシ是レ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルトキハ時効中斷ノ効力ヲ生スル所以ナリ又第一項ノ後段ノ法文ヲ以テ一犯罪ニ對シ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルトキハ其未タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ對シテモ亦同シク時効ノ經過ヲ中斷スルモノト規定シタルハ他ナシ抑モ時効ハ犯罪人若クハ民事擔當人其人ヲ主トシテ之ヲ設ケタルモノニ非ラス屢前陳シタル如ク犯罪ハ年月ヲ經テ其證據ヲ失ス證據ノ失シタルニ拘ラス其罪ヲ尙ホ問フトキハ誤判ノ危險多シ社會之ヲ慎マサルヘカラス加之犯罪ノ後年月ヲ經ルモ社會之ニ對シ起訴ノ手續等ヲ爲

サ、ルトキハ社會其罪ヲ遺忘シタルモノト云フヘシ遺忘シタル罪ハ之ヲ罰スルヲ要セサルノ趣意ニ外ナラス而シテ其趣意ニ基ク時効カ犯罪人及ヒ民事擔當人ノ利スル所トナルハ時効ノ結果ニシテ其本旨ニアラス苟モ一犯罪ニ對シ起訴豫審等ノ手續ヲ爲シテ一方ニ證據ノ失滅ヲ防止シ他ノ一方ニハ社會ノ遺忘セサル事實ヲ明示セシ以上ハ何ソ其犯罪ノ責任ヲ發覺スルノ遲速ニ因リテ責任ノ有無ヲ問フコトヲ要センヤ其人ノ發覺ノ先後ハ罪責ノ有無ニ影響セサルモノトス是レ一犯罪ニ對スル時効ノ中斷シタルトキハ其未タ發覺セサル正犯、從犯等ニ對シテモ中斷ノ効力ヲ及ホス所以ナリ

第二項ハ時効期間ノ經過ヲ中斷シタル場合ニ於テ更ニ其期間ヲ起算スル一定ノ標準ヲ指示シタルニ外ナラス而シテ其期間ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ起算スヘキモノトセリ是レ他ナ

シ時効進行ノ中斷ハ起訴其他ノ手續ヲ爲シタルニ因リ證據ハ湮滅セ
 ス社會ハ遺忘セスト觀察シタルニ外ナラサルヲ以テ其手續ヲ止メタ
 ルトキハ又是ヨリ漸ク日ヲ進フテ證據ノ湮滅ニ赴キ社會ノ遺忘シ去
 ルモノト推定セサルヲ得サレハナリ是レ時効中斷後ノ期間ノ起算ハ
 起訴其他ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ閉止スヘキモノト法定シタル
 所以ナリ

又時効ノ中斷ニ付テハ尙ホ一言セサルヘカラスモノアリ舊法ニ依
 レハ本條ノ場合ニ於テ前後ノ日數ヲ通算シテ第十一條(公訴時効ノ日
 數ニ定メタル期限ノ二倍ヲ超過スヘカラス云々)ノ但書ヲ附加シ假令
 起訴其他ノ手續ニ因リ幾回時効ノ進行ヲ中斷スルモ公訴時効ノ日數
 ニ二倍スルマテニ止メ之ヲ超過スルコトヲ得サル旨ヲ明示セラレタ
 リ然ルニ新法ニ於テ全ク之ヲ削除セラレタルハ修正ノ最モ顯著ナル

モノト云フヘシ而シテ法理上ヨリ論スルトキハ新舊法ヲ對照シテ孰
 レカ最モ其當ヲ得タリトスルヤ否ヤハ須ク研究ヲ要スヘキノ點ナ
 リトス新法論者ハ必ス云ハン舊法ノ但書ハ立法ノ精神ニ悖戾スルモ
 ノト云ハサルヘカラス若シ夫レ舊法ニ依ルトキハ假令ハ漸次ニ犯罪
 ノ證據ヲ得ヘキノ見込アルトキト雖モ時効ノ中斷カ第八條ノ日數ニ
 二倍スルトキハ公訴私訴ノ時効ハ勢イ之ヲ成就セシメサルヘカラス
 元來時効ハ證據ノ湮滅ニ基因スルモノトセハ其證據ニシテ湮滅ノ憂
 ヒナシトセハ幾回時効ヲ中斷シ又幾何ノ日數ニ涉ラシムルモ不可ナ
 キハ論ヲ俟タサルヘシ何トナレハ犯罪ノ證據漸ク擧カルニモ拘ハラ
 ス時効中斷ノ制限ニ拘束セラレテ之ヲ罰スルコトヲ得ストスルカ如
 キハ或ル場合ニ於テ刑罰ヲ畫虎ニ歸セシムルノ結果ヲ來タスニ至ル
 ヘシ故ニ時効中斷ニ制限ヲ設クルハ中斷法ノ精神ニ悖戾スルモノト

云ハサルヘカラス是レ新法ニ於テ時効中斷ノ制限ヲ削除シタル所以ナリト

予以爲ラク舊法ノ中斷法ハ刑罰ヲ決シテ書虎ニ歸セシメス之ヲ書虎ニ歸セシムルハ司法官ノ怠慢ニ在リ却テ新法ノ中斷法ハ貴重ナル時効法ヲ書虎ニ歸セシメ傍ヲ司法官ノ怠慢ヲ說導スルモノト謂フ可シ他ナシ如何ナル犯罪ニ對シテモ其時効ノ到達ニ垂ントスル都度一ノ起訴手續ヲ爲セハ以テ時効ヲ中斷シ隨テ幾數十年ノ久シキヲ經タル犯罪モ之ヲ罰スルコトヲ得レハナリ故ニ予ハ舊法ヲ採リテ新法ヲ非トス

第十二條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカルヘシ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手

續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス

本條ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ爲スモ時効中斷ノ効力ヲ生セサル場合ヲ指示シタルニ外ナラス抑モ起訴豫審又ハ公判ノ手續カ時効中斷ノ効力ヲ生スル理由如何ト問ハ、蓋シ其手續ハ以テ證據ノ湮滅ヲ防止シ社會ノ遺忘セサルコトヲ表示シタルカ故ナリト云フニ在リ其レ然リ斯ノ如キ重大ノ効力ヲ其手續ニ有セシムルカ爲メニハ其正當ニ行ハレタルコトヲ要ス違法不當ノ手續ハ公權ノ執行上法律ノ要求スル吾人權利ノ擔保ヲ全フセサルノミナラス概シテ當局者ノ職權濫用ニ出テ社會ノ信用ヲ傷ケ吾人ノ自由ヲ害スルコト多シトス斯ノ如キ手續ハ果シテ證據ノ湮滅ヲ防止シ社會ノ遺忘セサルコトヲ表示セシモノト爲スコトヲ得ルヤ其手續ハ公權ノ執行ヲ代表セス一個人ノ弄權ノミ是レ無効ニ屬スル手續ハ時効中斷ノ効力ヲ生セサルモノト

定メタル所以ナリ

然レモ裁判所ノ管轄違ノ爲メ起訴豫審又ハ公判ノ手續ノ無効ニ屬スル場合ヲ右ノ例外ニ置キテ時ノ中斷ヲ妨ケサルモノト爲シタル理由ハ他ナシ抑モ裁判管轄ハ第二編第一章ニ掲クルカ如ク一定ノ區域アリト雖モ實際ニ於テハ錯雜ヲ來タシ易キモノト想像セサルヘカラス例ヘハ裁判所構成法第十六條ニ依リ二年以下ノ重禁錮ニ該ル輕罪ナリト認定シテ地方裁判所若クハ其支部ノ檢事局ヨリ區裁判所ニ移付シタル犯罪カ其實重罪ナリトキハ區裁判所ハ之ニ對スル裁判權ヲ有セサルヲ以テ其手續ハ管轄違ニ因リ無効ニ屬スルヲ以テ之ヲ地方裁判所ニ移サ、ルヘカラス又ハ地方裁判所ニ於テ豫審ノ手續ヲ爲シタル犯罪カ裁判所構成法第五十條第二ニ該ル犯罪ナルトキハ亦是レ管轄違ナルヲ以テ之ヲ大審院ニ移サ、ルヘカラス斯ノ如ク裁判所ノ

管轄違ニ因リ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ無効ニ屬セシムルコトアリト雖モ其無効ハ單ニ管轄違ナルニ基因シ其他ノ規定ニ違背シタルニアラサル以上ハ證據ノ湮滅ヲ防止シ社會ノ遺忘セサルコトヲ表示スルニ足ルヘキモノト看做サ、ルヘカラス果シテ然ラハ管轄違ニ因リテ其等ノ手續無効ニ屬スルト雖モ時効中斷ノ効力ヲ生セシムルニ於テ何ノ妨ケカアラズ實ニ犯罪ノ證據アルニモ拘ハラス社會其犯罪ヲ遺忘セサルニモ拘ラス單ニ其起訴等ノ手續カ管轄違ニ因リテ無効ニ歸シタリト云フノミヲ以テ時効中斷ノ効力ナシトスルハ司法職權施行ノ便ヲ圖リテ設ケタル管轄ノ區別モ之レ有ルカ爲メ徒ラニ社會ノ犯罪ヲシテ刑罰ヲ免カレシメ却テ其職權施行ノ妨害物ト爲ルノ結果ヲ見ルニ至ルモノト云フヘケレハナリ

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場

合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告
 人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者
 ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルコトヲ得
 被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又
 ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪
 ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキモ亦同シ
 民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其
 上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
 要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判
 所ニ之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ被告人カ告訴、告發ニ因リ損害ヲ被ムリタルトキハ其告訴人又
 ハ告發人ニ對シテ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルヤ如何ノ問題ヲ規定シ

タルモノトス即チ此問題ヲ四項ニ分割シ細カニ其要件ヲ指示セリ而
 シテ告訴トハ犯罪ノ被害者ヨリ其犯罪ヲ申告スルヲ云ヒ告發トハ何
 人ニ限ラス犯罪ノ成立ヲ知リタル者ヨリ之ヲ摘發シ之ヲ申告スルヲ
 云フナリ

第一項ハ被告人ニ於テ告訴、告發ノ爲メ被ムリタル損害ノ賠償ヲ要求
 スルコトヲ得ヘキ場合ヲ示シタルモノニシテ即チ被告人免訴又ハ無
 罪ノ言渡ヲ受ケ而シテ其訴訟ノ原由カ告訴人若クハ告發人又ハ民事
 原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタル場合はナリ此場合ニ於テ被告
 人ニ右ノ告訴人若クハ告發人等ニ對シ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得
 セシムルモノハ何ソヤ蓋シ至當ノ理由アリテ存スルヲ知ルヘシ
 甲者アリ乙者ハ予カ所有ノ物品ヲ盜取シタリト告訴シ又ハ斯々ノ犯
 罪アリト告發スルハ一箇ノ利益ノ爲メノミニスルニアラス即チ社會

ノ利益ノ爲メナリトスヘシ又檢事カ其告訴告發ヲ受理シテ公訴ヲ起
 スモ亦是レ社會ノ利益ノ爲メノミ豈ニ他アランヤ其レ然リ社會公衆
 ニ告訴告發ノ權利ヲ附與スルハ實ニ社會ニ利益センカ爲メナルヲモ
 省思セス告訴人若クハ告發人又ハ民事原告人等カ惡意若クハ重過失
 ヲ以テ不當若クハ不實ノ告訴告發ヲ爲シ被告人ニ損害ヲ加フルニ至
 リテハ告訴告發權ノ濫用亦甚シト云ハサルヘカラス斯ノ如キハ社會
 ニ利益スルノ目的ト全ク反對シ寧ロ社會ヲ害スルモノト云ハサルヘ
 カラス今是等ノ者ヲシテ賠償ノ責任ヲ負ハシムルハ當然ナリト云フ
 ヘシ否ラサレハ苟モ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責任アリトスル
 民法上ノ原則ト權衡ヲ失スルヲ奈何ンセン然レモ刑事ニ基因スル責
 任ニ至テハ民法上ニ於ケル輕過失ニ出ツル場合ト雖モ亦賠償ノ責任
 アリトスル原則ヲ引用シテ之ニ當ラシムヘキモノニアラス何トナレ

ハ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受タル本案訴訟ノ原由ニシテ苟モ
 告訴人若クハ告發人等ノ過失ニ出ツルトキハ其輕重ヲ問ハス賠償ノ
 責任ヲ負ハシムルモノトセハ世人ハ其責任ヲ招カンコトヲ恐レ現行
 犯タモ猶ホ之ヲ默視シ遂ニ告訴告發ヲ爲ス者ナキニ至ルヘキヲ以テ
 ナリ而シテ斯ノ如キハ亦是レ社會ノ利益ヲ妨クルモノト云ハサルヘ
 カラス是レ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ其訴
 訟ノ原由カ全ク告訴人若クハ告發人等ノ惡意若クハ重過失ニ出ツル
 トキニアラサレハ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得サラシムル所以ナリ
 而シテ惡意若クハ重過失ニ出ツル行爲ハ例ヘハ復仇ノ念慮ヲ懷キ又
 ハ人ノ名譽ヲ傷ケントスル意思ヲ以テ少シク犯罪ノ嫌疑アルヲ奇貨
 トシ之ヲ罪ニ陷レンカ爲メ針小ノ事跡ヲ棍大トシテ告訴ヲ爲スカ如
 キハ即チ是レ惡意ニ出ツルモノナリ又ハ全ク誤殺ナルヲ知ルニ容易

ナル事實アルニ拘ラス之ヲ知ルコトヲ爲サスシテ輕忽ニ謀殺ナリト告發シ被告入ヲシテ一時謀殺犯ノ取扱ヲ受ケシメタルカ如キハ即チ是レ重過失ニ出ツルモノ、一ナリ此等ノ告訴告發カ公訴ノ原因ト爲リ審理ノ後免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ在リテハ其迷惑モ亦想フヘシ是レ第一項ノ規定アル所以ナリ

第二項ハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリトスルモ告訴人若クハ告發人等カ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ事實ニ過キタル申立ヲ爲シタルコトノ知レタル場合ニシテ亦是レ謂レナク被告人ニ不利益ヲ與ヘタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ事實ニ過キタル申立ヲ爲シタル結果ハ其罪ニ重キヲ加ヘ隨テ又其處刑ヲモ重カラシムルニ至ルヤモ知ルヘカラス由シヤ司法官其人ヲ得テ斯ノ如キコトナシトスルモ輕キヲ重キニ告クレハ未決中ノ取扱既ニ異ナリ被告ノ身体上及

ヒ名譽上ニ受クル損害ニ大小ノ差アルコト著シカルヘシ例ハ單純ナル竊盜犯タルニ過キサルニ惡意ヲ以テ彼ハ持兇器強盜ヲ爲シタリ其證據ハ斯々ナリト告訴スルアラハ被告人ハ之カ爲メ過當ノ處刑ヲ受クルコトナシトスヘカラス審理ノ手續社會ノ風評一トシテ被告ノ身ニ一層ノ損害ヲ加ヘサルナシ故ニ右等ノ如ク過實ノ申立ヲ爲シタルコト全ク惡意若クハ重過失ニ出テタルコト明瞭ナルトキハ假令ハ被告人ニ些細ノ罪アリタルカ爲メ刑ノ言渡即チ前例ノ場合ニ於テ竊盜犯ノ處刑ヲ受ケタリトスルモ猶ホ過實ノ申立ヲ爲シタル者ヲシテ第一項ノ場合ト同一ノ責任ヲ負ハシメサルヘカラス否ラサレバ亦往々ニシテ惡意若クハ重過失ニ因リ輕罪ヲシテ重罪ニ陷ル、等ノ弊害ヲ生スルノ恐レナシトセス是レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第三項ハ民事原告人カ豫審又ハ公判ノ言渡ヲ不當トシ之ニ對シテ上訴ヲ爲シ全ク敗訴ニ歸シタル場合ナルヲ以テ亦是レ被告人ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス而シテ此敗訴ノ場合ニ於テ民事原告人ヲシテ賠償ノ責任ヲ負ハシムルモノハ他ナシ其損害ハ全ク民事原告人カ不當ノ上訴ヲ爲シタルコト因リテ生シタル損害ナルヲ以テ上訴者ヲシテ之ヲ賠償セシムルコトヲ得ルハ亦猶ホ普通民事ノ訴訟ニ於テ勝訴者カ敗訴者ニ對シテ訴訟費用其他ノ損害ヲ賠償セシムルコトヲ得ルカ如ク一般ナレハナリ

第四項ハ第一項乃至第三項ニ掲ケタル損害ノ要償ハ本案ノ判決アルマテハ何時ニテモ之ヲ請求シ得ルコトヲ規定シ以テ被告人ニ便宜ヲ與ヘタルニ過キサルモノトス

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、

檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ理由カ告訴人若シハ告發人等ノ惡意ニ出ツルトキハ勿論重過失ニ出ツルトキト雖モ亦要償ノ訴ヲ拒絶スルコトヲ得サルハ前條ノ指示スル所ナリ本條ハ之ニ反シ官吏ニ對シテハ假令無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ト雖モ其結果カ官吏ノ輕重過失ニ係ルニ拘ラヌ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得サルモノト規定セリ是レ前後其權衡ヲ失スルカ如シト雖モ官吏ニシテハ假令ニ過失ノ點アリトスルモ要償ノ訴ヲ爲サシムヘカラサル一大理由ノアリテ存スルヲ知ルヘシ請フ之ヲ左ニ説明セン

若シ夫レ被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ於テ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒等ノ官吏ニシテ其被告事件ニ關與シタル者ハ被告人ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任セサルヲ得サルモノトセハ一方ニ於テハ成ルヲテ犯罪事件ニ干涉セサルニ如カスト爲スノ念慮ヲ生シ自然熱心以テ其職務ニ從事スル者ナク因循苟且ニ流カル、ノ弊ヲ招キ易ク又他ノ一方ニ於テハ犯罪ノ證據充分ナラスシテ無罪ノ言渡ヲ爲スモ可ナリト思量スル場合ニ於テモ若シ無罪ノ言渡ヲ爲ストキハ要償ノ訴ヲ受ケンコトヲ恐レ之ヲ罰スルト否トハ其職權内ニ在ルヲ奇貨トシ遂ニ不當ノ處刑ヲ行フニ至ルナキヲ知ルヘカラス若シ果シテ然リトセハ刑事訴訟法ノ設ケアルモ管メニ充分ノ効用ヲ爲サシムルノミナラス筆口之レ有ルカ爲メ却テ社會ノ秩序ヲ紊亂スルニ至ルナキヲ保スヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

然レモ何人ト雖モ故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ之ヲ賠償スヘシトハ民法上ノ原則ナレハ官吏ト雖トモ亦此原則ノ外ニ立タシムヘキモノニアラス故ニ右等ノ官吏カ故意ヲ以テ被告人ニ損害ヲ加ヘ又ハ刑法第二百七十六條ニ規定シタル罪ヲ犯スニ至テハ例外ヲ以テ之ヲ論セサルヘカラス否ヲサレハ人民ハ往々ニシテ危險ヲ免カレ能ハサルニ至ルヘシ是レ本條ニ但書ヲ附加シ以テ例外ヲ示シタル所以ナリ

第十五條 此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入スヘカラス但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス一日ト稱スルハ二十四時間ヲ以テシ一月ト稱スル

ハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

本條ハ規問ノ起算法ヲ規定シタルニ過キスシテ民事訴訟法ノ規定民事訴訟法第百六十五條及ヒ第百六十六條ト同一法文ニシテ唯々刑事ト民事トノ差アルノミ其精神ニ至テハ同一ナリトス然レモ期間ノ起算ハ被告ノ利害ニ至大ノ關係アルヲ以テ亦輕々ニ看過スヘキニアラヌ故ニ其要點ニ付キ説明ヲ與フヘシ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算セトアルハ例ヘハ第六十九條ノ規定ニ於テ召喚狀ヲ受ケタル被告入ニ二十四時間ノ猶豫ヲ與ヘ第七十三條ノ規定ニ於テ拘引狀ヲ發シテ引致シタル被告入ハ四十八時内ニ之ヲ訊問スヘキ場合等ニ於テ其適用ヲ有ス又日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セストアルハ例ヘハ第二百五十二條ニ於テ控訴期間ハ五日トアリ又第二百七十一條ニ於テ上告期間ハ三日トアリ又第二百九十五條ニ於テ抗告期間モ亦三日

トアリテ此等上訴ノ場合ハ即チ日ヲ以テ起算スヘキ場合ノ例ナリ而シテ日ヲ以テスルモノハ皆チ初日ヲ算入セサルハ他ナシ既ニ被告人ニ三日若クハ五日ノ期間ヲ與ヘタル以上ハ充分其日數ニ値タル間隙ヲ得セシメサルヘカラス而シテ被告人ニ在テハ此儘々ノ日子ハ千金ニモ換ヘ難キ場合アルヘキモノト想像セサルヘカラス即チ上訴ヲ爲スノ準備ハ此期間内ニ於テセサルヲ得サレハナリ然ルニ若シ日ヲ以テスルモノモ亦初日ヲ算内スヘキモノトセハ名ハ三日ノ期間ヲ與フルモ其實ハ二日強ニ過キサル結果ヲ來タスコトナシトスヘカラス何トナレハ裁判言渡ハ午後十二時迄ハ之ヲ爲シ得ヘキヲ以テ其言渡遲カリシトキハ全期間ヲ得セシムルコトヲ得サレハナリ故ニ被告人ノ權利伸暢ニ満足ヲ與ヘントセハ裁判言渡ノ翌日ヨリ起算セシメサルヘカラス是レ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セサルモノト法定シタ

ル所以ナリ

又若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入スヘカラストアルハ亦是レ被告人ニ満足ヲ與ヘ且ツ官吏ノ休息ヲ妨ケサル精神ニ出ツルモノトス若シ夫レ最終ノ日恰カモ一般ノ休日タル日曜又ハ大祭日ニ當ルモ尙且ツ之ヲ期間ニ算入スヘキモノトセハ前例ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ翌日ヨリ起算シ第三日目又ハ五日目カ休暇ニ當ルトキハ被告人ハ之カ爲メ貴重ノ上訴權ヲ利用スルコトヲ得サルニ因リ空ク怨ヲ吞ンテ止ムノ外ナカルヘシ若シ又休暇ニモ亦上訴ヲ審理スヘシトセハ官吏ヲシテ職務ヲ執ラシメサルヘカラス斯ノ如キハ實際ニ於テ甚ダ不都合ナリト云ハサルヘカラス故ニ最終ノ日カ休暇ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入スヘカラサルモノトセリ

然レモ時効ノ期間ニ至テハ前例ヲ以テ論スヘキモノニアラス何トナ

レハ時効ノ期間ハ犯罪ヲ爲シタル即日ヨリ生スヘキモノナレハナリ且ツ實際上ニ於テモ時効ノ期間内ニ於テ一モ爲スル要スルノ手續ナキヲ以テ犯罪ノ初日ヨリ起算スルモ絶ヘテ差支ナカルヘシ又最終ノ日カ休暇ニ當ルモ犯罪者ニ對シテ言渡ヲ爲シ又ハ書面提出ヲ要スル等ノ手續ヲ要スルニモアラス故ニ亦是レ期間ニ算入シテ毫モ差支ナカルヘシ是レ第一項ニ但書ヲ附加シタル所以ナリ

第二項ハ年月日ノ算數ヲ指示シタルニ過キサレトモ亦是レ被告人ノ利益ヲ全有セシムルカ爲メ甚ダ必要ナル規定ナリトス例ヘハ日ヲ以テスルモノニ僅々二三時間ヲ以テ一日トシ月ヲ以テスルモノニ二十八日(二月ノ日數)若シハ二十九日(閏年ノ場合)ヲ以テ一月トスルカ如キアラハ被告人ニ不利益ヲ與フル場合蓋シ少ナカラサルヘシ故ニ一日ハ二十四時間ヲ以テシ一月ハ三十日ヲ以テスヘキモノトセリ此規定

ニ依レハ二月一日ヨリ一ヶ月ヲ起算スルトキハ三月二日ヲ以テ滿期
間ト爲スヘキ割合ナリトス然レモ年ヲ以テスルモノニ付テハ三百六
十五日ヲ以テスルコト當然ニシテ假令閏年ニハ三百六十六日ノ數ヲ
得ヘシト雖モ僅カニ一日ノ差アルニ過キサレハ之カ爲メ利害ノ關係
ヲ生スヘキモノニアラス故ニ一年ト稱スルモノハ曆ニ從フヘキモノ
トセリ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎
ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿タサルモノト雖モ三
里以上ナルトキハ亦同シ
島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間
ヲ定ムルコトヲ得

本條ノ規定モ亦是レ民事訴訟法ノ規定(民事訴訟法第百六十七條)ト同

一ノ精神ニ出ツルモノニシテ要スルニ被告人ノ權利執行ノ爲メ所在
地ノ遠近ニ拘ハラズ平等ノ期間ヲ與ヘンコトヲ期シタル規定タルニ
外ナラズ若シ此法律ニ定メタル期間ハ一定不變ニシテ地ヲ隔テ、住
居スル被告人即チ裁判所ノ所在地ニ住居セサル者ニ對シテモ亦一日
ノ猶豫ヲモ與ヘサルモノトセハ令狀ノ到達日ヨリ幾日間ニ出頭スヘ
シトスル場合又ハ上訴期間ハ不變ニシテ全ク三日若クハ五日間ニ之
ヲ爲スヘシトスル場合等ニ於テハ被告人ニ不利ヲ與フルコト言フ俟
タサルヘシ番タニ不利ヲ與フルノミナラス實際ニ於テ爲シ能ハサル
ヘシ故ニ地ヲ隔ツル者ニ對シテハ相當ノ猶豫ヲ與ヘサルヘカラス是
レ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與ヘ八里ニ滿タサルモ三里以上ナル
トキハ亦一日ノ猶豫ヲ與フル所以ナリ而シテ八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ
與フルモノハ蓋シ人ノ脚力ハ一日間ニ八里許ヲ行クニ過キサルモノ

ト假定シ以テ充分ナル猶豫ヲ與ヘ裁判所々在地ニ到達シ能ハサルカ
爲メ權衡其均シキヲ得サルノ迷惑ヲ蒙ラシムルコトナカラシム期シ
タルニ外ナラス

然レモ島嶼又ハ外國ニ住居スル者ヲ召喚シ又ハ此者ニシテ上訴ヲ爲
サント要スル場合等ニ於テハ第一項ノ規定ニ從ハシムルコトヲ得サ
ルヘシ何トナレハ船舶渡航ノ斷續又ハ航路ノ難易風波ノ動靜等ハ豫
メ期シ得ヘキモノニアラサレハナリ故ニ民事訴訟法ニ於テモ裁判所
ハ外國又ハ島嶼ニ於テ住居ヲ有スル者ノ爲メ時ニ附加期間ヲ定ムル
コトヲ得トアリ刑事ニ於テモ亦然ラシメサルヘカラス是レ第二項ノ
規定ヲ設ケ島嶼又ハ外國ニ住居スル者ニ付テハ例外ヲ以テ論シ裁判
所ニ於テ特別ニ相當ノ附加期間ヲ定ムルモ不可ナキモノト法定シタ
ル所以ナリ

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル

期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴

訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

抑モ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間トハ何ソヤ假ヘハ
第二百五十二條ニ控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トスト
アルカ如キ又ハ第二百七十一條ニ上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタ
ル日ヨリ三日トストアリ又第二百七十三條ニ上告ヲ爲スニハ其申立
書ヲ原裁判所ニ差出シ且其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ趣意書ヲ
差出ス可シトアリ又第二百九十五條ニ抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリ
タル日ヨリ三日トストアル如キモノ是レナリ此等法律上ニ定メタル
期間ハ不變期間ニシテ之ヲ經過スルトキハ上訴權ヲ失フヘシトハ法
文上ニ掲ケタル要領ナリ而シテ此規定アルモノハ裁判ハ期間ノ經過

ヲ待テ真正不動ノ效果ヲ結了スヘシト云フニ出ツルモノカ否々然ラ
 ス神明ニアラサルヨリハ明法官ト雖モ豈ニ千慮ニ一失ナキヲ期スヘ
 ケンヤ寧ロ裁判ハ錯誤ヲ來タシ易キモノト論定セサルヘカラス否ラ
 サレハ上訴ノ道ヲ設クルノ必要アラサルナリ然レモ若シ上訴ニ一定
 ノ期間ヲ設クルハ非ナリトセハ裁判ノ確定ノ期ナキニ至ルヘシ果シ
 テ然ラハ今日無罪ノ言渡ヲ受ケサルモ何レノ日カ又更ラ有罪ノ言
 渡ヲ受クルナキヲ知ラスシテ之カ爲メ被告ノ地位ニ立ツ者ハ喘々乎
 トシテ其安心ヲ得ルノ期ナカルヘシ此理ヲ以テ推ストキハ裁判ノ錯
 誤ヲ避ケンカ爲メ上訴ノ道ヲ開クト同時ニ既ニ言渡シタル裁判ハ幾
 日ヲ以テ確定シ上訴權モ亦其日ヲ經過シタルトキハ當然消滅ニ歸ス
 ヘキモノト定メ置カサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ
 而シテ法文上ニ特別ノ場合云々トアルハ第二百七條第二項ノ規定ニ

於テ關席判決ヲ爲シタルトキ上訴ノ期間ノ告知又ハ記載アラサル場
 合ニ於テハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止シ又
 ハ第二百四十七條ノ規定ニ於テ訴訟關係人天災其他避ク可カラサル
 事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ説明シタルトキ
 ハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得ル場合
 等是レナリト知ルヘシ

第十八條 訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサル
 トキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否
 ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ツ
 ルコトヲ得ス

本條以下四條ハ書類ノ送達及ヒ作成ニ關スル要件ヲ規定シタル條項
 ニシテ本條ハ書類ノ送達ヲ受クヘキ訴訟關係人カ裁判所ノ所在地外

ニ住居スルトキハ裁判所ノ所在地ニ假住所ヲ定メテ其届出ヲ爲シ置クヘシ否ラサレハ受取人ノ所在分明ナラサルカ爲メ書類ノ送達ナキモ之ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得スト云フニ外ナラス而シテ訴訟關係人ト總稱スル範圍内ニハ檢事被告人民事原告人及ヒ民事擔當人等ヲ包含スルハ論ヲ俟タサルヘシト雖モ本條ノ規定ハ専ラ財産上ノ利益ニ關係アルヲ以テ本條ニ於テ訴訟關係人ト稱スル者ハ民事原告人及ヒ民事擔當人等ノ謂ヒタルニ過キサルモノト知ルヘシ何トナレハ裁判書類ノ送達ヲ受クルヲ以テ利益ヲ取得スヘキ者ハ民事原告人等ノ外ニ出テサレハナリ

爰ニ假住所云々トアルハ故ラコ一家ヲ設ケテ之ヲ届出ツヘシト云フニアラス唯書類ノ送達ヲ爲スニ付テ其受取人ノ所在ヲ定メ置クコトヲ必要トスルニ過キサルヲ以テ辨護士又ハ代言人等ノ家ヲ假住所ト

爲シ又ハ一定ノ旅店ニ宿泊シテ假住所ト爲スモ妨ケナキハ論ヲ俟タサルヘシ要スルニ假住所ヲ定メテ届出ヲ爲サ、ルトキハ怠慢ノ結果トシテ書類ノ送達ナキモ異議ノ申立ヲ爲シ得サルヲ以テ必ス假住所ヲ定メテ届出ツヘシト云フニ過キサルモノトス

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラ

サルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

本條ハ刑事書類ノ送達モ亦民事訴訟法ノ規定ヲ準用セハ以テ足レリトシ特ニ規定ヲ設クルノ必要ナキヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ畧シ民事訴訟法ノ規定ヲ準用シテ之ヲ爲サシムルコトヲ指示シタルニ過キザレハ特ニ説明ヲ要スルノ點ナキモノトス姑ク舊法ニ依レハ「訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則アラサルトキハ書記其送達書ヲ作リ書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシメ又若シ書類ノ送達ヲ受

クヘキ者裁判所ノ管轄地外ニ在ルトキハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達
 ノコトヲ囑託ス可シ云々等數條ノ規定ヲ要シタレモ此等ノ手續ハ民
 事訴訟法第三百三十六條乃至第五百五十八條ニ詳細之ヲ掲ケテ明瞭ナリ
 故ニ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルトキハ右等ノ手續ヲ掲クルノ必要
 ナシ是ヲ以テ新法ニ於テハ之ヲ削除シ之ニ換フルニ本條ノ規定ヲ以
 テシタルモノトス而シテ刑事ノ書類送達ニ關シ民事訴訟法ノ規定ヲ
 準用スルハ民刑混淆スルノ觀ヲ呈スルモノ、如シト雖モ是等ノ事務
 ハ其文字ノ指示スルカ如ク既ニ裁判所ニ於テ作成シタル書類ヲ送達
 スルニ過キスシテ其取扱上ニ於テ民刑ノ區別ニ因リ手續ヲ異ニスヘ
 キ要ナシ故ニ民刑同一ノ規定ニ依ルモ毫モ不都合ヲ生スルコトナカ
 ルヘキモノトス是レ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スル所以ナリ
 然レモ此法律ニ於テ特別ニ規定シタルモノニ付テハ民事訴訟法ノ規

定ニ因ルヘキモノニアラス何トナレハ送達ノ遲速ニ因リ被告人ニ利
 害ノ關係ヲ及ボスヘキ場合アレハナリ例ヘハ第六十九條ニ於テ豫審
 判事カ直チニ召喚狀ヲ發スル場合等是レナリ是レ法文上此法律ニ於
 テ別ニ規定アラサルトキハ云々トアル所以ナリ

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公
 署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印
 シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署、公署ノ印ヲ用井ルコ
 ト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規
 定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ
 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ
 署名捺印スヘシ若シ署名捺印スルコト能ハサルト
 キハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ除ク外

立會人代署シ其事由ヲ記載スヘシ

本條ハ書類作成ノ方式ヲ規定シタルニ過キスシテ意味單純トシテ説明ヲ要スルノ點ナキカ如シト雖モ書類ニハ公書ト私書トノ區別アルヲ以テ本條ハ之ヲ二項ニ分割シ公私各箇ニ規定シタルモノトス故ニ聊カ其要點ニ就テ説明ヲ下スヘシ

第一項ハ公書作成ノ方式ニシテ官吏、公吏ノ作成スヘキ書類コトハ總テ「其所屬官署、公署ノ印」ヲ用非シムルモノト官吏、公吏カ其職務上ニ於テ之ヲ作りタルコトヲ明カニスルカ爲メナリ又之ニ年月日ヲ記載セシムルハ官吏、公吏ノ資格ヲ有シタル時ニ之ヲ作りタルコト、正ニ何年何月何日ニ之ヲ作りタルニ相違ナキコト、ヲ明カニスルカ爲メナリ又場所ヲ記載セシムルハ正ニ其管轄内ニ於テ爲シタルコト等ヲ明カニスルカ爲メナリ又之ニ署名捺印セシムルハ官吏、公吏中誰レノ手ニ

成リシモノナルコトヲ明カニスルカ爲メナリ又、毎葉ニ契印セシムルハ官吏、公吏ノ作りタル書類ハ幾枚ナルコトヲ明カニシ後日ニ至リ紙數ヲ増減スルノ憂ヲ防カンカ爲メナリ而シテ若シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合云々トアルハ突然現行犯ノ發シタル場合等ニ於テ其調書又ハ告訴狀ヲ作ルノ際所屬ノ官署又ハ公署ニ到ルノ暇アラサル場合等是レナリ

爰ニ官吏トアルハ判事、檢事、裁判所書記、司法警察官、林務官、巡查及ヒ憲兵卒等ヲ包含シ公吏トアルハ身分取扱吏、執達吏、公證人等ヲ包含スルモノトス

第二項ハ私書作成ノ方式ニシテ即チ判事、檢事、裁判所書記、司法警察官、林務官、巡查及ヒ憲兵卒又ハ公吏等ニアラサル者ノ作ルヘキ書類ニシテ所謂告訴人若クハ告發人等ノ作ルヘキ書類タルニ過キサレハ本人

自ラ署名捺印シテ其手ニ成リタルコトヲ明カニスレハ以テ足レリト
 ス然レモ其者文字ヲ知ラサルカ又ハ文字ヲ知ルモ疾病ノ爲メ筆ヲ探
 リ得サル等ニ因リ署名捺印スルコト能ハサル場合ナシトスヘカラス
 故ニ其書類カ官吏公吏ノ面前ニ於テ成リタルトキハ其正確ナルコト
 明カナルヲ以テ署名捺印ナキモ可ナリトスレモ他ノ場所ニ於テ作リ
 タル書類ニハ立會人代署シテ其事由即チ本人自ラ署名捺印スルコト
 能ハサル事由ヲ記載スヘキモノトス否ヲサレハ其効力ナキコト亦尙
 ホ公書作成コ付キ官吏公吏カ第一項ノ規定ニ違背シタルトキ其書類
 ノ効ナシトスルニ異ナラサルヲ知ルヘシ何トナレハ本人ノ署名捺印
 ヲ欠キ又立會人ノ代署モナキ書類ハ其眞偽ヲ判定スルコトヲ得サレ
 ハナリ

第二十一條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書

類ノ原本正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス
 ヘカラス若シ挿入削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ
 之ニ認印スヘシ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘ
 キ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キ
 タルトキハ其變更増減ノ効ナカルヘシ

本條ハ官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ヲ作成スル場合ニ於
 テ變更増減ヲ加ヘタルトキ宜ク適用スヘキ手續ヲ規定シタルニ外ナ
 ラス故ニ一々説明ヲ下スノ必要ナキモノトシ單ニ法文中解シ易カラ
 サルモノニ付テ説明ヲ與フヘシ
 文字ノ「改竄」トハ最初書シタル文字ヲ改メ其上ニ再ヒ他ノ文字ヲ書シ
 タルモノ、謂ヒニシテ例ヘハ刑ノ字ニ筆ヲ加ヘテ則ノ字ニ改メタル
 ノ類ニシテ到底分明ニ讀得ヘカラサルヲ以テ之ヲ禁スルモノトス又

挿入トハ既ニ書シタル文字ノ傍ヲニ或文字ヲ添記シ又削除トハ既ニ書シタル文字ヲ塗抹スルヲ云ヒ又欄外ノ記入トハ本文ノ脱字若クハ補字ヲ其外ニ添記スルヲ云フ此等ノモノハ後日ニ至リ何人ニモテ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ之ヲ防カントセハ之ニ認印シ以テ其本人ノ所爲タルコトヲ明確ナラシメサルヘカラス又文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀得ヘキ爲メ其儘字體ヲ存セシメ且其削除シタル字數ノ幾何ナルコトヲ記載セシメサルヘカラス否ラサレハ果シテ何等ノ文字ヲ削除シ且ツ幾字ナルヤヲ明確ナラシムルニ足ラサレハナリ

以上列擧スルモノハ即チ書類ニ變更若クハ増減ヲ要スル場合ニ於テ適用スヘキ規定ニシテ若シ此規定ニ違背スルトキハ其變更増減ノ効ナカルヘキモノトス是レ他ナシ本條ノ規定ニ依ラスシテ爲シタル變更若クハ増減ハ果シテ本人ノ爲シタルモノナルヤ否ヤヲ判知スヘカ

ラサレハナリ

第二十二條 此法律ハ頒布前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ

適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其効アリトス

凡ソ刑事ト民事ノ別ヲ問ハス事實ノ取調ヲ爲スニ付キ最モ其真正ヲ得セシメンカ爲メニ設ケタル新法ハ之ヲ既往ニ溯ラシムルコトヲ得ヘシトハ法律上ノ原則ナリ殊ニ裁判所ノ構成刑事訴訟ノ手續等ニ付テ制定シタル法律ハ社會ノ利益ノ爲メニ設ケタルト被告人ノ利益ノ爲メニ設ケタルトヲ問ハス苟モ事實ノ取調ニ於テ真正ヲ得セシメンカ爲メニ設ケタルモノニ屬スルトキハ當然之ヲ既往ニ溯ラシメテ不可ナカルヘシ何トナレハ新法制定ノ目的ハ從來ノ法律完全ナラサル

ニ付キ之ヲ修正シテ其完全ヲ致サシムルニ在レハナリ即チ舊治罪法
 ヲ修正シ更ニ此刑事訴訟法ヲ規定シタルカ如キ是レナリ而シテ此法
 律ノ精神ハ全ク刑事訴訟手續ノ未ダ完全ナラサルモノヲ修正シ以テ
 事實ノ眞正ヲ得セシムルニ在ルコト明カナリトセハ假令此法律ノ頒
 布以前ニ係ル犯罪ニ對スルモ亦之ヲ適用シテ可ナルハ論ヲ俟タサル
 ヘシ何トナレハ此法律ノ頒布以前ニ係ル犯罪ナリト云フノ故ヲ以テ
 不完全ナル舊法律ニ因テ審判ヲ爲サシムルハ社會ノ爲メニモ又被告
 人ノ爲メニモ決シテ利益ナラサレハナリ是レ本條第一項ノ規定アル
 所以ナリ

然リ而シテ完全無缺ナル新法ハ之ヲ舊法時代ノ犯罪ニ適用シテ可ナ
 リトスルハ一般學者ノ是認スル所ニシテ一人ノ反對說ヲ唱フル者ナ
 シト雖モ其立論ノ方針ニ至テハ二様ニ分カル、モノ、如ク然リ即チ

甲論者ハ曰ク法律ハ既往ニ溯ラシムヘキモノニアラストスル原則ハ
 吾人ノ既得權ヲ害スル場合ニ於テノミ之ヲ適用スヘキナリ即チ犯罪
 人ノ身體ニ及ホスヘキ刑罰ノ如キハ犯罪當時ノ法律ニ依テ之ヲ處斷
 シ犯罪以後ニ制定シタル刑罰ヲ以テ之ヲ處斷スヘキモノニアラス之
 ニ反シテ新タニ制定シタル訴訟手續ノ如キハ之ヲ舊法律ニ比スレハ
 必ス幾分ノ善良ヲ加ヘタルモノト看做サ、ル可カラサルヲ以テ此新
 手續ニ依テ審判ヲ受ケシムルトキハ被告人ノ權利ヲシテ一層保全ナ
 ラシムヘキモ決シテ之ヲ妨害スヘキモノニアラス故ニ訴訟手續ニ關
 スル新法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用スヘシト雖モ敢テ
 之ヲ既往ニ溯ラシムルノ意ニ出ツルニアラスト
 乙論者ハ曰ク法律ハ既往ニ溯ラシムヘカラストノ原則ハ單ニ吾人ノ
 既得權ヲ害スル場合ニ於テノミ適用セシムルニアラス新タニ規定シ

タル訴訟手續ヲ以テ舊法時代ノ犯罪ニ及ホスヘシト云フカ如キモ亦是レ法律ヲシテ既往ニ溯ラシムルモノト云ハサルヘカラス唯舊法律ニ比スレハ訴訟關係人コ利害アルトスルモノ、ミ之ヲ適用セシムト云フニ過キスト此二説ノ要點ヲ擧クレハ甲論者ハ法律ハ既往ニ溯ルコトヲ得ストノ原則ハ被告人ノ既得權ヲ害スル場合ノミニ之ヲ適用スヘシ刑事訴訟手續ノ如キ決シテ既得權ヲ害セサルモノハ之ヲ頒布以前ノ犯罪ニ及ホスモ不可ナシト主張シ乙論者ハ法律ハ既往ニ溯ルコトヲ得ストハ必スシモ既得權ヲ害スル場合ノミニ限ルコアラスト主張シ其説ク所全ク反對ニ出ツルカ如シト雖モ訴訟手續ニ關スル新法律ノ如キハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ヘシト云フノ論決コ至テハ二者毫モ徑庭スル所アラサルナリ

予ヲ以テ之ヲ視レハ甲論者ノ説ハ途ニ彷徨シテ其論局ヲ結フコ苦ム

カ如ク乙論者ノ説ハ一方ニ偏倚シテ踰躰タルカ如シ予ハ斷言セン法律ハ既往ニ溯ルコトヲ得ストハ單ニ人ノ既得權ヲ害スル場合ニ限ルヘキノミ新法ヲ以テ舊法時代ノ犯罪ニ適用シテ被告ニ利益アルコト明カナル以上ハ之ヲ既往ニ溯ラシムルモ亦決シテ不可ナシト願フニ立法官ノ意見モ亦此點ニ出テ、本條ノ規定アリシモノト論決シテ不可ナキヲ信スルナリ

然レモ新法ヲ以テ既往ニ溯ラシムルカ爲メ被告人ニ不利益ヲ與フル場合ニ於テハ之ヲ爲スヘキモノニアラス即チ新法頒布以前ニ爲シタル訴訟手續カ當時ノ法律ニ違背セサリシニモ拘ラス之ヲ無効ニ歸セシムルカ如キハ敢テ之ヲ避ケサルヘカラス例ヘハ被告人ハ舊法ニ依テ既ニ取調ヲ受ケ將サニ裁判ノ言渡アラントスルニ臨ンテ新法ノ頒布ニ遇ヒ之カ爲メ舊法ニ依テ爲シタル手續カ無効ニ歸スルニ因リ既

ニ舉ケタル證據モ亦烏有ニ歸セシムルカ如キアラハ實ニ被告人ニ不利益ヲ感セシムルコト僅少ナラサルヘシ故ニ此等ノ場合ニ於テハ強ヒテ新法ヲ適用セシムヘキモノニアラス是レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス

陸海軍ニ關スル犯罪ハ何レノ邦國ト雖モ特別ニ規定シタル法律ヲ以テ之ヲ處斷シ普通ノ刑事訴訟法ヲ適用スルモノアルヲ聞カス是レ他ナシ普通ノ刑事訴訟法ハ專ラ人民ノ權利ヲ保護シ財產ヲ保全スルヲ以テ其主眼ト爲シ一種特別ナル刑事犯罪ニ適用スヘキモノニアラサルハナリ

然レモ何レノ場合ト雖モ普通ノ刑事訴訟法ハ之ヲ陸海軍人ノ犯罪ニ

適用スルコトヲ得サルモノトモハ亦訴訟關係人ニ不利益ヲ與フル場合ナシトスヘカラス例ヘハ軍事犯罪ニ付キ證人ヲ要スル場合等是レナリ故ニ此法律ハ陸海軍人ニ適用スヘキニアラストスルモ亦幾分カ餘地ヲ存セシメ置カサルヘカラス是レ此法律ハ陸海軍ニ關スル特別法律ヲ以テ處分スヘキ者ニシテ適用スルコトヲ得ストノ規定ヲ設ケテ以テ多少ノ餘地ヲ存セシメタル所以ナリ

第二十四條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百

十四條第百十五條ノ規定ニ從フ

刑法ト刑事訴訟法トハ亦猶モ民法ト民事訴訟法トノ關係ニ於ケルカ如ク二者相待ツコアラサレハ其効用ヲ爲スヘキモノニアラス故ニ刑法ノ規定ト刑事訴訟法トノ規定ヲシテ抵觸スルコトナカラシムルヲ要スルハ勿論ナリ是レ此法律ニ於テ親屬ト稱スルモノハ刑法上ノ規

定ニ從ハシムル所以ナリ而シテ刑事訴訟法ニ於テ親屬ノ問題ハ裁判官等ノ忌避又ハ除斥或ハ證人ノ資格有無ニ關シテ生スルモノトス

第二編 裁判所

本編ハ裁判所ノ管轄及ヒ裁判所職員ノ除斥忌避回避ニ關スル規定ヲ掲載シ之ヲ二章ニ區別シテ二十條ヲ包有ス舊治罪法第二編ニハ刑事裁判所ノ構成及ヒ權限ニ關スル規定アリシト雖モ特ニ裁判所構成法ノ頒布アリシヲ以テ新法ニハ構成法ニ規定ナキモノ、ミヲ掲ケリ是レ舊治罪法第二編ニ存セシ數多、條規ヲ削除シテ僅カニ本編第一章中裁判所ノ管轄ニ關スル細則數條ヲ保持シタル所以ナリ而シテ本編第二章ノ規定ハ舊治罪法中處々ニ雜記シタルモノヲ合セテ其趣旨ヲ一處ニ大成シタルモノトス(舊治罪法第四十七條第二百三十七條乃至第二百四十五條及ヒ第二百七十九條乃至第二百八十二條參看)

第一章 裁判所ノ管轄

第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

本章ニ掲ケル裁判所ノ管轄ハ特ニ其管轄スル土地ノ範圍ヲ謂フニ止マラメントテ諸般ノ管轄ヲ指シタルモノトス管轄トハ佛語ニ之ヲ「コン」ペタンスト云ヒ單ニ司法權ニ付キ解セハ訴訟事件ヲ裁判スル權利ノ義ナリト雖モ廣ク解セハ總テ職權ノ及フ定限即チ權限ノ義ナリ抑モ權限ノ區別ハ社會百般ノ機關構成上ニ於テ之ヲ明カニセサルヘカラス若シ此權限ノ區別明カナラサラン乎甚シキハ行政權ニシテ司法權

ヲ侵シ或ハ司法權ヲ以テ立法權ヲ奪ヒ遂ニ秩序紊亂事務滯滞ノ憂ヒ
 ヲ免レント欲スルモ能ハサルニ至ルハ必然ナリ裁判管轄モ亦然リ其
 區別明確ナラサルトキハ一事件ニ關シテ或ハ數箇ノ裁判所管轄ヲ爭
 ヒ或ハ又其反對ニ何レノ裁判所モ管轄ヲ拒絕スルニ至ルコトナシト
 セス然ルトキハ其裁判ニ停滯ヲ來タスコト數ノ免レサル所トス訴訟
 人ノ不幸果シテ如何シヤ故ニ裁判所管轄ノ區別ハ之ヲ明瞭ニセサル
 ヘカラス然リト雖モ管轄ノ問題ハ民事ト刑事トヲ分タス訴訟中最モ
 困難ナル一ニ居ルモノトス今之ヲ學理ニ照シテ細別スレハ凡ソ左ノ
 如シ

- 第一 審級ニ因ル管轄
- 第二 犯罪ノ種類ニ因ル管轄
- 第三 犯罪ノ關係ニ因ル管轄

第四 犯罪ノ性質ニ因ル管轄
 第五 犯罪ノ場所又ハ被告人ノ所在地ニ因ル管轄
 第六 被告人ノ身分ニ因ル管轄

本條第一項ニ掲クル犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄トハ雷タニ右
 ノ第二ノ管轄ヲ指示スルノミナラス第三及ヒ第五ヲ除クノ外他ハ皆
 其中ニ包含スルモノト知ルヘシ何トナレハ第一第二第四及ヒ第六ノ
 管轄ハ裁判所構成法第十六條第二十七條第三十七條及ヒ第五十條中
 ニ規定シアレハナリ而シテ本章ニ於テハ第三及ヒ第五ノモノ并ニ管
 轄裁判所ノ指定ニ關シ及裁判管轄ノ移付ニ付テノ原則ヲ規定シタリ
 之ヲ要スルニ裁判所ノ權限ニ屬スル管轄ノ問題ハ總テ之ヲ裁判所構
 成法ニ規定シ而シテ其權限ニ屬スルヨリモ寧ロ訴訟手續ニ屬スル管
 轄ノ問題ヲ本章ニ掲載シタルモノト知ルヘシ蓋シ本法ハ刑法ノ實法

タル一箇ノ訴訟法ナルヲ以テ立法上ノ體裁ニ當サニ此ノ如クナルヘ
 キヲ良シトス
 其レ然リ裁判所ノ管轄ニ關スル要件ハ之ヲ裁判所構成法中ニ規定シ
 ヲルヲ以テ其管轄ニ付テハ裁判所構成法ノ規定ニ從ハシメサルヘカ
 ラズ是レ本條第一項ニ於テ特ニ之ヲ指示シタル所以ナリ尙ホ該管轄
 ニ關スル詳細ノ要點ハ予カ曩キニ著述シタル裁判所構成法註釋ニ讓
 リ敢テ爰ニ贅セズ讀者宜ク該法ノ解ヲ參觀スヘシ
 本條第二項ノ場合ハ例ヘハ爰ニ違警罪、輕罪及ヒ重罪ノ數罪ヲ犯セシ
 者ニ對シ同時ニ其數罪ノ公訴起リタルトキハ其各犯罪ノ相當管轄裁
 判所タル區裁判所ト地方裁判所トニ於テ之ヲ裁判スルコトヲ要セス
 區裁判所ニ比シテ上級タル地方裁判所ニ於テ其數罪ヲ併セテ裁判ス
 ヘシト云フモノ即チ是レナリ蓋シ犯罪ノ種類ニ因レル管轄ハ素ト其

關係ノ大小輕重ノ差異ニ基キ訴訟審理ノ難易及ヒ繁簡ノ區別ヲ想像
 シテ該手續ノ詳密ニ涉ルヲ要スルト否トヲ定メタルニ在ルヲ以テ右
 ノ場合ニ於ケル權限一層大ナル上級裁判所ニ於テ數箇ノ犯罪ヲ併セ
 テ之ヲ管轄セシムルトキハ各箇ノ犯罪ヲ各別ニ數箇ノ裁判所ニ於テ
 審理セシムルニ比較シテ事實ノ真正ヲ得ルニ最モ便利ニシテ且ツ時
 日ヲ浪費スルノ憂ナカルヘキハ敢テ疑ヲ容レサルヘシ矧ンヤ數罪俱
 發ノ場合ニ於テハ一ノ重キニ從テ處斷スヘキ刑法第百條以下ノ規定
 アルニ於テラヤ是レ本條第二條ノ設アル所以ナリ
 第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被
 告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄
 ナリトス

爰ニ一箇ノ犯罪アリ而シテ其犯罪ハ輕罪若クハ重罪タルコト明瞭ナ

舊法ノ規定ヲ存シ被告人ノ所在ノ地ノ裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス
 ルハ犯罪ノ地分明ナラサル場合ニハミ限ルモノトスルニ如カサルハ
 シト然レモ實際ニ於テハ其不都合ヲ生スルコト殆ント希レナルハ
 何トモレハ一箇ノ犯罪ニ付キ數箇ノ裁判所ニ於テ同時ニ豫審又ハ公
 判ニ着手シタル實例ヲ未ダ見セレハナリ且ツ被告人ヲ逮捕スルニハ
 現行犯ノ場合ヲ除クノ外豫審判事ヨリ令狀ヲ發シ此令狀ニ依テ逮捕
 セサルヘカラス然ルニ舊治罪法ニ於ケルカ如ク犯罪ノ地ニアラサル
 處ノ裁判所其管轄權ヲ有セサルヲ原則トスルトキハ犯罪ノ地ノ裁判
 所ヨリ囑托スルニアラサレハ被告人所在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ逮捕
 スルヲ得サルコト往々ナリヘキカ故ニ現在被告人ノ住居スルコトヲ
 知リツ、之ニ着手スルコトヲ得サルカ爲メ被告人ヲシテ再ヒ逃亡セ
 シムルノ憂少ナカラサルヘシ故ニ其管轄權ハ被告人所在地ノ裁判所

ニ於テモ亦之ヲ有スルモノト定メタルモノトス

第二十七條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ

其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ
 以テ其管轄ナリトス

本條ノ規定ハ前二條ノ副則タル關係ヲ有スルモノト云フヘシ前條ニ
 於テ一個ノ犯罪ニ付キ通常二箇ノ管轄權ヲ有セシメリ即チ犯罪地ノ
 裁判所及ヒ被告人所在地ノ裁判所是レナリ夫レ斯ク如ク一箇ノ犯罪
 ニ付キ既ニ二箇ノ管轄裁判所アル以上ハ其中孰レカ一ニ裁判セシム
 ヘキ方法ヲ指定セサルヘカラス他ナシ一箇ノ犯罪ニ付キ二箇同等ノ
 裁判所ニ於テ裁判セシムヘキニアラサレハナリ而シテ法律ハ豫審又
 ハ公判ニ先キニ着手シタル裁判所ヲ選擇シテ之ニ其犯罪ヲ裁判スヘ
 キ實權ヲ委テタリ蓋シ他ニ事件ヲ移スヘキ理由アルニアラス殊ニ若

シ之ヲ他ニ移ストキハ訴訟手續更ニ新ニナリテ自然裁判ノ延滞ヲ免
 カレサレハナリ右ハ一個ノ犯罪ヲ想像シテ陳述シタルニ過キスト雖
 凡數箇ノ犯罪ニ付キ數箇ノ裁判所ニ管轄權ノ屬スル場合ニ於テモ亦
 其管轄權ヲ有スル裁判所中最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ
 以テ結局裁判ノ實權ヲ執ラシムル點ニ於テハ全ク同一ノ理トス
 然レモ甲ノ裁判所ニ於テ既ニ豫審又ハ公判ニ着手シタルコトヲ乙以
 下ノ裁判所ニ於テ之ヲ知り得サリシ場合又ハ乙裁判所ニ於テ最モ先
 キニ豫審又ハ公判ニ着手シタルコトヲ其他ノ裁判所ニ於テ知り得サ
 リシ場合ニ於テハ猶ホ二様ノ裁判ヲ與フルコトナシトスヘカラス此
 場合ニ於テハ其二様ノ裁判カ如何ナル效果ヲ生スヘキヤトスルハ蓋
 シ是レ或者ノ疑ヲ容ル、所ナルヘシト雖モ法文上最初豫審又ハ公判
 ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトストアル以上ハ第二以下ニ

着手シタル裁判所ハ其手續ヲ廢止スヘキハ勿論タルノミナミナラス
 假令ヘ其判決ヲ爲スコトアルモ是レ管轄違ニ屬スルヲ以テ其無効ヲ
 ルコト論ヲ俟タサルヘシ何トナレハ若シ第二ニ着手シタル豫審又ハ
 公判ノ結果ヲ有効ナラシムルトキハ全ク本條ノ規定ニ背馳スルモノ
 ト云ハサルヲ得サレハナリ其レ然リ第二以下ニ着手シタル豫審又ハ
 公判ノ結果ハ無効タルコト當然ナルヲ以テ例ヘハ一犯罪ニ付キ最初
 豫審又ハ公判ニ着手シタル甲裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場
 合ニ於テ乙裁判所カ假令ヘ該犯罪ニ對シテ有罪ノ言渡ヲ爲スコトア
 ルモ決シテ該被告人ヲシテ有罪ノ處分ヲ受ケシムルコトヲ得サルハ
 明瞭ナリ

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其
 管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ
其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ
以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ
犯罪ニ於テハ其正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大
審院ニ於テ之ヲ管轄ス

刑法第一編第八章ニ定ムルカ如ク數人共犯ノ罪ニハ正從ノ區別アリ
正從犯ノ何タルハ刑法ノ說明ニ屬スルヲ以テ爰ニ之ヲ略ス此ニ於テ
ハ唯從犯ハ何ヲ以テ正犯ノ管轄裁判所ニ從フヲ通則トスルヤヲ說明
スルヲ以テ足レリトス若シ從犯ト正犯トノ豫審及ヒ公判ヲ二個ノ裁
判所ニ於テ各別ニ行フアラハ往々事實ヲ誤リ易シ其真正ヲ得ルヲ常
ニ難シト推定セサルヘカラス何トナレハ殺人罪ト云ヒ竊盜犯ト云ヒ

正從ノ區別ニ因リ其管轄ヲ異ニスルトキハ犯罪ノ連脈ヲ詳悉シ事實
ノ真正ヲ明確ナラシムルコト能ハサレハナリ故ニ正犯ト從犯トヲ合
シテ一箇ノ裁判所ニ於テ裁判セサルヘカラスルコト其レ斯ク如ク明
瞭ナリ其レ然ル以上ハ從ノ正ニ從フヘキコト理ノ當然ナルニアラス
ヤ是レ本條第一項ノ規定ニ於テ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ
其管轄ナリトシタル所以ナリ而シテ此規定ニ依レハ正犯ノ管轄カ第
二十六條ノ規定ニ依リテ定マリタルトキハ其從犯ハ何レノ地ニ於テ
爲シタルヲ問ハス正犯ヲ管轄スル裁判所ニ於テ併セテ之ヲ審判スヘ
キモノト知ルヘシ

第二項ノ正犯數名アリテ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル場合トハ例ヘ
ハ持兇器強盜ノ罪ヲ現ニ犯シタルモノ數人アリトセンニ其數人ハ刑
法第四百條ノ定義ニ據ルモ皆ナ正犯ナルコト疑ヲ容レス而シテ其犯

罪後其正犯各所在地ヲ異ニスルハ如キ是レナリ何トナレハ此場合ニ於テハ犯罪地ノ裁判所及ヒ正犯者各自ノ所在地ノ裁判所ハ皆テ第二十六條ノ原則ニ從ヒ管轄裁判所トナレハナリ此各箇ノ裁判所カ各別ニ爲シタル審判ハ亦各別ニ其効力ヲ生スヘキモノトセハ裁判ノ抵觸ヲ免カレサルヘシ是レ數箇ノ裁判所ニ屬スル正犯カ數名アリタルトキハ亦第二十六條ト同一ノ標準ヲ以テ其管轄ヲ定ムヘキモノト規定シタル所以ナリ

第三項ハ犯罪ノ正從ヲ問ハス大審院ノ管轄ニ專屬スヘキモノヲ指示シタルニ外ナラス即チ裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ刑ニ處スヘキモノニ付テハ其正犯若シハ從犯即チ皇族ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメ若クハ皇族ノ犯罪ヲ幫助シタル者ハ皇族ナルト否トノ身分如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ

管轄スヘキモノトス是レ他ナシ皇族以外ノ者ニ屬スル犯罪ハ區裁判所若クハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキコト當然ナリト雖モ皇族ト他ノ身分ニ屬スル者トヲ區別シテ數箇ノ裁判所ニ於テ之ヲ審判セシムルトキハ亦是レ事實ノ真正ヲ誤リ易キヲ以テナリ殊ニ皇族ノ犯罪ニ關スルモノニシテ其事實ノ真正ヲ誤リ易キノ憂アルニ拘ハラヌ尙ホ且ツ數箇ノ裁判所ニ於テ管轄權ヲ有セシムルトキハ裁判所構成法第五十條第二號ニ定メタル原則モ亦有名無實ニ歸スルノ場合ナシトスヘカラス是レ皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス皇族ニ附隨シテ大審院ノ審判ヲ受ケシムル所以ナリ

第二十九條 外國ニ在リテ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘキモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナ

リトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

關席判決ヲナスヘキ場合ニ於テハ被告人最後ノ地

ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

本條ハ本邦人カ外國ニ於テ犯シタル罪ニ關スル管轄法ヲ規定シタルニ過キス其レ然リ本邦人カ如何ナル罪ヲ外國ニ於テ犯シタルトキハ本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘキモノナルヤ此問題ハ專ラ刑法ノ規定ニ屬スヘキモノトス然レモ現行ノ刑法ニ於テ其規定ナシ是レ實ニ一大欠典トス不日頒布ニナルヘキ改正刑法中其規定アルヤ必セリ故ニ本條ヲ講スルニ際シテハ本邦人カ外國ニ於テ犯シタル罪ニシテ罰スヘキモノト否トノ區別ハ刑法中既ニ存スルモノト先ツ假定スルコトヲ要ス

抑モ本邦人カ外國ニ於テ犯シタル罪ニシテ本邦ノ法律ニ依リテ處斷スヘキモノアリトセンニ犯人尙ホ外國ニ居留スル間ハ本邦法律ノ効力ヲ及ホシ得ヘキコトアラス故ニ内地ニ於テ之ヲ逮捕シタルトキニアラサレハ之ヲ處斷スルコトヲ得サルニ因リ果シテ之ヲ逮捕シタルトキハ其逮捕シタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其審判ノ管轄ナリトセリ
斯ノ如ク逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスル所以ハ他ナシ元來其罪ハ外國ニ在リテ犯シタル罪ニシテ犯罪ノ地ヲ以テ管轄トスル正則ヲ適用シ得ヘキコトアラス故ニ第二十六條ニ掲ケタル又ハ被告人所在ノ地トアル規定ヲ適用スルノ外ナカルヘシ是レ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリト定メタル所以ナリ
又外國ニ在テ犯シタル罪ニシテ外國ヨリ其被告人ヲ送致シタル場合

ニ於テハ送致セラレタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其犯罪ノ管轄權
ヲ有スルモノトセリ是レ他ナシ其犯罪ハ前項ノ場合ト同シク外國ニ
於テ犯シタルモノニ係ルヲ以テ其管轄モ亦前項ニ掲クル標準ニ從フ
ヘキコト當然ナレハナリ

第二項ノ法文ハ曖昧トシテ了解ニ苦シムノ點アリ何ソヤ曰ク闕席判
決ヲ爲スヘキ場合トハ一般ノ犯罪ニ付キ欠席判決ヲ爲シタル場合ヲ
指シタルモノナルヤ將タ外國ニ於テ犯シタル罪ニ付キ闕席判決ヲ爲
スヘキ場合ヲ指シタルモノナルヤ如何ノ問題はレナリ
法文其明ヲ欠クルハ辨明ノ力ヲ以テ其藏ムル所ノ精神ヲ看破セサル
ヘカラス蓋シ欠席判決云々ノ語ハ特ニ外國ニ於テ犯シタル罪ヲ指シ
タルモノナルヘシ其理由ハ前項ノ法文ヲ受ケタル本項ノ法文ナルヲ
以テ犯地ノ常ニ外國ニ係ルモノト想像セサルヲ得サルト一般ノ犯罪

ニ付テ闕席判決ヲ爲スヘキ場合ハ第二百二十六條及ヒ第二百二十七
條ニ規定シタル所ニ據レハ本項中被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ
以テ其管轄ナリトストアル法文ハ特ニ外國ニ於テ犯シタル罪ニ付キ
欠席裁判ヲ爲スヘキ場合ニ限り適用スルコトヲ得ルモノ、如ク見ユ
ルトニ依リテ然ルモノトス其レ然リ果シテ然ラハ外國ニ於テ犯シタ
ル罪ニシテ如何ナルモノハ本邦ニ於テ欠席判決ヲ爲スヘキモノナル
ヤ是レ亦刑法ノ規定ヲ俟テ後ニアラサレハ知ル可カラサルナリ

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後

最初ニ着船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリト
ス

海洋航行ノ船舶内ニ於テ犯シタル罪ニ關スル管轄ハ舊治罪法中ニ之
ヲ規定セス唯タ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムトノ一條ヲ設ケタルニ過キ

サリキ(舊治罪法中第四十六條參看其後明治十四年十二月二十五日第六十五號ノ布告ヲ以テ商船内ノ犯罪ニ關スル訴訟手續ヲ規定セラレタリト雖モ亦是レ刑事訴訟法中ニ掲クヘキモノタルコトハ論ヲ俟タサルヘシ何トナレハ刑事訴訟法ハ總テノ犯罪ヲ包含スヘキモノナレハナリ故ニ新法ニ於テハ之ヲ掲ケ即チ本條ノ規定ヲ加設セラレタリ是レ刑事訴訟法ト舊治罪法ト差違スルモノ、中ニ就テ最モ顯著ナルモノ、一ナリトス

此海船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ其船舶ノ一定シタル繫留港又ハ犯罪後ニ於テ最初ニ着船シタル地ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ト爲シタルモノハ他ナシ海船内ニ於テ犯シタル罪カ其船舶ノ定繫スル港内ニ在リシトキハ其港ヲ管轄スル裁判所即チ横濱ヲ定繫港ト爲シタルトキハ横濱地方裁判所又ハ其區裁判所ヲ以テ其管轄ト爲スコト

當然ナリト雖モ横濱ヨリ神戸ヲ經テ長崎ニ航行スル船舶ニ乗込ミタル者カ横濱ヨリ神戸マテノ間ニ於テ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ横濱ノ裁判所ヲシテ之ヲ管轄セシムヘキニアラス何トナレハ若シ定繫港ノ裁判所獨リ其管轄權ヲ有スルモノトセハ船舶ハ犯罪者アリシカ爲メ横濱ニ引返ヘシテ之ヲ引渡スカ若クハ再ヒ横濱ニ歸港スルマテ之ヲ船内ニ拘留シ置カサルヘカラサレハナリ是レ海船内ノ犯罪ニ付テハ犯罪後最初ニ着船シタル地ノ裁判所前例ノ場合ニ於テハ神戸ノ裁判所モ亦其管轄權ヲ有スルモノト定メタル所以ナリ

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

本條ハ例外ニ屬スル裁判管轄ノ場合ヲ指示シタルニ外ナラス即チ數

備ノ裁判所ニ關係スル犯罪ニシテ果シテ孰レノ裁判所ノ管轄ニ屬スヘキヤ明瞭ナラサル場合ニ於テハ訴訟關係人ニ於テ其管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲シ而シテ其管轄ヲ定メサルヘカラス此場合ニ於テ申請ヲ受理シ且ツ其決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノトス而シテ裁判所構成法第十條ノ規定ニハ法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除ク外適當ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ストアリテ例ヘハ數箇ノ區裁判所ニ關係アル犯罪ナルトキハ其各區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ右ノ申請ヲ提出シテ其管轄ノ指定ヲ求メ又ハ數箇ノ地方裁判所ニ關係アルトキハ其各地方裁判所ヲ管轄スル控訴院又或ハ數箇ノ控訴院ニ關係アルトキハ各控訴院ヲ管轄スル大審院ニ於テ該申請

ヲ受理決定スヘキモノトス尙ホ管轄裁判所ノ指定ヲ要スル場合等ニ關スル説明ハ予カ著述シタル裁判所構成法注釋ニ就テ參看スヘシ且ツ本條乃至第三十九條ハ舊治罪法第五編第三章及ヒ第四章ノ規定ヲ改正シテ本編ニ移サレタルモノニシテ亦是レ舊法改正中ノ顯著ナルモノトス

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事

其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定スヘキ場合ニ於テ

ハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ

其申請ヲ爲スコトヲ得

本條ハ前條ニ規定シタル管轄裁判所ノ指定ニ關スル申請權ヲ有スル者ノ何人タルヲ指示シタルニ外ナラス即チ法文ニ掲クルカ如ク檢事

其他本案訴訟ニ關係アル者ハ何人ト雖モ右ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス而シテ檢事其他ノ訴訟關係人ヲシテ皆ナ右ノ申請權ヲ有セシムルモノハ他ナシ檢事ハ公訴ヲ提起スル場合ニ於テ此權利ヲ利用スルノ必要ヲ生シ其他ノ訴訟關係人殊ニ民事原告人等カ私訴ヲ提起スル場合ニ於テ此權利ヲ有セサルトキハ第四條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サレハナリ之ヲ要スルニ本條第一項ノ規定ハ管轄裁判所ノ指定ヲ得サルカ爲メ途ニ彷徨シテ貴重ノ起訴權ヲ利用シ得サル等ノ憂ヒナカラシメンコトヲ期シ以テ起訴ノ道ヲ開通シタル精神ニ出ツルコ外ナラス故ニ或ル裁判所公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シ管轄違ノ言渡ヲ受ケタル場合等ニ於テ本條第一項ノ規定ヲ適用セハ頗ル訴訟關係人ニ利益アルモノト知ルヘシ

舊治罪法第四百四十八條ヲ參看スルニ同條ハ稍ヤ本條ト同一ノ精神

ニ出ツルコト明カナリト雖モ該條ニ於テハ管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲スヘキ場合ヲ列擧セラレタリ今新法ニ於テ此等ノ要件ヲ削除セラレタルモノハ他ナシ舊法ニ掲ケタル事項ノ如キハ悉ク之ヲ裁判所構成法第十條第一號乃至第四號ニ掲ケテ明瞭ナルニ因リ本法ニ於テハ既ニ蛇足ニ屬シタルモノナルヲ以テナリ

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其

趣意書ヲ差出スヘシ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定スヘシ

本條第一項ハ管轄裁判所ノ指定ニ付テ要スル申請手續ヲ規定シタルニ過キスシテ特ニ説明ヲ要スル點ナキモノトス

第二項ハ右ノ申請ヲ受理シタル裁判所ハ口頭辯論ヲ要セス申請人ヨ

リ差出シタル書類ニ依リテ直チニ其申請ノ當否ヲ決定スヘトシ云フニ外ナラズ而シテ右ノ申請ニ付キ口頭辯論ヲ要セサルモノハ他ナシ管轄裁判所ノ指定ハ急速ヲ要スルノミナラス其趣意單純ニシテ之カ爲メ口頭辯論ヲ開ク必要アラサレハナリ

第三十四條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ノ事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

本條ハ公安ヲ維持スルカ爲メ甲裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ヲ同等ナル乙裁判所ニ移スコトヲ得ヘキ例外ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ其場合ハ五箇アリトス曰ク第一犯罪ノ性質曰ク第二被告人ノ身分曰ク第三被告人ノ員數曰ク第四地方ノ民心曰ク第五以上ノ場合ノ外重

大ナル事情ニ由リ裁判所ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐レアルトキ是レナリ

第一犯罪ノ性質トハ國事犯若クハ兇徒嘯集ノ如キ犯罪ノ謂ヒニシテ此等ノ犯罪ニ付テハ其共謀者若クハ同意者カ被告人ヲ憫諒スルノ情念ヲ懷ケルヨリ之ヲ強奪セントシ又ハ被告人カ處刑ヲ受ルルトキハ地方ノ利害ニ影響スヘシトノ觀念ヲ以テ其審判ヲ妨害スルノ恐レナキニアラサルヘシ是ヲ以テ之ヲ他ノ裁判所ニ移スノ必要ヲ生スルコトアルモノトス

第二被告人ノ身分ニ關シテ管轄ヲ移スコトヲ要スル場合ハ種々アルヘシ或ハ其裁判所ノ裁判官自ラ犯罪人タル場合或ハ其他地方ノ重ナル行政官吏犯罪人タル場合ノ如キ是レナリ其他政黨政社ノ首領タル者カ其地方ニ於テ政治ニ關スル罪ヲ犯シタル場合モ亦然リトス平常

被告人ト其思想ヲ同フシ親密ノ交リヲ結ヘル過激ノ輩ハ動モスレハ死ヲ以テ被告人ヲ強奪シ若クハ其審判ヲ妨害スル等ノ密謀ヲ施スノ恐アルヲ以テ此場合ニ於テモ亦他ノ裁判所ニ移スコトヲ必要トスルコトアルモノトス

第三被告人ノ員數トハ被告人タル者數十名乃至數百名アル場合等ノ謂ニシテ此場合ニ於テ其朋友黨類夥多アルトキハ審判ニ對シ最モ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アルヲ以テ亦之ヲ他ノ裁判所ニ移スコトヲ必要トスルコトアルモノトス

第四地方ノ民心トハ犯罪地方ノ人民カ被告人ヲ敬慕シ若クハ厭惡スル情況アル場合等ノ謂ヒニシテ被告人ヲ敬慕スル場合ニ於テハ其罪ヲ輕フセント欲シ又被告人ヲ厭惡スル場合ニ於テハ其罪ヲ重カラシメント欲シ之カ爲メ亦其審判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生キ易キモトス

故ニ此等ノ場合ニ於テモ亦之ヲ他ノ裁判所ニ移スコトヲ得策トスルコトアリ

第五其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐レアルトキハ例ハ兇徒嘯集若クハ政治上ノ犯罪ニ付キ臆々ノ中ニ夥多ノ同類アリテ審判ニ際シテ暴動ヲ起サントスルノ色アルカ又ハ裁判官ニ對シテ復仇ヲ試ミント要スル情況ノ存スル場合等ノ謂ニシテ此等ノ場合ニ於テ紛擾又ハ危險ヲ未發ニ防遏セントセハ亦本案事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトヲ如クハナカルヘシ
以上ノ場合ニ於テ公安ヲ維持セントセハ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移シテ審判セシメサルヘカラス否ラサレハ恐ラク裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ免カレ難キモノト想像セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三十五條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スヘシ

本條ハ前條ノ規定ニ對シテ副則タル關係ヲ有スルモノニシテ即チ前條ヨハ公安ノ爲メ本案事件ヲ他ノ裁判所ニ移シ得ヘキ場合ヲ示シ本條ニハ前條ノ場合ニ於テ申請ヲ爲スヘキ者ノ何人タルコトヲ示サレタリ而シテ第一項ニ掲クルカ如ク公安ノ維持ヲ目的トシテ裁判管轄ヲ移スニ付テノ申請ハ司法大臣ノ特命ニ因リ檢事總長ヨリ大審院ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノト法定シタル所以ハ何ソヤ曰ク他ナシ公安ノ維持ヲ目的トシテ裁判管轄ヲ移スハ實ニ非常ノ場合ニ於ケル重大

ノ事項ニ屬スルノミナラス本案ノ審判ニ先チ國安ヲ害スルノ恐アリト推定スルカ如キ例外ナル重大ノ推定ニ至テハ司法大臣ヨアラサルヨリハ之ヲ爲スノ權ナキモノトスルコト當然ナレハナリ然レモ右ノ申請ヲ爲ス者ハ亦是レ社會ノ代理人タラサルヘカラス何トナレハ社會ノ利益ノ爲メニスル申請ナレハナリ是レ司法大臣ヨリ檢事總長ニ特命シテ之ヲ爲サシムヘキモノト規定シタル所以ナリ
第二項ハ第一項ニ掲ケタル申請ニ對スル決定手續ヲ規定シタルニ過キサレモ此申請ヲ爲スコ付テ訴訟關係人ノ申立如何ヲ聽クノ必要ナシ大審院ノ會議ヲ以テ直チニ決定スヘキモノト法定シタルハ蓋シ右ノ申請ハ公ノ利益ニ關シ一箇人タル訴訟關係人等ノ利害如何ニ拘泥スヘキモノニアラス公安ノ維持ニ付テハ一箇人ノ利害ヲ顧ミルニ邊アラサレハナリ

第三十六條 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模
様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサル恐ア
ルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所
ニ移スコトヲ得

本條ハ裁判ノ公平ヲ維持スルカ爲メ本案事件ヲ他ノ裁判所ニ移シ得
ヘキ場合ヲ指示シタル規定ナリ而シテ其場合ハ三箇ノ區別アリ曰ク
被告人ノ身分曰ク地方ノ民心曰ク訴訟ノ模様是レナリ而シテ此三箇
ノ場合ニ於テ本案事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコト必要トスル理由ハ左ニ
之ヲ説明スヘシ

第一被告人ノ身分トハ被告人カ曾テ其管轄裁判所ニ在勤シタル職員
ナリシカ又ハ管轄裁判所ニ在勤スル官吏ノ多數カ曾テ師トシテ薰陶
ヲ受ケタル者ニ係ル等ノ類ニシテ此等ノ被告人ニ對シテハ廉潔方正

ノ裁判官ト雖モ亦恐ラクハ情實ニ纏綿セラレテ裁判上公平ヲ失スル
ニ至ルコトナシトスヘカラス故ニ裁判ノ公平ヲ維持セントセハ宜ク
之ヲ他ノ裁判所ニ移スコト如クハナカルヘシ

第二地方ノ民心トハ例ヘハ刑法第二百六十七條以下ニ掲ケタル商業
又ハ農工ノ業ヲ妨害シタル犯罪ニ係リ即チ衆人ノ需用ニ缺クヘカラ
サル食用物ノ價額ヲ騰貴セシムル偽計ヲ行ヒタルニ原因シテ訴訟起
リ衆人其價額ノ騰貴シタルカ爲メ生計上ノ困難ヲ來タシタルヲ以テ
被告人ヲ激視スル場合又ハ或ル大工場ノ持主カ雇人ノ賃錢ヲ減セシ
メン爲メ威カヲ以テ雇人等ヲ壓制シタルニ原因スル訴訟ニ付キ雇人
ノ多數カ甚シク被告人ヲ怨望スル場合或ハ又株式會社ノ役員カ詐偽
ノ破産ヲ爲シ其他ノ人民ニ大損害ヲ加ヘタルカ爲メ一般ノ株主ニ仇
視セララル、場合等ニシテ此等ノ場合ニ於テハ裁判官ト雖モ亦民心ニ

背キ人情ニ悖ルニ忍ヒサル情實ノ存スルカ爲メ裁判ノ公平ヲ失スルニ至ルノ恐れナキニアラサルヘシ故ニ此等ノ場合ニ於テモ亦之ヲ他ノ裁判所ニ移スノ必要ヲ生スルコトアルモノトス

第三訴訟ノ模様トハ例ヘハ其訴訟タルヤ之ニ關涉スル裁判官ニ對シテ適切ニ除斥及ヒ忌避ヲ申立ツヘキ理由アルニアラス又ハ賄賂ヲ以テ其心證ヲ狂ケタル證據アルニアラスト雖モ或ハ訴訟關係人ト裁判所職員トノ平常ノ私交等アリタルカ爲メ自然何トナシ穩當ヲ欠クノ恐れアル場合ノ如キ是レナリ此等ノ場合ニ於テモ亦寧ロ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ審判セシムルニ如クハナカルヘシ

以上三箇ノ場合ニ於テハ法律上裁判官ニ於テ裁判ノ公平ヲ維持スルコト能ハサルモノト看做シ其嫌疑ヲ避ケル爲メ本條ノ規定ヲ適用シテ他ノ裁判所ニ移スモ不可ナキモノトセリ

第三十七條

嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ前條ニ掲ケタル裁判ノ公平ヲ失スルノ恐れアリトスル嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ申請ニ關スル手續ヲ規定シタルニ外ナナス而シテ公安ノ爲メニ申請スル場合ニ於テハ檢事總長之ヲ大審院ニ爲シ嫌疑ノ爲メニ申請スル場合ニ於テハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得トハ第一項ニ指示スル所ナリ同ク是レ裁判管轄ヲ移スノ申請ニシテ彼ハ檢事總長ニアラサレハ之ヲ